志木市の文化財　第68集

市場裏遺跡第23地点
城山遺跡第87地点
西原大塚遺跡第207地点
中野遺跡第95地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2017

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長　尾崎　健市

ここに刊行する『市場裏遺跡第23地点　城山遺跡第87地点　西原大塚遺跡第207地点　中野遺跡第95地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』は、平成27・28年度受託事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

市場裏遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡です。今回の第23地点の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡3軒が発見されました。第13地点における調査以来想定されてきた、遺跡北側に集落域、南側に方形周溝墓群が分布するという傾向が確認されたと言えます。

城山遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が検出される複合遺跡です。今回の第87地点では、縄文時代の炉穴やピットが多く発見されました。また、縄文時代後期堀之内式土器や翡翠製垂飾が出土しており、付近一帯に縄文時代の痕跡が広がっているものと思われます。

西原大塚遺跡は、これまでに縄文時代中期の住居跡が約180軒、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡が約600軒発見されており、二つの時代の一大集落跡といえる遺跡です。今回の第207地点では、弥生時代後期の住居跡3軒、古墳時代前期の方形周溝墓1基が発見されました。遺跡の北端にあたる本地点まで当該期の集落が広がっていたことが判明しました。また、35号方形周溝墓の溝底から発見された溝内土坑は、当時の葬制を知る上で注目されるところです。

中野遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が検出される複合遺跡です。今回の第95地点の調査では、中世の段切状遺構とそれに伴う平面T字形の火葬土坑をはじめ、井戸跡や溝跡が発見されました。特に、火葬土坑の検出は市内初となっており、近世に記された『舘村旧記』に登場する「村中の墓場」との関連が指摘されています。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例　言

1．本書は、平成27・28年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する市場裏遺跡第23地点、城山遺跡第87地点、西原大塚遺跡第207地点、中野遺跡第95地点の発掘調査報告書である。

2．発掘作業及び整理作業は、志木市教育委員会の受託事業として、以下の土木工事主体者から委託を受け実施した。

市場裏遺跡第23地点：株式会社昭和土地（代表取締役　柴沼孝）
城山遺跡第87地点：個人
西原大塚遺跡第207地点：個人
中野遺跡第95地点：株式会社中央住宅（代表取締役　品川典久）

3．本書の作成において、編集は徳留彰紀が行い、執筆は下記以外を徳留が行った。

尾形　則敏　第1章、第2章第3節の遺物、第4章第3節第12～15表、第5章第1・2・4・5節、第6節（3）・（4）
青木　　修　第5章第3節

4．遺物の実測は、星野恵美子・鈴木浩子・松浦恵子・増田千春・林ゆき子が行った。遺構・遺物のデジタルトレースは深井恵子・青木　修が行った。写真撮影は青木が行った。

5．本書に掲載した縄文時代の石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長　藤波啓容）に実測を委託した。

6．自然科学分析については、株式会社パレオ・ラボ（代表取締役　中村賢太郎）に委託した。

7．中野遺跡第95地点における基準点測量については、株式会社東京航業研究所（代表取締役　中本直士）に委託した。

8．発掘作業における表土剥ぎ及び埋戻し作業については、株式会社大塚屋商店（代表取締役　綱島正人）に委託した。

9．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

10．調査組織（平成28年度）

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	尾崎健市
教育政策部長	原田隆一
生涯学習課長	桶田修平
生涯学習課主幹	古屋大輔
生涯学習課主査	尾形則敏
〃	武井香代子
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀
生涯学習課主事	大久保聡
〃	辻　大輔

志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
〃　高橋長次（委員）
〃　高橋　豊（委員）
〃　上野守嘉（委員）
〃　深瀬　克（委員）

9．発掘作業及び整理作業参加者

〈市場裏遺跡第23地点〉

○発掘作業

調査担当者　徳留彰紀・尾形則敏
調査員　深井恵子・青木　修
調査補助員　鈴木浩子
発掘協力員　小林　律・二階堂美知子・林ゆき子・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員　深井恵子・青木　修
調査補助員　鈴木浩子
整理協力員　高田美智子・二階堂美知子・林ゆき子・増田千春・松浦恵子・山口優子

〈城山遺跡第87地点〉

○発掘調査

調査担当者　徳留彰紀・尾形則敏
調査員　青木　修
調査補助員　鈴木浩子
発掘協力員　池野谷有紀・小林　律・二階堂美知子・林ゆき子
重機オペレータ　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調査員　深井恵子・青木　修
調査補助員　星野恵美子
整理協力員　池野谷有紀・小林　律・高田美智子・二階堂美知子・増田千春・松浦恵子・村田浩美・山口優子

〈西原大塚遺跡第207地点〉

○発掘調査

調査担当者　徳留彰紀・尾形則敏
調査員　青木　修
調査補助員　鈴木浩子・星野恵美子
発掘協力員　池野谷有紀・小林　律・二階堂美知子・林ゆき子・松浦恵子・村田浩美
重機オペレータ　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調　査　員　深井恵子・青木　修

調査補助員　鈴木浩子・星野恵美子

整理協力員　池野谷有紀・小林　律・高田美智子・二階堂美知子・増田千春・山口優子

〈中野遺跡第95地点〉

○発掘調査

調査担当者　尾形則敏・徳留彰紀

調　査　員　青木　修

調査補助員　鈴木浩子・星野恵美子

発掘協力員　池野谷有紀・小林　律・二階堂美知子・林ゆき子・増田千春・松浦恵子・村田浩美

重機オペレータ　田中三二（株式会社大塚屋商店）

○整理作業

調　査　員　深井恵子・青木　修

調査補助員　鈴木浩子・星野恵美子

整理協力員　池野谷有紀・小林　律・高田美智子・二階堂美知子・林ゆき子・増田千春・松浦恵子・村田浩美・山口優子

10. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純・齋藤欣延・斯波　治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人・堀　善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本　龍・和田晋治・渡辺邦仁

11. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈市場裏遺跡第23地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成27年5月1日付け　教生文第5－84号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成27年8月13日付け　教生文第7－131号

〈城山遺跡第87地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成27年9月30日付け　教生文第5－809号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成28年9月30日付け　教生文第7－49号

〈西原大塚遺跡第207地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成27年11月10日付け　教生文第５－1040号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成28年９月30日付け　教生文第７－60号

〈中野遺跡第95地点〉

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成28年３月１日付け　教生文第５－1676号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成29年２月28日付け　教生文第７－2465号

凡　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　１：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２・12・22・40図　１：2,500　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成15年８月発行株式会社ゼンリン

2．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

3．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

4．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

5．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

6．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

7．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

8．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｙ＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡　　Ｈ＝平安時代の住居跡　　方＝方形周溝墓

Ｄ＝土坑　　Ｗ＝井戸跡　　Ｍ＝溝跡　　ＦＰ＝縄文時代の炉穴　　Ｐ＝ピット

目　　次

はじめに
例　　言／凡　　例／目　　次／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境 …… 1
　第１節　市域の地形と遺跡 …… 1
第２章　市場裏遺跡第23地点の調査 …… 8
　第１節　遺跡の概要 …… 8
　第２節　調査の経緯 …… 9
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 13
第３章　城山遺跡第87地点の調査 …… 20
　第１節　遺跡の概要 …… 20
　第２節　調査の経緯 …… 20
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 24
第４章　西原大塚遺跡第207地点の調査 …… 38
　第１節　遺跡の概要 …… 38
　第２節　調査の経緯 …… 38
　第３節　検出された遺構・遺物 …… 43
第５章　中野遺跡第95地点の調査 …… 65
　第１節　遺跡の概要 …… 65
　第２節　調査の経緯 …… 65
　第３節　縄文時代の遺構・遺物 …… 72
　第４節　古墳・平安時代の遺構・遺物 …… 77
　第５節　中世以降の遺構・遺物 …… 81
　第６節　遺構外出土遺物 …… 110
第６章　調査のまとめ …… 116
　第１節　西原大塚遺跡第207地点の調査成果 …… 116
　第２節　中野遺跡第95地点の調査成果 …… 117

［付編］自然科学分析
　Ⅰ．西原大塚遺跡第207地点出土炭化材の樹種同定 …… 123
　Ⅱ．西原大塚遺跡第207地点の住居跡採取の灰の植物珪酸体 …… 124
　Ⅲ．中野遺跡第95地点出土炭化材の放射性炭素年代測定 …… 125
　Ⅳ．中野遺跡第95地点出土炭化材の樹種同定 …… 129
　Ⅴ．中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨 …… 133

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第1図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第2図　市場裏遺跡の調査地点（1／3,000）…… 8
第3図　確認調査時の遺構分布（1／150）…… 11
第4図　遺構分布図（1／150）…… 11
第5図　基本土層（1／30）…… 12
第6図　4号住居跡（1／60）・出土遺物（1／3）…… 14
第7図　5号住居跡（1／60）・出土遺物（1／4）…… 15
第8図　6号住居跡（1／60）…… 16
第9図　6号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 17
第10図　土坑（1／60）…… 18
第11図　遺構外出土遺物（1／3）…… 18
第12図　城山遺跡の調査地点（1／3,000）…… 21
第13図　確認調査時の遺構分布（1／200）…… 23
第14図　遺構分布図（1／150）…… 23
第15図　炉穴（1／60）…… 25
第16図　土坑（1／60）…… 26
第17図　ピット1（1／60）…… 27
第18図　ピット2（1／60）…… 28
第19図　ピット出土遺物1（1／3・2／3）…… 29
第20図　ピット出土遺物2（1／4・1／3・2／3）…… 30
第21図　遺構外出土遺物（2／3・1／3）…… 35
第22図　西原大塚遺跡の調査地点（1／5,000）…… 39
第23図　確認調査時の遺構分布（1／150）…… 42
第24図　遺構分布図（1／150）…… 42
第25図　597号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 44,45
第26図　597号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 46
第27図　598号住居跡（1／60）…… 48
第28図　598号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 49
第29図　598号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 49
第30図　599号住居跡・遺物出土状態（1／60）…… 50
第31図　599号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 50
第32図　35号方形周溝墓・749号土坑（1／60）…… 52,53
第33図　35号方形周溝墓・749号土坑遺物出土状態（1／60）…… 54
第34図　35号方形周溝墓出土遺物1（1／4・1／3）…… 55
第35図　35号方形周溝墓出土遺物2（1／3）…… 56
第36図　1号ピット（1／60）…… 56

第37図　５号ピット出土遺物（1／3）…… 56
第38図　遺構外出土遺物1（1／3）…… 57
第39図　遺構外出土遺物2（1／3）…… 58
第40図　中野遺跡の調査地点（1／3,000）…… 66
第41図　確認調査時の遺構分布図（1／200）…… 70
第42図　遺構分布図（1／200）…… 71
第43図　炉穴（1／60）…… 73
第44図　土坑（1／60）・298号土坑出土遺物（1／3）…… 76
第45図　82号住居跡（1／60）…… 77
第46図　土坑（1／60）・288号土坑出土遺物（1／3）…… 79
第47図　中世以降の遺構分布図（1／200）…… 82
第48図　土坑　A群２類（1／60）…… 85
第49図　土坑　B群２類（1／60）…… 85
第50図　土坑　B群３類1（1／60）…… 85
第51図　土坑　B群３類2（1／60）…… 86
第52図　土坑　B群３類3（1／60）…… 87
第53図　土坑　C群（1／60）…… 88
第54図　土坑　E群（1／60）…… 90
第55図　土坑　F群1（1／30）…… 92
第56図　土坑　F群2（1／30）…… 94
第57図　土坑　F群3（1／30）…… 95
第58図　９号井戸跡（1／60）…… 97
第59図　10号井戸跡（1／60）…… 98
第60図　土坑・井戸跡出土遺物（1／3・4／5）…… 99
第61図　15号溝跡（1／60）…… 100
第62図　ピット（1／60）…… 101
第63図　183号ピット出土遺物（4／5）…… 102
第64図　遺構外出土遺物1（1／3・1／4）…… 111
第65図　遺構外出土遺物2（1／3・4／5）…… 112
第66図　暦年較正結果 …… 128
第67図　マルチプロット図 …… 128

表 目 次

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第２表　市場裏遺跡第23地点の発掘調査工程表 …… 11
第３表　４号住居跡出土土器一覧 …… 19
第４表　５号住居跡出土土器一覧 …… 19
第５表　６号住居跡出土土器一覧 …… 19
第６表　1065号土坑出土土器一覧 …… 26
第７表　ピット一覧（1） …… 31
　　ピット一覧（2） …… 32
第８表　ピット出土土器一覧（1） …… 33
　　ピット出土土器一覧（2） …… 34
第９表　遺構外出土石器一覧 …… 36
第10表　遺構外出土土器一覧（1） …… 36
　　遺構外出土土器一覧（2） …… 37
第11表　西原大塚遺跡第207地点の発掘調査工程表 …… 41
第12表　597号住居跡出土土器一覧（1） …… 58
　　597号住居跡出土土器一覧（2） …… 59
第13表　598号住居跡出土土器一覧 …… 60
第14表　599号住居跡出土土器一覧 …… 60
第15表　35号方形周溝墓出土土器一覧（1） …… 61
　　35号方形周溝墓出土土器一覧（2） …… 62
第16表　遺構外出土石器一覧 …… 62
第17表　遺構外出土縄文土器一覧（1） …… 63
　　遺構外出土縄文土器一覧（2） …… 64
第18表　中野遺跡第95地点の発掘調査工程表 …… 69
第19表　古墳・平安時代の遺構出土土器一覧 …… 80
第20表　中世以降の土坑一覧 …… 96
第21表　ピット一覧（1） …… 103
　　ピット一覧（2） …… 104
　　ピット一覧（3） …… 105
　　ピット一覧（4） …… 106
　　ピット一覧（5） …… 107
　　ピット一覧（6） …… 108
第22表　中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧 …… 109
第23表　遺構外出土石器一覧 …… 112
第24表　遺構外出土縄文土器一覧（1） …… 113
　　遺構外出土縄文土器一覧（2） …… 114

第25表　遺構外出土古墳・平安時代土器一覧 …… 115
第26表　銭貨一覧 …… 115
第27表　樹種同定結果一覧 …… 123
第28表　598号住居跡の灰試料と植物珪酸体の検出状況 …… 124
第29表　測定試料および処理 …… 126
第30表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果 …… 126
第31表　遺構別の樹種同定結果 …… 129
第32表　樹種同定結果一覧（1） …… 130
　　樹種同定結果一覧（2） …… 131
第33表　中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨 …… 134

図版目次

図版1　市場裏遺跡第23地点
1．確認調査風景　2．基本土層　3．4号住居跡　4．4号住居跡掘り方
5．5号住居跡遺物出土状態　6．5号住居跡　7．5号住居跡掘り方　8．調査風景
図版2　市場裏遺跡第23地点
1・2、6号住居跡遺物出土状態　3・4．6号住居跡　5．6号住居跡貯蔵穴・P1
6．6号土坑　7．7号土坑　8．調査区全景（西から）
図版3　市場裏遺跡第23地点
1．4号住居跡出土遺物　2．5号住居跡出土遺物　3．6号住居跡出土遺物
4．遺構外出土遺物
図版4　城山遺跡第87地点
1．調査前風景　2．表土剥ぎ風景　3．15・16号炉穴検出状況　4．15号炉穴
5．16号炉穴　6．1056号土坑礫出土状態　7．1056号土坑　8．1057号土坑
図版5　城山遺跡第87地点
1．調査風景　2．7号ピット遺物出土状態　3．25号ピット　4．27号ピット
5．28・29号ピット　6．32号ピット　7．36号ピット　8．50・51号ピット
図版6　城山遺跡第87地点
1．調査区全景（西から）　2．調査区北側（西から）　3．調査区中央付近（西から）
4．調査区南側（西から）　5．調査区南西端（東から）
図版7　城山遺跡第87地点
1．1056号土坑出土遺物　2．ピット出土遺物1
図版8　城山遺跡第87地点
1．ピット出土遺物2　2．遺構外出土遺物

図版9　西原大塚遺跡第207地点
1．西半部精査前風景　2．東半部精査前風景　3．南半部精査前風景　4．3～6号ピット
5．発掘風景　6～8．597号住居跡遺物出土状態
図版10　西原大塚遺跡第207地点
1・2．597号住居跡　3．597号住居跡P3付近　4．597号住居跡炉跡
5・6．598号住居跡炭化材出土状態　7．598号住居跡炉跡　8．598号住居跡
図版11　西原大塚遺跡第207地点
1．599号住居跡遺物出土状態　2・3．599号住居跡　4．599号住居跡炉跡
5・6．35号方形周溝墓遺物出土状態　7．35号方形周溝墓・749号土坑断面
8．35号方形周溝墓（南西から）
図版12　西原大塚遺跡第207地点
1．35号方形周溝墓（西から）　2．35号方形周溝墓　3．35号方形周溝墓・749号土坑
4．749号土坑　5．35号方形周溝墓（合成写真）
図版13　西原大塚遺跡第207地点
1．5号ピット出土遺物　2．597号住居跡出土遺物　3．598号住居跡出土遺物
図版14　西原大塚遺跡第207地点
1．599号住居跡出土遺物　2．35号方形周溝墓出土遺物
図版15　西原大塚遺跡第207地点
遺構外出土遺物
図版16　中野遺跡第95地点
1．調査前風景　2．調査区東半表土剥ぎ風景　3．調査区東半遺構検出状況
4．調査区反転風景　5．調査区西半遺構検出状況　6．48号炉穴　7．49号炉穴
8．298号土坑
図版17　中野遺跡第95地点
1．300号土坑　2．320号土坑　3．322号土坑　4．323～325号土坑
5．326号土坑　6．調査風景　7．82号住居跡焼土検出状況　8．82号住居跡
図版18　中野遺跡第95地点
1．285号土坑　2．288号土坑　3．301号土坑　4．319号土坑　5．270号土坑（A群2類）
6．291号土坑（A群2類）　7．287号土坑土製品出土状態（B群1類）
8．302号土坑（B群2類）
図版19　中野遺跡第95地点
1．309号土坑（B群2類）　2．277号土坑（B群3類）　3．280号土坑（B群3類）
4．281号土坑（B群3類）　5．278・283号土坑（B群3類）　6．303号土坑（B群3類）
7．304号土坑（B群3類）　8．305号土坑（B群3類）
図版20　中野遺跡第95地点
1．307号土坑（B群3類）　2．312号土坑（B群3類）　3．313号土坑（B群3類）
4．314・315号土坑（B群3類）　5．275号土坑（C群）　6．276・282号土坑（C群）
7．279号土坑（C群）　8．296号土坑（C群）
図版21　中野遺跡第95地点

1・2．299号土坑（E群）　3・4．310号土坑（E群）
5．274号土坑骨・炭化材出土状態（F群）　6．274号土坑炭化材出土状態（F群）
7．274号土坑横木出土状態（F群）　8．274号土坑（F群）

図版22　中野遺跡第95地点
1．284号土坑骨・炭化材出土状態（F群）　2．284号土坑炭化材出土状態（F群）
3．284号土坑横木出土状態（F群）　4．284号土坑（F群）
5．311号土坑炭化材出土状態（F群）　6．311号土坑骨・炭化材出土状態（F群）
7．311号土坑横木出土状態（F群）　8．311号土坑（F群）

図版23　中野遺跡第95地点
1．316号土坑骨・炭化材出土状態（F群）　2．316号土坑炭化材出土状態（F群）
3．316号土坑横木出土状態（F群）　4．316号土坑（F群）
5．318号土坑骨・炭化材出土状態（F群）　6．318号土坑炭化材出土状態（F群）
7・8．318号土坑（F群）

図版24　中野遺跡第95地点
1．9号井戸跡　2．10号井戸跡　3．15号溝跡　4．47号ピット（平安）
5．76号ピット（中世）　6．77・78号ピット（中世以降）　7．114号ピット（古墳）

図版25　中野遺跡第95地点
1．116号ピット（平安）　2．179号ピット（古墳）　3．183ピット（中世）
4．193号ピット（古墳）　5．調査区東半（東から）　6．調査区東半（西から）
7．調査区西半（東から）　8．調査区西半（北から）

図版26　西原大塚遺跡第207地点
1．298号土坑出土遺物　2．土坑出土遺物（平安）　3．土坑出土遺物（中世）

図版27　中野遺跡第95地点
1．井戸跡出土遺物　2．15号溝跡出土遺物　3．ピット出土遺物

図版28　中野遺跡第95地点
遺構外出土遺物

図版29　西原大塚遺跡第207地点
西原大塚遺跡第207地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

図版30　西原大塚遺跡第207地点
西原大塚遺跡第207地点の598号住居跡採取の灰試料と植物珪酸体

図版31　中野遺跡第95地点
中野遺跡第95地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

図版32　中野遺跡第95地点
中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71㎞、東西4.73㎞の広がりをもち、面積は9.05㎢（註１）、人口約７万３千人の自然と文化の調和する都市である。

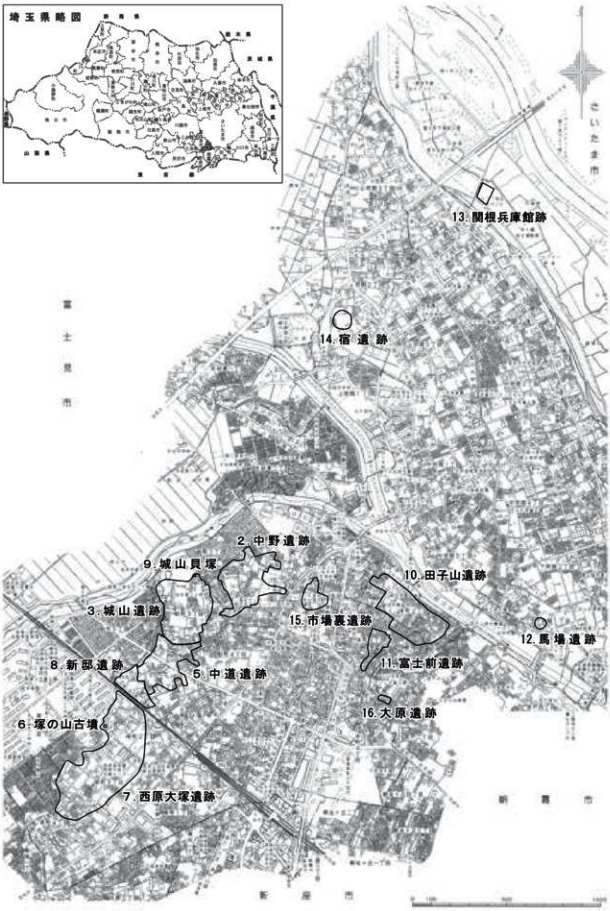
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、

No.	遺跡名	遺跡の規模	地　目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中　野	65,780㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城　山	81,310㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中　道	52,980㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	163,930㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～晩）、弥（後）、古（前・後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新　邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄（早～中）、古（前・後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～晩）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,168㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬　場	2,800㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵衛館跡	4,900㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	田	館　跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡・方形周溝墓・土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大　原	1,700㎡	宅　地	不　明	近世以降？	溝跡	なし
合　計		504,878㎡					

平成29年１月31日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と遺跡分布(1／20,000)

関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した12遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7年（1995）度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの抉入石器・剥片など32点が出土している。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。最新では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出され、特に礫群については、市内において初の発見例につながった。

2．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出され

ている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が１軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑１基が検出され、下層から称名寺Ⅰ式期の土器、上層からⅡ式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも２基の土坑が検出されている。最新資料では、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点から、市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出され、注目される。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行Ⅲｃ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅鈴が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の３要素の特徴を示す壺が出土している。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

なお、以上のうち、西原大塚遺跡122号住居跡出土の動物形土製品1点と西原大塚遺跡17号方形周溝墓から出土した、鳥形土製品1点と壷形土器4点の計5点は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

4．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的に古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で200軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられている。

5．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例とし

て、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか９点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の冨壽神寶ほか２点の遺物は、考古資料として、平成25年３月１日付けで、市指定文化財に指定されている。

６．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註２）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註３）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。

また、平成７（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成８（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点では、鋳造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状の土製品、砥石などが出土している。また、平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成６（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鐙の札である鉄製品１点と鉄鏃１点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第２地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成７（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭５枚を出土した土坑墓１基と13世紀に比定される青磁盤１点を出土した道路状遺構１条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第１地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓２基が検出されて

いる。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『舘村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

７．近代以降

近代以降の遺跡では、平成５（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治２～５年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第８地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

[註]

註１　平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註２　『舘村旧記』は、舘村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）６月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用文献]

神山健吉　1988「『廻回雑記』に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号
2002「道興をめぐる二つの誤説を糾す」『郷土志木』第31号

第２章　市場裏遺跡第23地点の調査

第１節　遺跡の概要

市場裏遺跡は、志木市本町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の1.2㎞程北方に位置している。本遺跡は、南北方向に約120m、東西方向に約140mの広がりをもち、面積13,800㎡を有する、市内では比較的に小規模の遺跡である。

遺跡を地勢的に見ると、武蔵野台地の北端部にあたり、標高は遺跡の中央付近で約15mを測り、北西側にかけては緩やかに標高が低くなるが、北側は低地を見下ろすように断崖地形が形成されている。

遺跡の現況は、畑地や空き地などはほとんど存在せず、古くから住宅が密集する地区であると言える。今後、この地区では、個人専用住宅を中心とした建て替えなどの小規模開発が主流になるものと予想される。

本遺跡は、平成２（1990）年に実施された試掘調査により、遺跡が発見され、新規に遺跡として登録され、第１回目の発掘調査が実施されている。今回の第23地点の調査を含め、確認調査はこれまでに24地点を実施している。発掘調査を実施した地点は、第１・２・３・13・21地点、そして今回の第23地点の６地点である。

平成29年1月31日現在

第２図　市場裏遺跡の調査地点　（1／3,000）

第23地点の調査終了時点で、検出された遺構は、縄文時代の土坑１基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡６軒、方形周溝墓６基、中世以降の土坑６基である。弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡・墓跡を中心とした遺跡と言える。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

平成27年２月、一建設株式会社（代表取締役　堀口　忠美）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市本町１丁目1570番１（総面積141.33㎡）地内に分譲住宅建設を実施するというものである。

これに対し、教育委員会は当該工事予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である市場裏遺跡（コード11228－09－015）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．開発計画の策定を行った上で、埋蔵文化財確認調査依頼書を提出された後に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

３．市場裏遺跡における埋蔵文化財の分布状況については、周辺での調査結果に基づき、説明を行う。

本地点の周辺では、平成21（2009）年に発掘調査を実施した本地点の北側に隣接する第13地点についての状況を説明する。

２月12日、土地所有者である㈱昭和土地　代表取締役　柴沼 孝（以下、土地所有者）から教育委員会へ前述した同地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。そのため、前述した同内容で回答した。教育委員会は、３月24日に工事主体者より確認調査依頼書を受理し、４月６日に市場裏遺跡第23地点（総面積141.33㎡）として確認調査を実施した。

確認調査は第３図に示すように調査区の長軸方向に合わせトレンチを２本（１・２Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡３軒ないし４軒、柱穴５本を確認した。教育委員会はこの結果をただちに土地所収者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

４月16日、土地所収者から連絡があり、工事主体者と打合せを行いたいという申し入れがあった。同日、土地所収者・工事主体者・教育委員会は、埋蔵文化財の確認調査の状況説明と保存方法の検討、発掘調査における相互確認及び注意事項についての打合せを行った。その結果、２棟の分譲住宅建設のうち、１号棟については深基礎工事を行う必要があるため盛土保存が不可能であるため記録保存（発掘調査）、２号棟については盛土保存として取り扱うことが決定した。これを受けて、敷地後退後の総面積139.81㎡のうち、36.73㎡を対象に発掘調査を実施することに決定した。また、埋蔵文化財発掘届の申請者は工事主体者であるが、発掘調査の依頼者は土地所有者とすることで合意した。

同日、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、志木市埋蔵文化財保存事業申請書が土地所

所収者から提出された。４月27日、埋蔵文化財保存事業に係る協議書を開発主体者と取り交わし、委託契約を締結した。

４月20日、教育委員会は埋蔵文化財発掘届及び埋蔵文化財発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。これにより、教育委員会を調査主体とし、４月27日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

４月27日　本日より重機（バックホー）による表土剥ぎ作業を開始する。残土置場については、今回盛土保存が適用され、発掘調査を行わない２号棟建設予定地を使用することで決定した。本日中に表土剥ぎ作業を完了する。

４月28日　人員導入による発掘調査を開始する。まず、器材の搬入と調査準備を行い、その後調査区整備と遺構確認作業を開始する。午前中には調査区全体の遺構検出状況の写真撮影を行い、午後からは弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（４・５Ｙ）の精査を開始する。

４月30日　４Ｙ完掘の写真撮影を行い、その後セクションＡ・Ｂの実測を行い、その後平板測量を行った。５Ｙについては、セクションＢ－Ｂ'の写真撮影・実測を行い、その後、住居南西隅から南壁際に幅50㎝程のロームの堆積が見られ、特異であったため、遺物出土状態と併せ写真撮影・平板測量を行った。

５月７日　５Ｙ完掘の写真撮影を行い、その後セクションＡ－Ａ'の実測を行い、その後平板測量を行う。また、新たに弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（６Ｙ）と６Ｙを切る中世以降の土坑（６Ｄ）の精査を開始する。６Ｄは本日中に完掘の写真撮影を行い、その後平板測量を完了した。

５月８日　５Ｙは掘り方の精査を行い、セクションＡ・Ｂに追加する。６Ｙは床面上から土器が比較的多く出土したため、遺物出土状態の写真撮影を行った。

５月11日　５Ｙは掘り方の平板測量を行った。６Ｙは土器の取り上げを行い、その後、柱穴（Ｐ１・Ｐ２）を半截し、セクション実測後完掘した。また、貯蔵穴とその北東側には祭壇状遺構と思われる赤砂利層を確認したため、赤砂利層については、範囲を測量後一部断面を切り、写真撮影とセクション実測を行った。

５月12日　６Ｙは貯蔵穴の精査を完了し、遺構の写真撮影を行う。また、縄文時代の土坑（７Ｄ）の精査を完了し、その後調査区全体の遺構写真撮影を完了する。

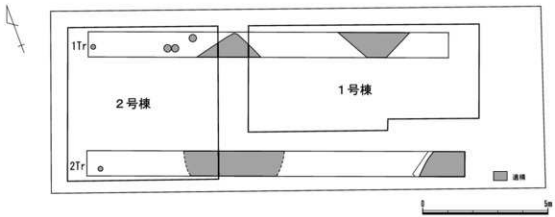
５月13日　６Ｙの掘り方の精査を完了し、すべての遺構の精査を完了する。その後、器材等の片付けを行う。

５月14日　調査区北西隅の一部に基本層序を設定し、掘り下げ終了後セクション実測を完了し、すべての精査を完了する。

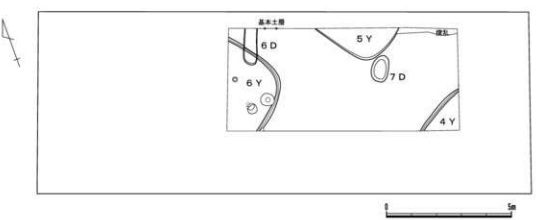
５月15日　埋戻し作業を行い、本日中に完了する。

（３）２号棟部分の取り扱いについて

発掘調査を実施しなかった２号棟部分の取り扱いについては、６月１・11・12日と３回の工事立会を実施した。その結果、保護層30㎝以上を確保して施工されており、正しく盛土保存が行われていたことを確認した。



第３図　確認調査時の遺構分布（1 ／ 150）



第４図　遺構分布図（1 ／ 150）

	平成27年4月		5月		
	25日	30日	5日	10日	15日
表土剥ぎ作業	4.27				
（縄文時代）				5.12	
7 D					
（弥生時代）					
4 Y	4.28	4.30			
5 Y	4.28			5.11	
6 Y			5.8		5.13
（中世以降）					
6 D			5.7		
（基本層序）				5.14	
埋戻し					5.15

第２表　市場裏遺跡第23地点の発掘調査工程表

（４）基本層序

調査区北壁西側に基本層序観察用のトレンチを設定し、分層を行った。トレンチの幅は 50 ㎝とした。Ⅰ層は一次的堆積土としての旧表土等は殆ど確認できず、Ⅱ層や住居跡覆土との境界が明瞭であることから、耕作土と判断した。Ⅱ層（暗黄褐色土）はローム漸移層で、調査区全体で確認できた。Ⅱ層上面が遺構確認面である。おおよそ平坦に堆積しており、調査区内での明瞭な傾斜は確認できなかった。Ⅱ層からの出土遺物がないため、堆積時期は不明であるが、おおよそ縄文時代中期以前と判断される。Ⅲ層・Ⅳ層については、立川ロームのⅢ・Ⅳ層に比定される。Ⅴ層は検出していない。

基本層序（第５図）

第Ⅰ層　表土及び耕作土

黒灰褐色を呈し、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを斑晶状に含む。層厚は約37～50㎝である。

第Ⅱ層　漸移層

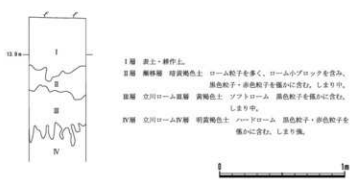
暗黄褐色を呈し、ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、黒色・赤色粒子（スコリアか）を僅かに含む。耕作土（１層）により削平されるか。層厚４～30㎝。

第Ⅲ層　立川ローム層第Ⅲ層

黄褐色軟質ローム層（ソフトローム層）である。層厚は40㎝前後である。

第Ⅳ層　立川ローム層第Ⅳ層

明黄褐色硬質ローム層（ハードローム層）である。ソフト化の進行が著しい。



第５図　基本土層（１／30）

第３節　検出された遺構・遺物

（１）概　要

本地点からは、縄文時代の土坑１基（７Ｄ）、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡３軒（４～６Ｙ）、中世以降の土坑１基（６Ｄ）が検出された。主要な出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期の土器である。

（２）住居跡

４号住居跡

遺　構（第６図）

[検出状況] 調査区東端に確認した。遺構の北西一部のみの検出であり、大部分は南東側に広がる。遺存状態は良好である。

[構　造] **平面形**：やや直線的なプラン。隅丸方形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／床面までの深さ54㎝。**壁**：80°～90°でほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：不明。**壁溝**：幅約８㎝／深さ３～５㎝。**床面**：平坦であるが、中央に向かって僅かに凹む。検出範囲全面が硬化していた。貼床は厚さ２～３㎝で施されていた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。

[覆　土] ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む褐色～暗黄褐色土を基調とする２～４層及び８～12層と、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色～黒色土を基調とする５～７層及び10～15層が互層をなしている。覆土全体に炭化物粒子を僅かに含んでおり、焼土粒子は認められなかった。

[遺　物] 土器片が２点出土した。

[時　期] 弥生時代後期後葉。

遺　物（第６図・第３表）

[土　器]（第６図１、第３表）

１は壺形土器の肩部小破片である。

５号住居跡

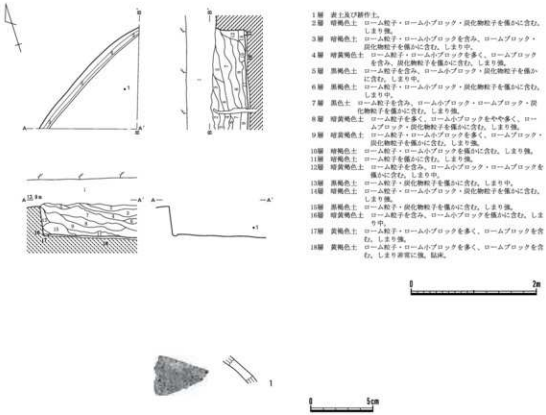
遺　構（第７図）

[検出状況] 調査区北端に確認した。遺構の南側コーナー部分のみの検出であり、大部分は北側に広がると思われる。遺存状態は良好である。

[構　造] **平面形**：方形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／床面までの深さ42㎝（Ａ－Ａ'）。**壁**：80°～90°でほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：不明。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：平坦。壁際を除き硬化していた。貼床は厚さ12～18㎝で施されていた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。

[覆　土] ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐～黒褐色土を基調とするが、ローム粒子・ローム小ブロックを多量に含む黄褐色土である11層が東壁に沿って帯状に堆積していた。貼床の上層である18層はローム主体層であり、非常に硬く締まっていた。

[遺　物] 甕形土器の破片が出土した。



第６図　４号住居跡（１／60）・出土遺物（１／３）

［時　　期］弥生時代後期後葉。

遺　　物（第７図・第４表）

［土　　器］（第７図１、第４表）

１は甕形土器の脚台部付近破片である。

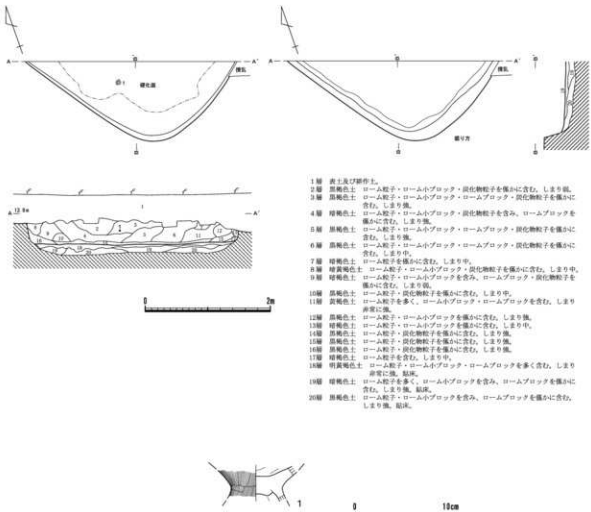
６号住居跡

遺　　構（第８図）

［**検出状況**］調査区西端に確認した。遺構の東側コーナー部分のみの検出であり、大部分は南西側に広がると思われる。北壁の一部を６Ｄに、南東調査区際で撹乱に壊されるが、遺存状態は概ね良好である。

［構　　造］**平面形**：方形か。**規模**：長軸不明／短軸不明／床面までの深さ42㎝（Ａ－Ａ'）。**壁**：約80°で立ち上がる。**主軸方位**：東壁とＰ１掘込方向が直交するラインを主軸と想定し、Ｎ－36°－Ｅ。**壁溝**：幅８～12㎝で検出した。**床面**：平坦。壁際を除き硬化していた。北東に検出した焼土範囲下は僅かに被熱していた。**炉**：検出されなかった。**貯蔵穴**：東コーナーやや南寄りに検出した。円形。長軸54㎝／短軸52㎝／床面からの深さ25㎝。**柱穴**：２本検出した。主柱穴は検出されなかった。Ｐ１はその位置・形状から入口施設に伴うものと思われる。Ｐ２は床面からの深さ15㎝と浅く、主柱穴ではないと思われる。**掘り方**：遺構全体が床面から８～12㎝程度掘り込まれるが、壁溝の内側が帯状にやや高まりを残す。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む暗褐～黒色土を基調とする。Ａ－Ａ'・Ｂ－Ｂ'セクションを基準にすると、壁際は暗黄褐～暗褐色のやや明るい土（10・11層）、南側下層にはロー



第７図　５号住居跡（１／60）・出土遺物（１／４）

ムブロックを含む暗黄褐色土（６層）、床面直上には締まりの強い黒灰褐色土（14層）が３～６㎝堆積していた。東コーナーの床面直上には小礫を含む赤色砂利層を検出した。貼床は、暗黄褐色土（19層）の上面に、非常に硬く締まった明黄褐色土（18層）が貼られていた。

［遺　　物］殆どの土器が赤色砂利層の上面ないし14層中の出土である。１は貯蔵穴壁際の上面から出土した。２は床面直上の出土である。３・４は床面から僅かに浮いて出土した。３は接合するほぼ一個体分の土器破片がまとまって出土した。４は小破片１点を除き赤色砂利層直上から出土した。

［時　　期］古墳時代前期。

遺　　物（第９図・第５表）

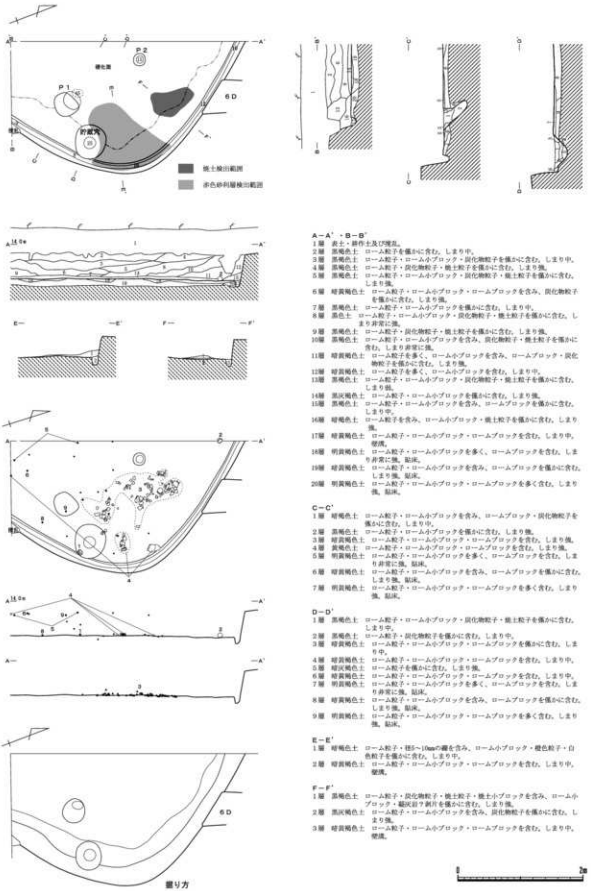
［土　　器］（第９図、第５表）

１・６・７は壷形土器、１は小型無頸壷である。２は高坏形土器、３～５・８・９は甕形土器である。

（３）土　坑

６号土坑

遺　　構（第10図）



A-A' · B-B'

1層　表土・耕作土及び現土。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
8層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
9層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり中。
13層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
14層　黒灰褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
15層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
16層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
18層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり非常に強。貼床。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。貼床。
20層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

C-C'

1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
5層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり非常に強。貼床。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。貼床。
7層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

D-D'

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
5層　暗灰褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
7層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり非常に強。貼床。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。貼床。
9層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

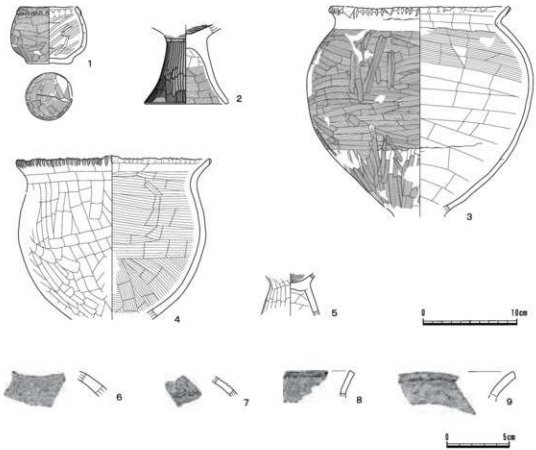
E-E'

1層　暗褐色土　ローム粒子・径5～10cmの礫を含み、ローム小ブロック・橙色粒子・白色粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。硬質。

F-F'

1層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ローム小ブロック・褐灰粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　黒灰褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。硬質。

第８図　６号住居跡（１／60）



第９図　６号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

［検出状況］調査区北西隅、６Ｙの北側に位置する。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸不明／短軸0.57m／深さ31㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－21°－Ｅ。

［覆　　土］ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含む黒褐色土を基調。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から中世以降の所産と思われる。

７号土坑

遺　　構（第10図）

［検出状況］調査区中央やや東寄り、５Ｙの南側に検出した。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**長軸1.04m／短軸0.68m／深さ18㎝。**壁：**35～50°で緩やかに立ち上がる。**底面：**平坦。**長軸方位：**Ｎ－33°－Ｅ。

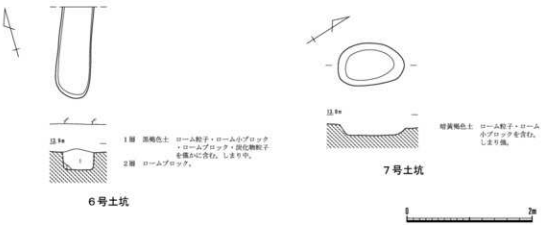
［覆　　土］ローム粒子を含むしまりの強い暗黄褐色土を基調とする。

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察から縄文時代の所産と思われる。

（４）遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品と判断さ



第 10 図　土坑（1／60）

れる遺物を前項までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

1．縄文時代の土器（第 11 図 1・2）

1は早期前葉の撚糸文系土器の胴部小破片である。ＲＬを縦位に施文されている。胎土には角閃石・雲母・砂粒を含む。稲荷台式土器であろう。2は前期末葉の十三菩提式土器の破片と思われる。文様は2本の浮線文が横位に施文され、その上端は半截竹管による押引きが施される。地文は横位の単節縄文ＲＬである。胎土には白色砂粒を多く、石英・角閃石・金雲母を含む。

2．平安時代の土器（図版３－４－３）

3は須恵器坏形土器の口縁部小破片である。色調は青灰色を呈し、胎土には白色砂粒を含む。ロクロ回転は右回転である。時期は９世紀後葉と思われる。

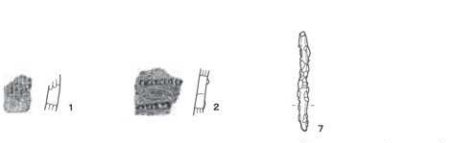
3．中世以降の遺物（第 11 図 7、図版３－４－４～７）

[陶　　器]（図版３－４－４～６）

4～6は陶器の小破片である。4は瀬戸皿の底部で、全面に志野釉がかけられている。胎土の色調は淡黄白色を呈する。5は瀬戸の鉄釉埦であろう。胎土の色調は灰白色を呈する。6は灯明皿の口縁部である。全面に鉄釉がかけられている。胎土の色調は淡黄白色を呈する。

[鉄 製 品]（第 11 図 7、図版３－４－７）

鉄釘である。長さ 7.9 ㎝・最大幅 0.8 ㎝・重さ 5.3 ｇ。断面は長方形を基本で、頭部は欠損している。



第 11 図　遺構外出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	器種 種別	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第６図１ 図版３-１-１	壺	厚0.7	肩部小破片／文様は３段の単節斜縄文を上下羽状に施文し、直下に２段の自縄結節文／外面に赤色塗料が付着	胎土は淡黄褐色	砂粒を多く、黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：口縁部は横ナデ	覆土中	肩部小破片

第３表　４号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第７図１ 図版３-２-１	甕	高[3.9]	脚台部付近／脚台部内面には粘土接合痕あり／表面は黒く燻けている	表面は黒色／胎土は淡茶褐色	黄褐色粒子・砂粒をやや多く含む	内面：胴部下半は斜方向のヘラナデ、脚台部は横方向のナデ／外面：縦方向のハケ目調整	覆土中	脚台部付近100％

第４表　５号住居跡出土土器一覧

挿図番号 図版番号	器種 種別	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第９図１ 図版３-３-１	壺	高6.0 口[5.6] 底5.0	小型無頸壺／口縁部は複合口縁／口縁部直下にハケ状工具による刻み目がまわる／最大径は胴部下半／底部は平底	暗黄褐色	黄褐色粒子・橙粒子を含む	内面：横方向のヘラナデ後斜方向の粗いヘラ磨き調整／外面：底部まで全面ハケ目調整／内面口縁部直下に指頭による成形痕あり	貯蔵穴上部(床面レベル)	60％
第９図２ 図版３-３-２	高坏	高[8.4] 底8.9	脚台部／裾部は外反する／外面及び杯部内面は赤彩／脚台部内面は黒色を呈する	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・橙粒子・砂粒をやや多く含む	内面：坏部はヘラ磨き調整、脚台部は上半は横方向のヘラ削り、下半は一中位調整／外面：ハケ目調整後縦方向のヘラ磨き調整	北東壁近くの床面上	脚台部90％
第９図３ 図版３-３-３	甕	高[22.3] 口19.2	台付甕／口縁部は屈曲し、「く」の字状を呈する／口唇部外面にハケ状工具による刻み目がまわる／最大径は胴部上半／内外面煤けて黒色を呈する	淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：口縁部は横方向のヘラナデ、胴部は上半部はヘラ目調整、以下は横方向のヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、胴部は上半～中位が横方向、下半は縦方向のハケ目調整	東コーナーや床面上にやや密集	口縁部～胴部下半80％
第９図４ 図版３-３-４	甕	高[17.4] 口21.0	台付甕／口縁部は外反する／口唇部外面にハケ状工具による刻み目がまわる／最大径は口縁部にある	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒・小石を含む	内面：口縁部は横方向のヘラナデ、胴部は横方向のヘラ目調整／外面：口縁部は横方向、胴部は上半～中位が縦方向、下半が斜方向のヘラナデ	東コーナーや床面上及び南東壁近くの床面上からやや散在的	口縁部～胴部下半40％
第９図５ 図版３-３-５	甕	高[4.5]	台付甕／脚台部／「ハ」の字状を呈する	暗橙色を基調	橙色粒子をやや多く含む	内面：胴部下半は斜方向のハケ目調整、脚台部は横方向のヘラナデ／外面：縦方向のヘラナデ	北東壁からやや東寄りの覆土中	脚台部40％
第９図６ 図版３-３-６	壺	厚0.7	肩部小破片／文様は３段の単節斜縄文を上下羽状に施文	暗黄褐色	橙色粒子をやや多く含む	内面：横方向のヘラナデ	北東壁寄りの覆土中	肩部小破片
第９図７ 図版３-３-７	壺	厚0.5	肩部小破片／文様は無節斜縄文と直上に自縄結節文が施文／無文部は赤彩	淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・角閃石を含む	内面：横方向のヘラナデ／外面：無文部は斜方向のヘラ磨き調整	覆土中	肩部小破片
第９図８ 図版３-３-８	甕	厚0.4	口縁部小破片／口唇部は弱く面取りが施されている／口縁部に刻み目なし／外面にやや煤が付着	暗橙色を基調	黄褐色粒子・橙色粒子を含む	内面：縦方向のハケ目調整／外面：横方向のハケ目調整	北東壁近くの床面上	口縁部小破片
第９図９ 図版３-３-９	甕	厚0.5	口縁部破片／口縁部は屈曲し「く」の字状を呈する／口唇部は面取りが施されている／口唇部に刻み目なし／内外面は黒色を呈する	胎土は暗淡茶褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く、雲母・角閃石を僅かに含む	内外面：横ナデ	P1の上部の覆土中	口縁部破片

第５表　６号住居跡出土土器一覧

第３章　城山遺跡第87地点の調査

第１節　遺跡の概要

城山遺跡は、志木市柏町３丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2㎞に位置している。遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12m、低地との比高差は約５mである。本遺跡は、これまでに93地点（平成28年８月29日現在）の調査が実施され、旧石器時代から近世の複合遺跡であることが判明している。特に、遺跡全体からは、古墳時代中・後期の住居跡220軒を超え、一大集落が検出されている他、中世の城跡である「柏の城」に関連する堀跡や近世の鋳造関連遺構の検出が注目される。

遺跡の周辺を眺めてみると、小学校や神社・墓地などが存在する閑静な住宅地と言えるが、最近では、平成23（2012）年度に実施した分譲住宅建設に伴う第71地点、共同住宅に伴う第72地点の発掘調査が実施され、僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況となっている。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

平成27年７月、仲介業者である積水ハウス㈱埼玉南支店から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町３丁目2617番２号（総面積386.00㎡）地内に共同住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード11228－09－003）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

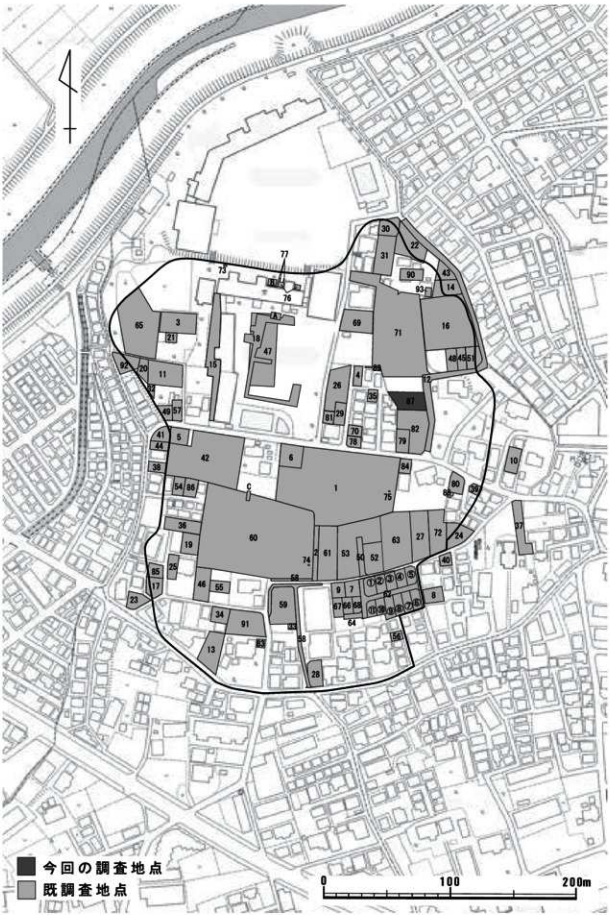
１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施し、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

３．城山遺跡における埋蔵文化財の分布状況については、周辺での調査結果に基づき、説明を行う。本地点の周辺では、平成23（2011）年に発掘調査を実施した本地点北側に位置する第71地点についての状況を説明する。

平成27年７月13日、教育委員会は工事主体者兼土地所有者の個人より、確認調査依頼書・埋蔵文化財発掘届を受理した。これにより、教育委員会は、城山遺跡第87地点（総面積389.83㎡）とし、８月21日に確認調査を実施した。

確認調査は第13図に示すように調査区の長軸方向に合わせトレンチを５本（１～５Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の炉穴２基・土坑１基、



第 12 図　城山遺跡の調査地点（1 ／ 3,000）

古墳時代前期の住居跡１軒、中世以降の土坑13基、硬化面（近世の鋳造関連遺構か）１か所・ピット多数を確認した。教育委員会はこの結果をただちに依頼者に報告し、保存措置について検討を依頼した。

８月28日、教育委員会は施工責任者である仲介業者と確認調査の結果を踏まえて保存措置に関する協議を行った。その結果、宅地通常基礎部分は十分な文化財保護層を確保できることから盛土保存とし、宅地深基礎部分及び駐車場部分（面積115.70㎡）については、文化財保護層を確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

９月10日、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、志木市埋蔵文化財保存事業申請書が工事主体者兼土地所有者である個人から提出されたため、９月17日、教育委員会は施工責任者と発掘調査に係る事前協議を行った。

９月14日には、教育委員会は埋蔵文化財発掘届及び埋蔵文化財発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。

10月１日、教育委員会は、埋蔵文化財保存事業に係る協議書を開発主体者と取り交わし、同日には埋蔵文化財保存事業に係る協議書をもとに開発主体者と委託契約を締結した。これにより、教育委員会を調査主体とし、10月１日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を述べることとする。

平成27年

10月１日　重機（バックホー）による表土剥ぎ及び残土搬出作業を開始する。表土は表層から10～15㎝と浅いため、本日中に表土剥ぎ作業を終了する。簡易トイレを設置する。

２日　人員を導入し、調査器材搬入、調査区整備を行う。遺構確認作業を行う。

５日　原点移動を行い、調査区北東隅の境界杭天端をＢＭ＝10.824mとする。遺構精査に先立ち、撹乱の掘り下げを行う。南半部から精査開始。１～10Ｐ精査。７Ｐから堀之内式土器のやや大きめの破片が出土。

６日　ピット精査（６～11Ｐ）。1056Ｄ精査開始。

７日　ピット精査（７・12～15Ｐ）。1056Ｄ精査。1056Ｄ西側上層より須恵器坏片が出土した。覆土中には粘土塊が含まれることを確認した。

８日　調査区北側の精査を開始する。ピット精査（15～21Ｐ）。1056Ｄより縄文時代の所産と思われる垂飾が出土（遺構外扱い）。1056Ｄを完掘し、写真撮影と遺構図の作成を行う。

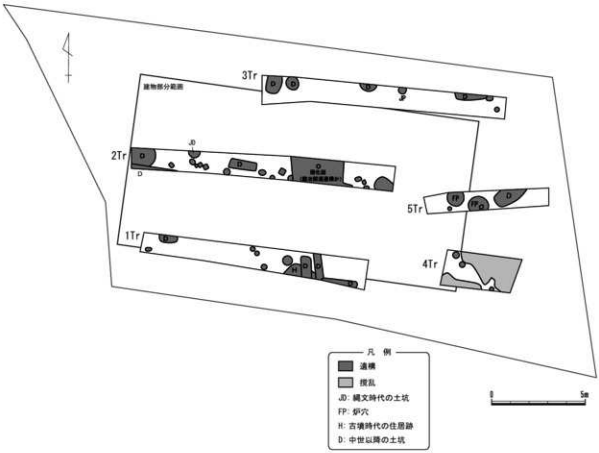
９日　ピット精査（22～35Ｐ）。北側には縄文時代のものと思われる細く深いピットが凝集的に分布しており、住居跡の存在が想定されたが、プランを確認することはできなかった。

13日　ピット精査（34～43Ｐ）。

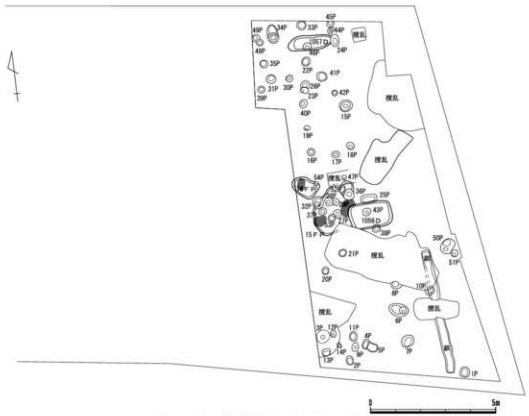
14日　ピット精査（44～51Ｐ）。調査区全景写真撮影。15・16ＦＰ精査。炉床を確認した。

15日　ピット精査（44～51Ｐ）。15・16ＦＰを完掘し、写真撮影と遺構図の作成を行う。精査終了。調査器材の撤収を行う。

16日　埋戻し作業を行う。発掘調査を終了する。



第 13 図　確認調査時の遺構分布（1 ／ 200）



第 14 図　遺構分布図（1 ／ 150）

第３節　検出された遺構・遺物

（1）概　要

本地点からは、縄文時代の炉穴２基（15・16ＦＰ）・ピット19本（１・３・５～７・11・13・18・21・22・27・32・35・36・38・40・41・50・51Ｐ）、古墳時代のピット４本（25・28・29・37Ｐ）、平安時代の土坑１基（1056Ｄ）・ピット（４Ｐ）、近世以降の土坑１基（1057Ｄ）、ピット５基（２・20・24・31・33Ｐ）、時期不明のピット25本（８・９・10・12・14～17・19・23・26・30・34・39・42～49・52～54Ｐ）が検出された。

出土遺物は、縄文時代後期の土器、平安時代の土器が出土した。特に、遺構外ではあるが縄文時代の硬玉製垂飾１点が出土している。

調査区東側が近世以降の撹乱を受けており、ローム漸移層や立川ロームⅢ～Ⅳ層上層が削平されていた。また、調査区南側にはバックホー等による掘削跡が確認されるなど、遺存状態は良好でなかった。

（2）炉　穴

15号炉穴

遺　構（第15図）

[**検出状況**] 調査区の中央やや西寄りに検出した。北端と南端の一部を攪乱で壊され、東端の一部を1056Ｄに切られる。調査区全体に及ぶ削平の影響で、覆土は殆ど確認されなかった。

[構　造] **平面形**：楕円形か。**規模**：長軸2.1m以上／短軸1.8m以上／深さ６㎝。**炉床**：２箇所確認した。

[覆　土] ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む暗赤褐～黒褐色土を基調とする。

[遺　物] 出土しなかった。

[時　期] 縄文時代早期か。

16号炉穴

遺　構（第15図）

[**検出状況**] 調査区中央西端に確認した。54Ｐに切られる。調査区全体に及ぶ削平の影響で、覆土は殆ど確認されなかった。

[構　造] **平面形**：楕円形。**規模**：長軸1.1m／短軸0.72m／深さ３㎝。**壁**：不明。**長軸方位**：Ｎ－45°－Ｗ。**炉床**：北西に１箇所確認した。

[覆　土] ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含む暗黄褐色土を基調とする。

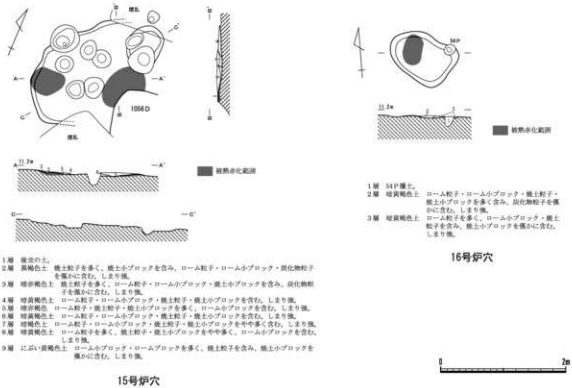
[遺　物] 出土しなかった。

[時　期] 縄文時代早期か。

（3）土　坑

1056号土坑

遺　構（第16図）



第 15 図　炉穴（1／60）

［検出状況］調査区中央に検出した。南西コーナーを撹乱に壊される。15ＦＰ、25・38・45Ｐを切る。

［構　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.70m／短軸1.02m／深さ26㎝。**壁：**60～80°で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－85°－Ｅ。

［覆　土］ローム粒子・ローム小ブロックを微量に含む暗褐色～黒褐色土を基調とし、中央部分には粘土塊が含まれていた。炭化物粒子や焼土粒子、径２～５㎝の被熱痕跡のある小礫を含む。

［遺　物］須恵器环形土器４点と須恵器甕形土器１点が出土した。

［時　期］平安時代（９世紀末葉）。

遺　物（図版７－１・第６表）

［土　器］（図版７－１－１～４、第６表）

１～３は須恵器环形土器、４は須恵器甕形土器である。１は鳩山製品、２・３は東金子製品か。

1057号土坑

遺　構（第16図）

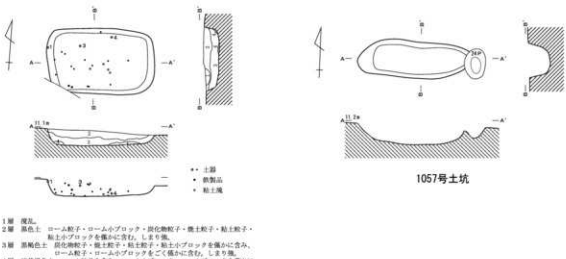
［検出状況］南調査区北端に検出した。24Ｐに切られる。

［構　造］**平面形：**長楕円形。**規模：**長軸1.80m／短軸0.6m／深さ40㎝。**壁：**南北の壁は緩やかに、東西の壁は急斜に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－85°－Ｅ。**底面：**凹凸が激しく、耕作痕？を残す。

［覆　土］ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。

［遺　物］出土しなかった。

［時　期］近世以降か。



第16図　土坑（1／60）

挿図番号	器種 種別	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	出土遺構 出土位置	遺存状態
図版7-1-1	須恵器 坏	厚0.4	体部下半はやや丸味をもつ／ロクロ成形／鳩山製品	暗灰黄	砂粒・礫微量、白色針状物質中量	西壁際上層	体部下半～底部小破片
図版7-1-2	須恵器 坏	厚0.3	体部は外傾する／ロクロ成形／酸化炎焼成／東金子製品か	黄灰	砂粒・礫微量	覆土中	体部小破片
図版7-1-3	須恵器 坏	厚0.5	体部下端に棱を持つ／ロクロ成形／底部に回転糸切痕を残す／内面に黒色のタール状物質が付着／東金子製品か	灰黄褐	砂粒微量	北西部上層	体部下半～底部小破片
図版7-1-4	須恵器 甕	厚0.7	内外面ナデ調整	黄灰	砂粒・礫微量	北壁際下層	胴部破片

第６表　1056号土坑出土土器一覧

（4）ピット

54本のピットを検出した。覆土の観察及び出土遺物を検討し、下記のとおり時期比定を行った。

縄文時代：19本（1・　3・　5～7・11・13・18・21・22・27・32・35・36・38・40・41・50・51Ｐ）。

古墳時代：４本（25・28・29・37Ｐ）。

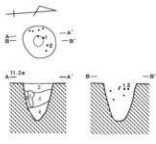
平安時代：１本（４Ｐ）。

中世以降：５本（２・20・24・31・33Ｐ）。

時期不明：25本（８～10・12・14～17・19・23・26・30・34・39・42～49・52～54Ｐ）。

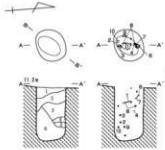
時期不明のものを除けば、縄文時代に比定されるものが多い。特に調査区南側に位置する７Ｐからは、堀之内式土器の破片が10点、魚骨（タイ）１点が出土している。11Ｐからは、注口土器の注口部破片が出土している。また、調査区北西部に位置する18・23・35Ｐについては、細く深い形態的特徴が共通しており、同一遺構を構成している可能性もある。

古墳時代から中世以降のピットについては、深さが40～50㎝程度と小規模なものが多い。調査区中央に位置する25・28・29Ｐからは古墳時代後期の土師器が６～16点出土しているが、掘立柱建築遺構等を想定させる形態・分布状況ではなかった。



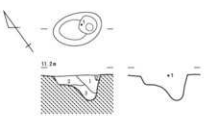
1層　褐乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。

3号ピット



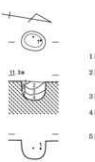
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
4層　暗褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱。

7号ピット



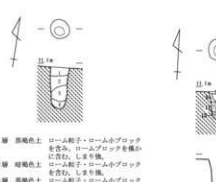
1層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

6号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり非常に強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。

11号ピット

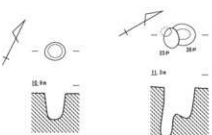


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

18号ピット

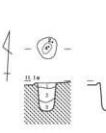
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・粘土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
10層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや。
11層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
13層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

25号ピット



21号ピット

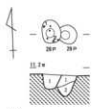
23･26号ピット



1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。

27号ピット

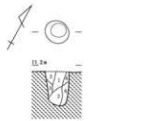
第17図　ピット1（1／60）



28P
1層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。

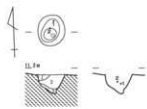
29P
1層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり非常に強。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。

28・29号ピット



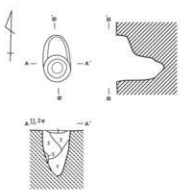
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
3層　黒褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
5層　黒色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　黒褐色土　ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

31号ピット



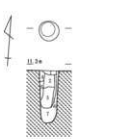
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。

32号ピット



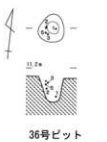
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまり弱。
4層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまり弱。
5層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

34号ピット

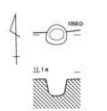


1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
4層：黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層：黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり中。
6層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

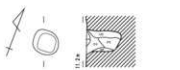
35号ピット



36号ピット

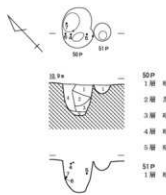


38号ピット



1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
4層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

41号ピット

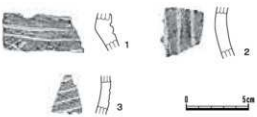


50P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。

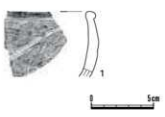
51P
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。

50・51号ピット

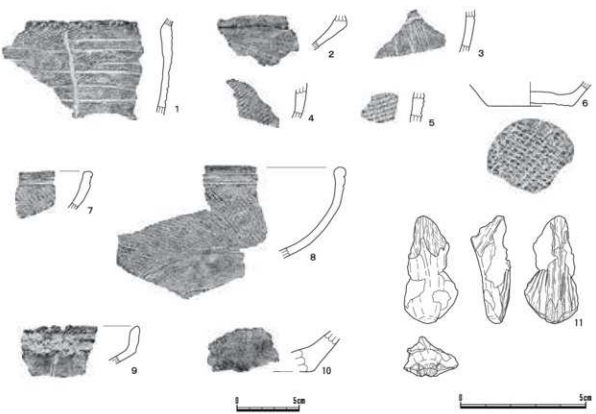
第18図　ピット2（1／60）



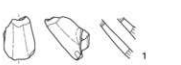
3号ピット



6号ピット



7号ピット

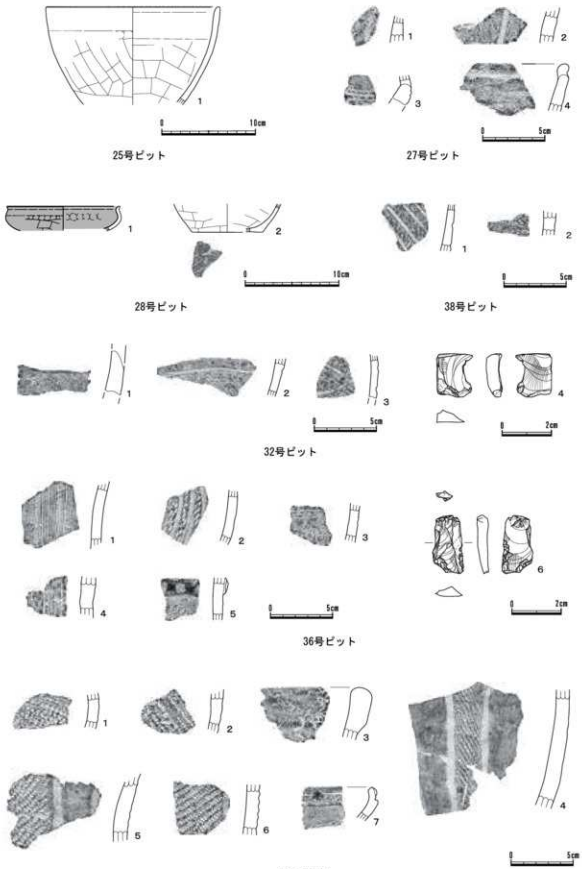


11号ピット

18号ピット

21号ピット

第 19 図　ピット出土遺物 1（1／3・2／3）



第 20 図　ピット出土遺物２（1／4・1／3・2／3）

遺構名	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
１Ｐ	隅丸方形	41	36	22	暗黄褐色土／ローム粒子を多く・ローム小ブロック・ロームブロックを含む／しまり強	なし	縄文
２Ｐ	楕円形	38	28	24	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	なし	中世以降
３Ｐ	円形	51	50	80	第17図に記載	土器：堀之内１式（３点59g）、後期（６点56g）	縄文後期 堀之内１式期
４Ｐ	楕円形	38	22	19	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	土器：瀧恵器（１点5g）／５Ｐを切る	平安 ９世紀後葉か
５Ｐ	楕円形	不明	32	10	暗黄褐色土／ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む／しまり中	土器：縄文後期（１点6g）／４Ｐに切られる	縄文後期
６Ｐ	楕円形	76	50	40	第17図	土器：縄文後期（１点23g）	縄文後期
７Ｐ	楕円形	54	46	83	第17図	土器：堀之内（10点331g）、縄文後期（８点40g）　魚骨１点	縄文後期 堀之内式期
８Ｐ	不明	47	不明	44	暗黄褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む／しまり中	なし	不明
９Ｐ	楕円形	37	26	43	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む／しまり強	なし	弥生以降か
１０Ｐ	円形	38	37	75	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む／しまり中	なし	弥生以降か
１１Ｐ	楕円形	38	30	30	第17図	土器：堀之内式（１点30g）、中後期（１点11.4g）	縄文後期 堀之内式期
１２Ｐ	楕円形	27	23	25	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	なし	不明
１３Ｐ	楕円形	34	28	22	黄褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む／しまり強	なし	縄文か
１４Ｐ	楕円形	22	16	13	黒褐色土／ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	なし	不明
１５Ｐ	楕円形	52	47	42	暗褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり非常に強い	なし	不明
１６Ｐ	楕円形	30	29	21	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	なし	弥生以降か
１７Ｐ	楕円形	32	25	21	暗黄褐色土／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	なし	不明
１８Ｐ	円形	30	30	67	第17図	土器：加曽利E3式（１点3.5g）、中期（２点21g）	縄文中期 加曽利E3式期
１９Ｐ	楕円形	26	20	38	黒褐色土／ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	なし	不明
２０Ｐ	楕円形	31	27	17	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み／炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	なし	中世以降
２１Ｐ	楕円形	34	29	40	暗褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む／しまり弱	土器：加曽利E3式（１点7g）、中期（２点9g）	縄文中期 加曽利E3式期
２２Ｐ	楕円形	38	31	19	黄褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む／しまり中	なし	縄文
２３Ｐ	楕円形	32	23	80	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む／しまり中	土器：縄文中～後期（１点4g）／２６Ｐを切る	弥生以降か
２４Ｐ	楕円形	48	34	18	１層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロックを含む。しまり強	なし	中世以降
２５Ｐ	楕円形	64	32	46	第17図	土器：古墳後期（16点198g）	古墳後期 7世紀中葉か
２６Ｐ	楕円形	不明	32	48	暗褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし／２３Ｐと重複	不明
２７Ｐ	円形	33	30	44	第17図	土器：加曽利E3式（３点49g）、中期（１点7g）	縄文中期 加曽利E3式期
２８Ｐ	楕円形	36	32	24	第18図	土器：土師器（８点92g）／２９Ｐを切る	古墳後期 6世紀前葉～7世紀中葉
２９Ｐ	円形	不明	29	32	第18図	土器：土師器（６点34g）／２８Ｐに切られる	古墳後期 6世紀代か
３０Ｐ	楕円形	30	26	29	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む／しまり中	なし	不明

第７表　ピット一覧（１）

遺構名	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
		長軸	短軸	深さ			
31 P	円形	37	34	54	第18図	なし	中世以降
32 P	楕円形	48	41	30	第18図	土器：加曽利E4式（1点8g）、堀之内式（1点15g）、後期（4点39g） 石器：剥片１点1g	縄文中～後期
33 P	楕円形	38	34	35	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む／しまり強	なし	中世以降
34 P	楕円形	66	44	72	第18図	なし	不明
35 P	円形	33	31	83	第18図	なし	縄文
36 P	円形	42	38	10	黒色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む／しまり強	土器：加曽利E4式（1点30g）、堀之内式（4点57g）、不明（4点16g）　石器：剥片１点1g	縄文中～後期
37 P	円形	28	26	30	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む／しまり強	土器：土師器（1点1g）	古墳後期か
38 P	円形	34	32	14	暗褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む／しまり中	土器：前期（1点5g）、堀之内式（1点11g）	縄文後期 堀之内式期か
39 P	円形	30	28	22	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み。ロームブロックを僅かに含む／しまり中	なし	弥生以降か
40 P	楕円形	36	30	15	黒褐色土／ローム粒子を含み・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む／しまり強	土器：黒浜（2点5g）	縄文前期 黒浜式期
41 P	隅丸方形	40	40	56	第18図	土器：縄文後期（1点4g）	縄文後期 堀之内式期
42 P	隅丸方形	22	22	21	黒色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含む／しまり強	なし	弥生以降か
43 P	楕円形	35	30	15	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロックロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む／しまり強	なし	弥生以降か
44 P	楕円形か	30	20	41	暗黄褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む／しまり中	なし	不明
45 P	楕円形	30	不明	29	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み。炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中	なし	不明
46 P	楕円形	34	31	57	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり弱	なし	弥生以降か
47 P	円形か	18	18	18	黒色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む／しまり中	なし	不明
48 P	円形	28	26	16	黒褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む／しまり中	なし／49Pを切る	不明
49 P	楕円形か	33	不明	23	暗黄褐色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む／しまり中	なし	不明
50 P	楕円形	64	44	50	第18図に記載	土器８点	縄文中期 加曽利E3式期
51 P	円形	29	26	14	第18図に記載	なし	縄文
52 P	楕円形	32	22	なし	黒色土／ローム粒子・ローム小ブロックを含み。ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む／しまり中	なし	不明
53 P	楕円形	32	28	8	黒色土／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む／しまり中	なし	不明
54 P	円形	19	18	15	黒褐色土／ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む／しまり中	なし	不明

第７表　ピット一覧（2）

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式
第19図1 図版7-2-1	3 P	深鉢	頸部 破片	厚1.0	屈曲する頸部	頸部に３本の沈線が横位に巡る／頸部から胴部に沈線が弧状に垂下／沈線は太く深い	にぶい黄橙／砂粒微量	縄文後期 堀之内1式
第19図2 図版7-2-2	3 P	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外反する胴部	無文の胴部に太く深い沈線が３本垂下	橙／砂粒・礫少量	縄文後期 堀之内1式
第19図3 図版7-2-3	3 P	深鉢	胴部 破片	厚0.7		単節RL横位施文を地文とし、沈線が４本引かれる	にぶい褐／砂粒微量	縄文後期 堀之内1式
図版7-2-1	4 P	須恵器 坏	底部 小破片	厚0.6	平底	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／底部に回転糸切痕を残す／東金子産か	灰黄褐／砂粒・礫微量	平安時代 ９世紀後葉か
第19図1 図版7-2-1	6 P	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	内湾する口縁／口肩部肥厚	口肩部直下に沈線横走／口縁部上端から左下がりに沈線	灰黄褐／砂粒・礫微量	縄文後期
第19図1 図版7-2-1	7 P	深鉢	胴部上半 破片	厚0.5	胴部上半でやや膨らみ、頸部で括れる／頸部付近は器厚0.9cmとやや肥厚	地文に単節LR横位施文／頸部に幅広の押引文が巡る／胴部には横位に沈線が数条施文／頸部から沈線が１本垂下	橙／砂粒中量、礫微量	縄文後期 加曽利B２～３式
第19図2 図版7-2-2	7 P	深鉢	胴部上半 破片	厚0.4	ソロバン玉状の体部の屈曲部か	体部上半は無文／屈曲部以下の地アブ下半には右下がりの沈線	明赤褐／砂粒・礫中量	縄文後期 加曽利B式
第19図3 図版7-2-3	7 P	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに内湾する胴部	地文単節RL横位／横位沈線数条／波状ないし弧状の沈線が垂下か	にぶい褐／砂粒微量	縄文後期 加曽利B式
第19図4 図版7-2-4	7 P	深鉢	胴部 破片	厚0.7		地文単節RL縦位	暗褐／砂粒・礫中量	縄文後期
第19図5 図版7-2-5	7 P	深鉢	胴部 破片	厚0.8		附加条？	にぶい赤褐／砂粒・礫多量	縄文中～後期
第19図6 図版7-2-6	7 P	深鉢	底部 破片	厚0.6	僅かに上底状を呈する底部	底部に網代痕を残す	褐灰／砂粒・礫多量	縄文後期 加曽利B式
第19図7 図版7-2-7	7 P	鉢か	口縁部 破片	厚0.6	内湾する口縁部／口縁部断面は半楕円形	口縁部上端に沈線が２本横走／磨滅により不明瞭だが、口縁部に単節RL横位施文か	にぶい褐／砂粒多量、礫微量	縄文後期 加曽利B式
第19図8 図版7-2-8	7 P	鉢	口縁部 破片	厚0.7	内湾する口縁	地文に単節RL横位施文／口縁部上端に細い沈線が二本横走／体部には細い沈線が二本弧状に施され、沈線間は磨消／外面磨消部と内面の一部に赤色顔料付着／内面には横位のミガキが顕著	暗褐／砂粒・礫少量	縄文後期 加曽利B２～３式
第19図9 図版7-2-9	7 P	浅鉢か	口縁部 破片	厚0.6	外形する体部／内傾する口縁部／口肩部断面は三角形状	口縁部上端と下端に単節RL横位／体部は無文	にぶい赤褐／砂粒・礫中量	縄文後期 加曽利B式
第19図10 図版7-2-10	7 P	浅鉢か	底部 破片	厚1.1	やや丸みのある底部／外傾して立ち上がる体部	無文	にぶい赤褐／砂粒・礫・雲母末中量	縄文中～後期
第19図1 図版7-2-1	11P	注口土器	注口部 破片	厚0.8	円筒状の注口部／横断面形はやや楕円形	僅かに器体部分が確認できる／注口部の根本部分	暗褐／砂粒・雲母末・白色粒子中量	縄文後期 堀之内式
第19図1 図版7-2-1	18P	深鉢	胴部 破片	厚0.6		地文単節LR縦位施文／太く深い直状沈線と太く浅い波状沈線が１本ずつ垂下	にぶい橙／砂粒・礫微量	縄文中期 加曽利E3式
第19図2 図版7-2-2	18P	深鉢	胴部 破片	厚0.9	薄手	単節RL縦位か	明褐／砂粒微量	縄文中期
第19図3 図版7-2-3	18P	深鉢	底部 破片	厚0.4	胴部最下端で僅かに張り出す	無文	暗赤褐／砂粒・礫少量	縄文中期
第19図1 図版7-2-1	21P	深鉢	胴部 破片	厚0.7			黒／砂粒・礫多量	縄文中～後期
第19図2 図版7-2-2	21P	深鉢	胴部下位 破片	厚0.7		地文単節RL縦位か／沈線２本単下／沈線間磨消し／沈線脇に円形の刺突文／内面ミガキ縦方向	明褐／砂粒・礫中量	縄文中期 加曽利E3式
第20図1 図版7-2-1	25P	土師器 鉢	口縁部～胴部 中位 10%	厚0.6	口縁部は直立気味／最大径は口縁部にある	口縁部は内外面横ナデ／以下は内面がヘラナデ、外面がヘラ削り後ヘラナデ（スリップか）／在地系土師器	にぶい黄橙／砂粒多量、礫微量	古墳後期 ７世紀中葉か

第８表　ピット出土土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第20図1 図版7-2-1	27P	深鉢	胴部 破片	厚0.9		太い沈線が垂下／沈線脇は磨消し部か／被熱痕跡顕著	にぶい赤褐／砂粒中量	縄文中期 加曽利E3式か
第20図2 図版7-2-2	27P	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外傾する胴部	太い沈線垂下／地文はLR縦位施文か／被熱痕跡顕著	にぶい赤褐／砂粒中量	縄文中期 加曽利E3式か
第20図3 図版7-2-3	27P	深鉢	胴部 破片	厚0.7		半截竹管状工具による並行沈線横走	にぶい褐／砂粒・礫中量	縄文中期後葉
第20図4 図版7-2-4	27P	浅鉢か	口縁部 破片	厚0.9	外傾する口縁部／直立する口唇部	口縁部上端に太く浅い沈線が横走／無文／被熱痕跡顕著	明赤褐／砂粒多量、礫微量	縄文中期 加曽利E3式か
第20図1 図版7-2-1	28P	土師器 坏	口縁部～底部 破片	厚0.3	口縁部は短く外反する／口縁部と底部との境は丸い	いわゆる比企型坏／外面：口縁部横ナデ、以下はヘラ磨き調整／内面：横ナデ／口縁部直下に指頭圧痕／入間系土師器	赤褐／砂粒・礫少量	古墳後期 6世紀前葉
第20図1 図版7-2-2	28P	土師器 甕	胴部下半～底部 破片	厚0.4	長甕／平底	外面はヘラ削り／内面はヘラナデ／底部に木葉痕あり	橙／砂粒多量	古墳後期 7世紀中葉か
第20図1 図版7-2-1	32p	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	やや内湾して内傾する口縁部	口縁部上端は粘土積上部分で剥離／無文	にぶい褐／砂粒・礫中量	縄文中～後期
第20図2 図版7-2-2	32p	深鉢	胴部 破片	厚0.7	外傾する胴部	沈線が横走／沈線以上は無文／沈線以下は浅い沈線が右下がりに施文	にぶい褐／砂粒・礫中量	縄文後期 堀之内式
第20図3 図版7-2-3	32p	深鉢	胴部 破片	厚0.5		地文単節RL／沈線による山形文／沈線間無文／施文順序は沈線→地文	黒褐／砂粒微量	縄文中期 加曽利E4式か
第20図1 図版8-1-1	36P	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外反する	地文条線縦方向	にぶい赤褐／砂粒多量	縄文中期 加曽利E4式か
第20図2 図版8-1-2	36P	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに内湾	地文は雲の大きい懸垂L縦位施文か／浅い沈線が弧状に垂下	橙／砂粒少量、礫微量	縄文後期 堀之内1式
第20図3 図版8-1-3	36P	深鉢	胴部 破片	厚0.8		地文無文／細い沈線3本横走	にぶい赤褐／砂粒多量	縄文後期
第20図4 図版8-1-4	36P	深鉢	胴部中位 破片	厚1.0	外反する胴部	地文は縦方向の条線／半截竹管状工具による雲の脇面による沈線が垂下	にぶい赤褐／砂粒・礫中量	縄文中～後期
第20図5 図版8-1-5	36P	深鉢	胴部 破片	厚0.7		押捺を伴う太い隆帯が横走／地文無文	にぶい褐／砂粒・礫少量	縄文後期 堀之内式
第20図1 図版8-1-1	38P	深鉢	胴部 破片	厚0.6		地文縄文不明瞭／沈線が４本弧状に垂下	橙／砂粒・礫微量	縄文後期 堀之内1式
第20図2 図版8-1-2	38P	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに外反	地文に単節RLの横位施文か	暗褐／砂粒微量、繊維中量	縄文前期前半
第20図1 図版8-1-1	50P	深鉢	胴部 破片	厚0.8		地文単節RL横位施文	褐／砂粒・礫微量、繊維中量	縄文前期前半
第20図2 図版8-1-2	50P	深鉢	胴部 破片	厚0.9		地文単節RL横位施文／ループ文／部分的に羽状構成をとるか	褐／砂粒・礫微量、繊維	縄文前期 関山式期か
第20図3 図版8-1-3	50P	深鉢か	口縁部 破片	厚1.3	僅かに内湾／口縁部上端で肥厚	口縁部肥厚断面下に太い沈線が横走	橙／砂粒・礫中量	縄文中期 加曽利E3式
第20図4 図版8-1-4	50P	深鉢	胴部下位 破片	厚1.2	やや内湾	地文単節LR縦位施文／太く浅い沈線２本垂下／沈線脇磨消	暗褐／砂粒・礫少量	縄文中期 加曽利E3式
第20図5 図版8-1-5	50P	深鉢	胴部中位 破片	厚1.2	やや外反	地文単節RL縦位施文／太く浅い沈線が２本垂下／沈線間磨消し	明赤褐／砂粒少量、礫多量	縄文中期 加曽利E3式
第20図6 図版8-1-6	50P	深鉢	胴部 破片	厚0.9		地文単節RL縦位施文／破片右端に沈線垂下	褐／砂粒・礫微量	縄文中期 加曽利Ｅ式
第20図7 図版8-1-7	50P	深鉢か	口縁部 破片	厚0.6	体部は外傾／口縁部は内折	口縁部には単節LR横位施文／円形貼付文／口縁部の上端と下端に沈線横走	にぶい褐／砂粒微量	縄文後期 堀之内式

第８表　ピット出土土器一覧（2）

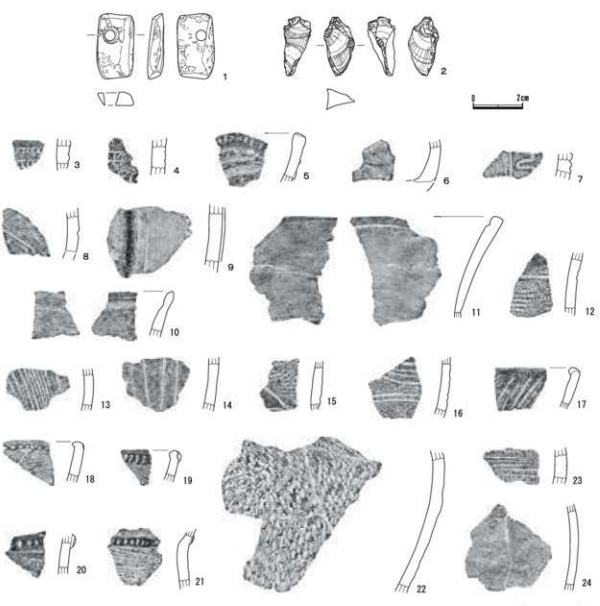
（５）遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、遺構内であるが明らかに他時期の混入品である遺物を前項までの遺構帰属の遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。第９・10表「出土遺構・出土位置」項中に出土遺構を記しているが、それぞれの遺構に帰属させるものではなく、出土位置として示している。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の石器・石製品、縄文時代の土器、弥生時代後期の土器、古墳・平安時代の土器、中世の土器に分類する。

１．縄文時代の石器・石製品（第21図１・２、第９表）

１は硬玉製の垂飾、２は黒曜石製の剥片である。



第21図　遺構外出土遺物（２／３・１／３）

２．縄文時代の土器（第21図３～23、第10表）

３～５は縄文時代前期後葉諸磯ｂ式土器である。６・７は縄文時代中期の土器である。８～23は堀之内式を中心とした縄文時代後期の土器である。

３．弥生時代後期の土器（第21図24、図版８－２－24、第10表）

24は鉢形土器あるいは高坏の体部破片と思われる。

４．古墳・平安時代の土器（図版８－２－25～29、第10表）

25～28は古墳時代後期の土器で、25は土師器坏形土器、26～28は土師器甕形土器である。

29は平安時代の土器で、須恵器坏形土器である。

５．中世の土器（図版８－２－25～30・31、第10表）

30はかわらけである。31は焙烙である。

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器　種	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴
第21図1 図版8-2-1	1056D	垂飾	硬玉 （ヒスイ）	25.9	14.8	6.4	4.7	完形／全面に研磨が施される／表面から裏面の一方向に穿孔が施される
第21図2 図版8-2-2	1056D	不規則剥離のある剥片	黒曜石	23.4	12.1	10.9	2.0	完形／裏面右側縁に微細な剥離が認められる／左面はズリ面

第９表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　様・特　徴	胎　土	時　期 型　式
第21図3 図版8-2-3	15P	深鉢	頸部 破片	厚0.9		半截竹管状工具の押引きによる結節沈線	橙／砂粒・礫中量	縄文前期後葉 諸磯ｂ式
第21図4 図版8-2-4	1056D	深鉢	胴部 破片	厚1.0		幅広の半截竹管状工具の押引きによる結節沈線	橙／砂粒・礫中量	縄文前期後葉 諸磯ｂ式
第21図5 図版8-2-5	遺構外	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	僅かに内湾して外傾	口唇部に刻目／地文無文の口縁部に細い隆帯が横走／隆帯上の加飾はなし	褐／砂粒・礫・雲母未微量	縄文前期後葉 諸磯ｂ式
第21図6 図版8-2-6	1057D	深鉢	底部 破片	厚0.9	僅かに膨らみながら立ち上がる	無文	にぶい黄褐／砂粒・雲母未少量	縄文中期中葉 阿玉台式
第21図7 図版8-2-7	1056D	深鉢	胴部 破片	厚1.1		沈線による入組文	暗赤褐／砂粒・礫中量	縄文中期中葉 勝坂3式
第21図8 図版8-2-8	15P	深鉢	胴部 破片	厚0.9		沈線による弧線文／単節RL充填縄文か	にぶい褐／砂粒微量	縄文後期初頭 称名寺式
第21図9 図版8-2-9	2P	深鉢	頸部 破片	厚1.0		背の低い幅広の隆帯垂下／地文に浅い沈線が縦走するか	にぶい褐／砂粒・礫少量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図10 図版8-2-10	39P	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口縁部外傾	口唇部内面で太く浅い沈線でおさえる／口縁部無文	赤褐／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図11 図版8-2-11	34P	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	外反して広がる口縁部	外面無文／口縁部内面上端に沈線巡る	にぶい黄褐／砂粒・礫少量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図12 図版8-2-12	34P	深鉢	頸部 破片	厚0.7	胴部上位で僅かに内湾／口縁部で外傾	頸部に沈線横走／口縁部無文／胴部RL斜位施文	橙／砂粒微量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図13 図版8-2-13	1056D	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに内湾	斜向の沈線文	褐／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図14 図版8-2-14	遺構外	深鉢	胴部下位 破片	厚0.7	外傾する胴部	無文の胴部に浅い沈線が４本垂下	橙／砂粒微量、礫少量	縄文後期前葉 堀之内1式
第21図15 図版8-2-15	1056D	深鉢	胴部 破片	厚0.7		地文単節LR横位／弧状の沈線施文／沈線内無文／充填縄文か	褐／砂粒中量、礫微量	縄文後期前葉 堀之内2式

第10表　遺構外出土土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第21図16 図版8-2-16	10P	深鉢	胴部 破片	厚0.7		地文LR横位施文／沈線による弧状文	暗赤褐／砂粒中量	縄文後期前葉 堀之内2式
第21図17 図版8-2-17	遺構外	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	口縁部外傾／口唇部内面で肥厚	口縁部に浅い沈線による斜行文／粗製土器	暗褐／砂粒・礫中量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図18 図版8-2-18	1056D	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口縁部外傾／口唇部内面で肥厚	口唇部外面に刻目が巡る／口縁部にナデ状の調整痕／粗製土器	褐／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図19 図版8-2-19	25P	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	やや外傾	口唇部外面に刻目が巡る／口縁部にナデ状の調整痕／粗製土器	褐／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図20 図版8-2-20	1056D	深鉢	胴部 破片	厚0.7		刻目を伴う隆帯貼付／粗製土器	橙／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図21 図版8-2-21	1056D	深鉢	頸部 破片	厚0.7	僅かに内湾する胴部／外傾する口縁部	頸部に刻目を伴う隆帯巡る／胴部に地文沈線斜位／内面横方向のミガキ顕著／粗製土器	橙／砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図22 図版8-2-22	39P	深鉢	胴部上位 破片	厚0.9	外傾してやや内湾／破片上端で外傾	地文は節の粗い単節LR斜位施文／粗製土器か	明赤褐／砂粒・礫少量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図23 図版8-2-23	1056D	深鉢	胴部 破片	厚0.8		格子目状の条線文／粗製土器か	暗褐／砂粒・礫中量	縄文後期前葉 堀之内式
第21図24 図版8-2-24	50P	鉢	体部上半～下半 破片	厚0.6	高坏の可能性もあり／全体に内湾する	体部上半に横位の単節斜縄文RL地文／以下は無文／全面赤彩	褐／砂粒多量、礫微量	弥生後期
図版8-2-25	1056D	土師器 坏	口縁部 破片	厚0.4	口唇部内面に沈線がまわる／口縁部と底部との境は稜をもつ	いわゆる比企型坏／口縁部外面及び内面は赤彩／口縁部外面は横ナデ、以下はヘラ削り／内面は横ナデ／入間系土師器	にぶい赤褐／砂粒・礫微量	古墳後期 (7世紀中葉か)
図版8-2-26	遺構外	土師器 甕	口縁部 破片	厚0.6	長甕／口縁部は外反する	口縁部内外面は横ナデ／在地系土師器	橙／砂粒多量	古墳後期 (7世紀中葉か)
図版8-2-27	3P	土師器 甕	胴部中位 破片	厚0.7	胴部はやや膨らみをもつ	内面はヘラナデ、外面はヘラ削り／在地系土師器	橙／砂粒多量、雲母末中量	古墳後期 (7世紀代)
図版8-2-28	遺構外	土師器 甕	底部 破片	厚0.7	長甕か／やや上底状	内面はヘラナデ、外面はヘラ削り／在地系土師器	橙／砂粒多量	古墳後期 (7世紀代)
図版8-2-29	遺構外	須恵器 坏	口縁部 破片	厚0.3	口縁部は外傾する	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転／東金子製品	黄灰／砂粒・礫微量	平安時代 (9世紀後葉か)
図版8-2-30	遺構外	かわらけ	底部 破片	厚0.9	底部は比較的に厚い／平底	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕あり／焼成良好	浅黄橙／砂粒微量	中世 (16世紀代か)
図版8-2-31	3P	焙烙	口縁部～底部 破片	高5.0 厚1.0	口縁部は肥厚／全体に外傾するが口縁部はやや内湾する／平底	内外面は横ナデ／外面体部下半には指頭による成形痕が残る／全体に黒く煤けている	石英・砂粒中量	中世 (16世紀後半か)

第10表　遺構外出土土器一覧（2）

第４章　西原大塚遺跡第207地点の調査

第１節　遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町２～４丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約１㎞に位置している。北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの広がりをもち、遺跡面積163,930㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で８mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、概ね平坦である。遺跡西側中央、台地から低地へうつる斜面に湧水点が確認されており、そこを中心に括れている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。平成29年１月31日現在で、211地点に対して確認調査・発掘調査を実施している（第22図）。

これまでの調査の結果、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約180軒からなる大規模な環状集落跡が形成され、また弥生時代後期から古墳時代前期では住居跡約600軒からなる大規模集落跡が形成されていたことが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

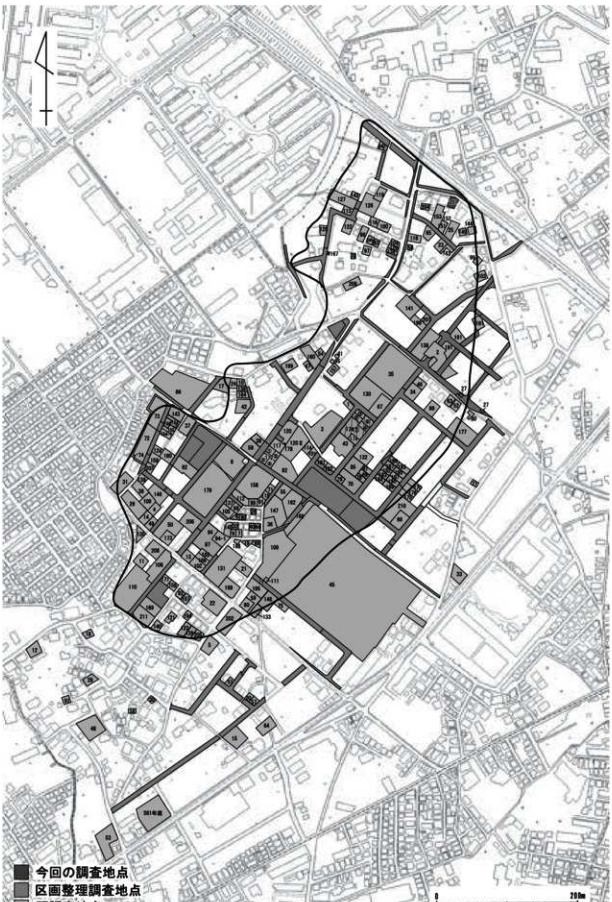
平成27年９月、土木工事主体者である個人（以下、工事主体者）から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町２丁目6197番１・２（面積152.09㎡）地内に共同住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード11228－09－007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

９月10日、教育委員会は工事主体者より確認調査依頼書を受理し、西原大塚遺跡第207地点として９月24日に確認調査を実施した。確認調査は、第23図に示すように調査区の南北方向に２本のトレン



第22図　西原大塚遺跡の調査地点　（1／5,000）　平成29年1月31日現在

チ（１・２Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡２軒を確認した。

教育委員会は、この結果をただちに工事主体者に報告し、埋蔵文化財の保存措置について協議を行った。その結果、今回の共同住宅建設にあたって地盤改良工事（柱状改良）を施工する計画であることから、記録保存（発掘調査）として取り扱うこととなった。

10月７日、工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出され、同15日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。同日、志木市と工事主体者の間で志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書が取り交わされ、委託契約を締結した。

教育委員会は、10月14日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出し、10月21日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第11表の発掘調査工程表に示した。

平成27年

10月21日　発掘調査開始。表土剥ぎ作業を開始する。残土は調査区内で処理する必要があるため、調査区を①西半部②東半部③南半部に３分し、それぞれ表土剥ぎ・反転作業を行うこととした。午前中に西半部の表土剥ぎが終了し、午後から人員を導入し、調査器材搬入・調査区整備を行い、同時に遺構確認作業を行った。弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡２軒（598Ｙ、599Ｙ）、方形周溝墓１基（35方）を確認した。

10月22日　35方（当初は１号円形周溝墓として調査）の精査を開始。ベルトＡ－Ａ'を設定し、掘り下げを行い、ほぼ底面まで検出した。西半部北東隅に35方に切られる597号住居跡を確認した。

10月23日　35方精査。溝底面より土坑（749Ｄ）を検出した。Ａ－Ａ'の土層観察により、35方に伴う溝内土坑であると判断した。749Ｄからは微細遺物の出土が見込まれたことから、下層の土壌に対して水洗選別（ウォーターセパレーション）を実施したが、微細遺物を得ることはできなかった。Ａ－Ａ'土層断面の写真撮影・図化作業を行った。

10月26日　35方完掘。遺構平面図及びエレベーション図を作成。597Ｙ精査開始。

10月27日　35方の完掘写真を撮影し、精査終了。597Ｙを完掘し、写真撮影及び図化作業を行う。南側に確認していた598Ｙと599Ｙについては、両者が重複していることに加えて599Ｙが東半部まで広がっていることから、南半部の調査として精査を実施することとし、西半部としての精査を終了した。

10月28日　反転作業を行う。西半部の埋戻し、東半部の表土剥ぎを行った。遺構確認作業を行った。西半部から延びる35方と597Ｙを確認した。

10月30日　35方精査。35方のプラン確認と597Ｙとの層位関係の記録を目的に、Ａ－Ａ'セクションベルトを設定し、掘り下げを開始した。溝底面付近で壺形土器片が集中して出土した。遺物出土状態、Ａ－Ａ'ベルトの写真撮影・図化作業を行った。

11月２日　雨天中止。

11月４日　35方精査。Ａ－Ａ´ベルトを除去し、完掘した。遺構写真及び図化作業を行った。35方の精査を終了した。597Ｙの精査を開始した。

11月５日　597Ｙ精査。床面をほぼ全面検出した。炉跡や主柱穴などの付帯施設を確認し、精査する。覆土中や床面直上から甕形土器や壷形土器が出土した。また、炉跡には壷形土器の口縁部が埋設されていた。

11月６日　597Ｙ精査。遺物出土状態と遺構検出状況の写真撮影及び図化作業を行った。

11月９日　597Ｙ精査。貼床部分の掘り下げを行い、597Ｙ精査を終了した。

11月10日　反転作業を行う。東半部を埋戻し、南半部の表土剥ぎを行った。598Ｙと599Ｙを改めて確認した。

11月11日　遺構確認作業を行った結果、598Ｙが599Ｙを切っていると想定されたため、598Ｙから精査を開始した。598Ｙの土層断面は調査区西壁及び南壁で観察・記録することとし、ベルト設定はせずに掘り下げた。覆土にローム塊や炭化物が多量に含まれていることが観察された。

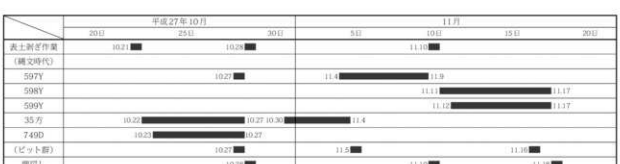
11月12日　598Ｙ精査。床面直上から覆土下層にかけて、棒状ないし板状の炭化材が出土。599Ｙ精査開始。ベルトを設定した上で598Ｙのプランに影響を与えない東側の掘り下げを開始。

11月13日　598Ｙ精査。遺物・炭化材出土状態の写真撮影及び図化作業。

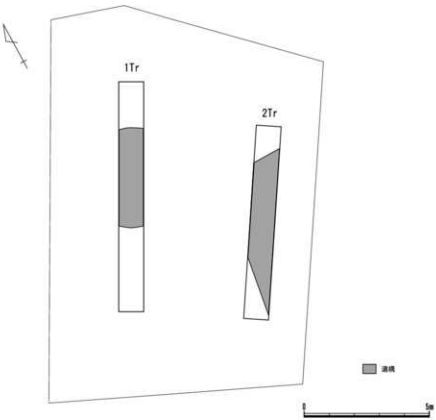
11月16日　598Ｙ・599Ｙ精査。598Ｙの柱穴・壁溝・炉跡精査。599Ｙ西側の掘り下げ。Ａ－Ａ´セクション写真撮影・図化作業。炉跡検出。３～６Ｐ精査。

11月17日　598Ｙ・599Ｙを完掘し、遺構写真撮影及び図化作業を行う。本日で精査終了。

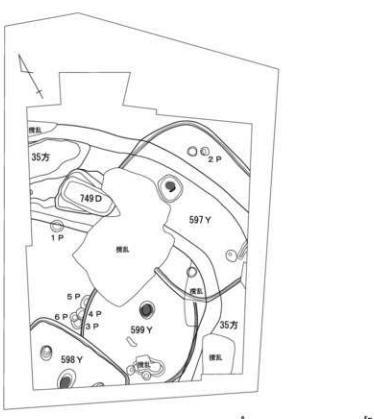
11月18日　埋戻し作業を行う。発掘作業終了。



第11表　西原大塚遺跡第207地点の発掘調査工程表



第23図　確認調査時の遺構分布図（1／150）



第24図　遺構分布図（1／150）

第３節　検出された遺構・遺物

（１）概　要

本地点からは、縄文時代のピット５本（１・３～６Ｐ）、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡３軒（597～599Ｙ）、方形周溝墓１基（35方）、土坑１基（749Ｄ）、時期不明のピット１本（２Ｐ）が検出された。

特に、749号土坑については、35号方形周溝墓の周溝内からの検出であり、土層堆積状況の観察の結果（第33図）から、35号方形周溝墓に伴う溝内土坑と考えられる。

（２）住居跡

597号住居跡

遺　構（第25図）

[**検出状況**] 599Ｙを切り、35方に切られる。北西コーナーは攪乱により破壊され、南東コーナーは調査区外である。西半部調査時に北西コーナー部分を確認した。住居跡の大部分は東半部において精査を行った。住居中央部分の覆土は35方によって切られていたが、住居縁辺部及び床面付近の覆土は遺存していた。

[**構　造**] **平面形：**隅丸方形。**規模：**長軸6.75m／短軸5.46m／確認面からの深さ42～45㎝。**壁：**80°程度で直線的に立ち上がる。**長軸方位：**炉跡と入口ピット（Ｐ３）を結ぶ線を主軸とし、Ｎ―12°―Ｗ。**壁溝：**全周する。上幅８～12㎝／下幅４～６㎝／深さ４～７㎝。**床面：**壁際を除き、硬化面を検出した。貼床は薄く、２～４㎝の厚さで施されていた。**炉跡：**住居跡中央やや北寄りに検出した。地床炉である。南側に壷形土器の口縁部（第26図１）が埋設されていた。掘り込みは長軸99㎝／短軸93㎝／深さ11㎝。被熱範囲は長軸54㎝／短軸51㎝／深さ11㎝まで及んでいた。壷形土器内面の被熱痕跡は僅かである。**貯蔵穴：**検出されなかった。凸堤と想定される高まりを住居跡南側で検出した。貯蔵穴は調査区外に位置すると思われる。**柱穴：**３本検出した。Ｐ１・Ｐ２が主柱穴、Ｐ３が入口ピットと思われる。Ｐ１・Ｐ２の覆土には柱痕跡が確認された。**入口施設：**Ｐ３が入口ピットと思われる。南側から北側へ斜行している。入口施設に伴う凸堤や硬化面は検出されなかった。

[**覆　土**] 35方に住居中央付近の覆土を切られる。上層（３・４層）は黒褐色土が堆積しており、５層以下は10層と壁際及び床面直上を除き、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調とする。

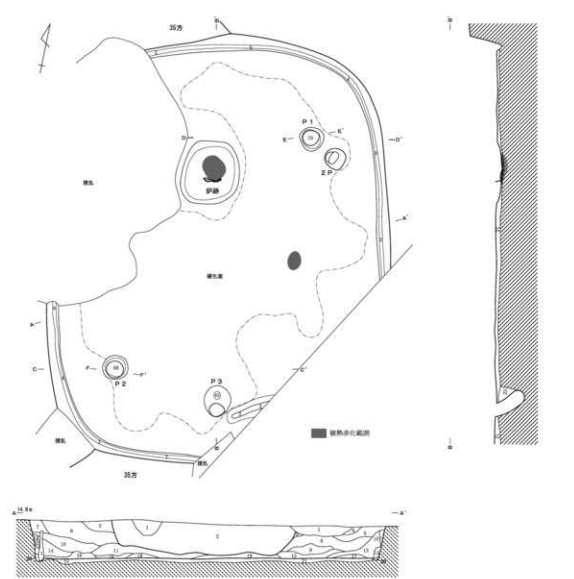
[**遺　物**] 壷・甕形土器が出土した。第26図１は口頸部の３分の２が炉跡に埋設され、残る３分の１は住居跡北東コーナー付近の床面直上から出土したものが接合している。また、住居跡北東コーナーから比較的大型の資料がまとまって出土し、南西コーナーでは台付甕形土器の脚部（第26図３）が床面直上で出土した。

[**時　期**] 弥生時代後期後葉。

遺　物（第26図、第12表）

[**土　器**]（第26図１～15、第12表）

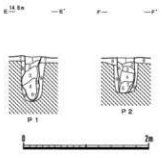
１・５～11は壷形土器、２～４・12～15は甕形土器である。



1層　撹乱。
2層　35 号祈祠講築種土。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
9層　黒褐色土　ローム粒子をごく僅かに含む。しまり低。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
13層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
16層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
18層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり中。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非常に強。
22層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

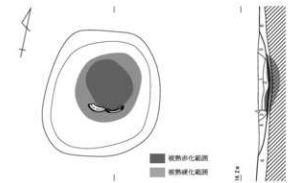
0　2m

第 25 図　597 号住居跡・遺物出土状態（1 ／ 60）



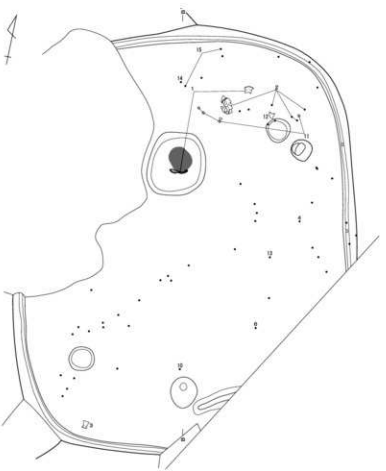
E－E'
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非常に強。貼床。
8層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。

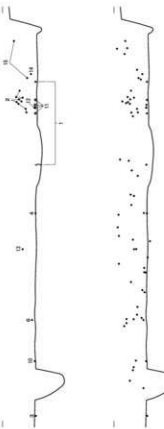
F－F'
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり強。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
6層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり非常に強。貼床。
9層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。

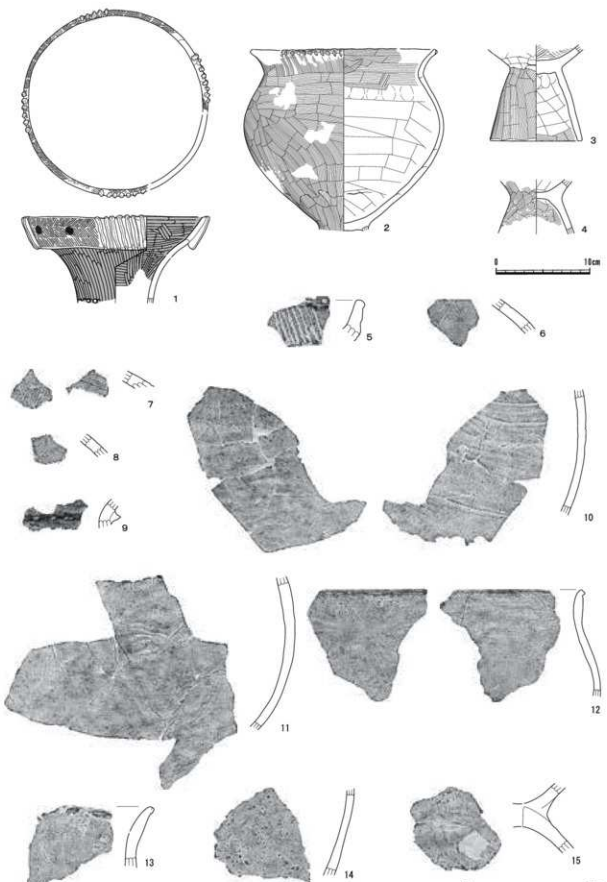


1層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
4層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。貼床。

炉跡（1／30）







第26図　597号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

598号住居跡

遺　構（第27・28図）

［**検出状況**］北東コーナーから東壁部分の検出で、大部分は調査区外である。599Ｙを切る。南半部調査時に精査した。

［**構　造**］**平面形**：隅丸方形か。北壁は直線的。**規模**：長軸不明／短軸推定4.6m／確認面からの深さ51～62㎝。**壁**：85°程度でほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｐ１とＰ２を結ぶ線に直交する炉跡の長軸を主軸と想定し、Ｎ－65°－Ｅ。**壁溝**：検出した範囲では全周する。上幅10～12㎝／下幅６㎝／深さ８～14㎝。**床面**：全面が硬化していた。壁際が深く掘り込まれ、10㎝程度の厚さで貼床が施されていた。また、壁際まで貼床が施されており、壁溝のプラン確認では幅２～３㎝程度であった。**炉跡**：調査区西際に検出した。地床炉である。長軸推定96㎝／短軸65㎝／深さ４㎝。被熱の痕跡は長軸56㎝／短軸36㎝／深さ6㎝に及んでいた。炉跡内から第29図４が出土した。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：２本検出した。Ｐ１・Ｐ２とも主柱穴と思われる。**入口施設**：検出されなかった。

［**覆　土**］床面付近を除き、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐色～黒褐色土を基調とする。Ａ－Ａ'９層は炭化物粒子主体層であり、また17層直上には板状の炭化材の断面が観察できた。

［**遺　物**］壷・甕形土器が出土した。北壁際の床面直上から壷形土器（第29図１）が出土したほかは、小破片のみの出土である。炭化材は２～３㎝程度浮いた状態で出土した。北東コーナーの炭４～12は板状を呈しており、住居の壁際から中央に向かって傾斜した状態で検出した。尚、炭化材についてはサンプリングを行い、自然科学分析を行った。炭化材の分析結果は、付編「自然科学分析」参照。

［**時　期**］弥生時代後期後葉。

［**所　見**］床面上から炭化材や焼土粒子・焼土小ブロックが検出されていることから、焼失住居と思われる。

遺　物（第29図、第13表）

［**土　器**］（第29図１～11、第13表）

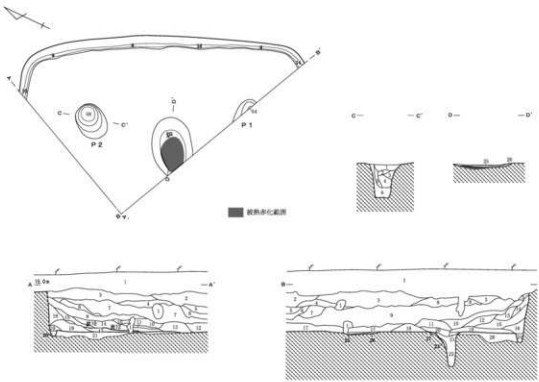
１～９は壷形土器、10・11は甕形土器である。

599号住居跡

遺　構（第30図）

［**検出状況**］597Y・598Ｙ・35方に切られる。北東コーナー付近を撹乱に壊される。南半部調査時に精査を行った。

［**構　造**］**平面形**：楕円形か。**規模**：長軸不明／短軸4.56m／確認面からの深さ29～51㎝。**壁**：85～90°でほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：炉跡とＰ１を結ぶ線を主軸とし、Ｎ－43°－Ｅ。不明。**壁溝**：全周すると思われる。上幅10㎝／下幅７～11㎝／深さ４～７㎝。**床面**：壁際を除き硬化した面を検出した。壁際がやや深く掘り込まれており、貼床は４～13㎝の厚さで施されていた。**貯蔵穴**：住居跡南壁際に検出した。長軸36㎝／短軸34㎝／深さ31㎝。撹乱に壊され不明瞭であるが、幅広の凸堤が貯蔵穴を囲んでいた。**柱穴**：１本検出した。Ｐ１は入口ピットと思われる。主柱穴は検出されなかった。**入口施設**：Ｐ１が入口ピットと思われる。**その他**：住居跡南東コーナー付近に僅かながら赤色砂利層を検出した。径１～２㎜の円礫を僅かに含んでいた。



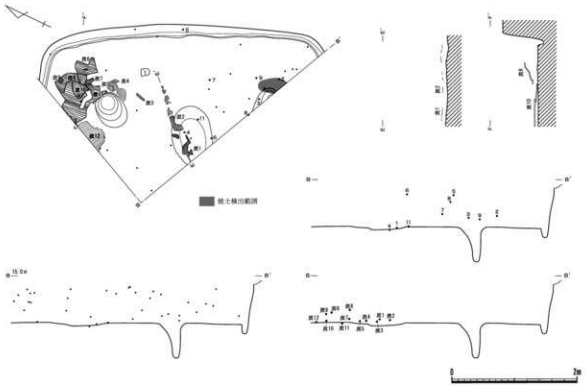
A－A'
1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
7層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
8層　明黄褐色土　ローム小ブロックを非常に多く、ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
9層　黒色土　炭化物粒子を含み、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり強。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
11層　黒色土　炭化物粒子・炭化材を含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、ロームブロック・炭化材・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材を含み、ロームブロック炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
16層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。
17層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。
18層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
19層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまり強。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり弱。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。結床。

C－C'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
2層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
3層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、炭化物粒子を僅かに含む。しまり非常に強。
5層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
6層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。

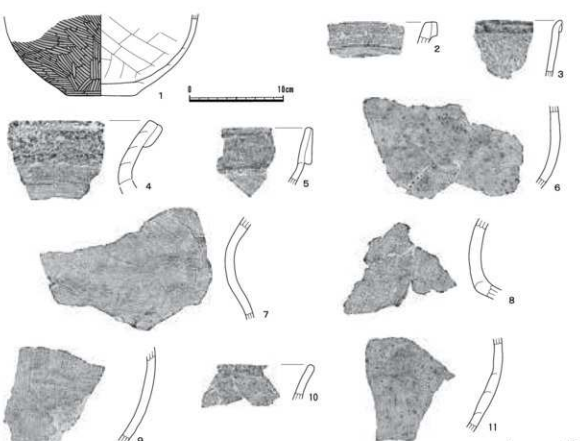
B－B'　D－D'
1層　表土及び撹乱。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
7層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・炭化材・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
11層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
12層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
15層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
16層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
17層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・炭化材を含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりやや。
18層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや。
19層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
20層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり強。
21層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり弱。
22層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
23層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
24層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
25層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり弱い。
26層　黒褐色土　炭化物粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
27層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり強。
28層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり非常に強。結床。

0　2m

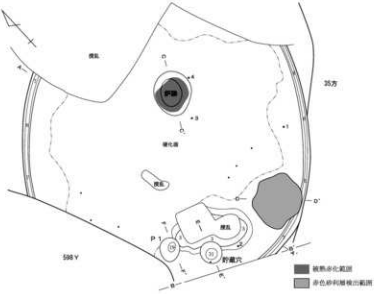
第 27 図　598 号住居跡（1／60）

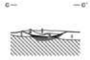


第 28 図　598 号住居跡遺物出土状態（1 ／ 60）



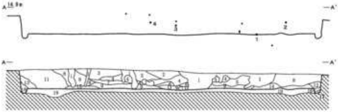
第 29 図　598 号住居跡出土遺物（1 ／ 4・1 ／ 3）



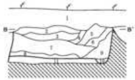


1層　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗赤褐色土　焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・径１～２mmの円礫を僅かに含む。しまり強。

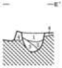


1層　撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・炭化材を僅かに含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック炭化物粒子・炭化材を僅かに含む。しまり中。
9層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
10層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
12層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
13層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
14層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
15層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
17層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
18層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
19層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。



1層　表土および撹乱。
2層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。
3層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり中。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

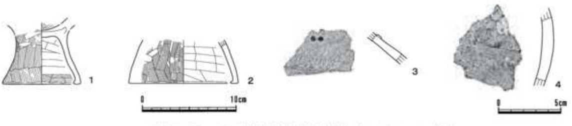
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。



1層　暗褐色土　ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり弱。
2層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまり弱。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり弱。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまり強。貼床。

0　2m

第 30 図　599 号住居跡・遺物出土状態（1 ／ 60）



第 31 図　599 号住居跡出土遺物（1 ／ 4・1 ／ 3）

［覆　　土］撹乱の影響でやや不明瞭ではあるが、壁際ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色を基調とする。

［遺　　物］壷・甕形土器の破片が少量出土した。第31図１の台付甕形土器の脚台部は住居跡東壁際の床面直上から出土した。

［時　　期］弥生時代後期後葉。

遺　　物（第31図、第14表）

［土　　器］（第31図１～４、第14表）

１・２・４は甕形土器、３は壷形土器である。

（３）方形周溝墓

35号方形周溝墓

遺　　構（第32・33図）

［検出状況］597・599Ｙを切る。西半部と東半部でそれぞれ精査を行った。598Ｙは本遺構の方台部内に位置するが、方台部上の覆土を明確に把握することができなかったため、ここでは新旧関係は不明とする。本地点調査範囲では、本遺構の北東コーナー部分のみの検出と考えられる。また溝底面から検出した749Ｄについては、形状や覆土の観察から本遺構に伴う溝内土坑と判断した。

［周溝の構造］**平面形**：隅丸方形か。**北溝の規模**：長さ9.3m以上。上幅2.90m～4.10m／下幅1.65～3.10m／深さ41～56㎝。**壁**：Ｂ－Ｂ'付近で内側45°・外側30°、Ｃ－Ｃ'付近で内側50°・外側70°で立ち上がる。**方位**：不明。**覆土**：セクションＡ－Ａ'の観察によると、黒色土（２・３層）、黒褐色土（４～10層）、暗褐色土（11層）、暗黄褐色土（12～16層）と、概ね上層から下層にかけて明るい土壌が堆積している。セクションＢ－Ｂ'も同様である。Ｂ－Ｂ'土層断面の観察により、溝内土坑埋没後に周溝覆土が堆積していることが確認された。

［溝内土坑（749Ｄ）の構造］**平面形**：長方形。北側に向かって広がるテラス状の段を有する。**規模**：〈長方形部分〉長軸2.28m／短軸1.02m／溝底からの深さ75～81㎝。**壁**：80～85°で直線的に立ち上がる。**覆土**：Ｂ－Ｂ'13～21層が溝内土坑覆土である。ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを主体とした暗黄褐色～黄褐色土層を基調とする。11・12層についてもローム粒子等を多量に含む暗黄褐色土であるため土坑覆土の可能性があるが、ここではＡ－Ａ'14・15層に相当する周溝底面直上の覆土であると判断した。

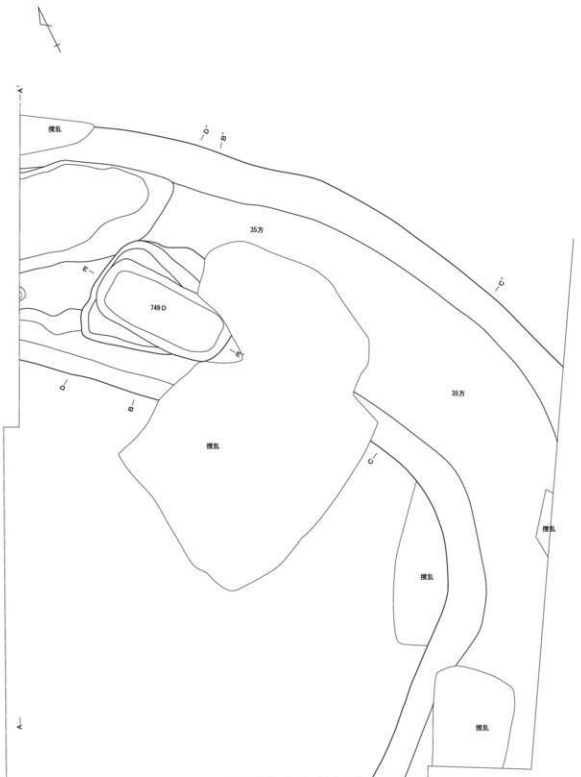
［遺　　物］北東コーナー部分を中心に、周溝覆土中から、高坏・壷・甕形土器が出土した。第34図５は、底面～覆土下層中から破片の状態で散在的に出土したものが接合したものである。溝内土坑（749Ｄ）については、微細遺物の出土を想定して覆土下層を対象に土壌の水洗選別を実施したが、出土遺物はなかった。

［時　　期］古墳時代前期。

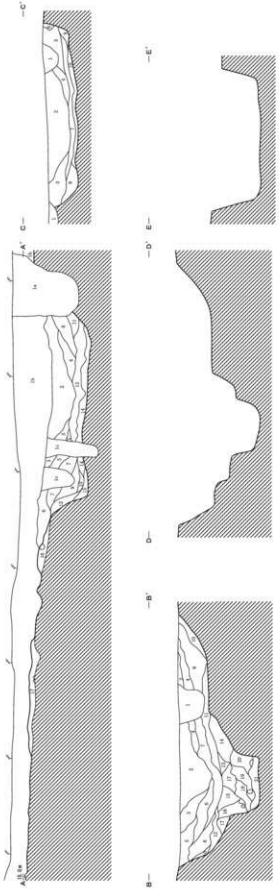
遺　　物（第34・35図、第15表）

［土　　器］（第34図１～16、第35図17～21、第15表）

１・13は高坏形土器、２～９・14～16は壷形土器、10～12・17～21は甕形土器である。



第32図　35号方形周溝墓・749号土坑（1／60）

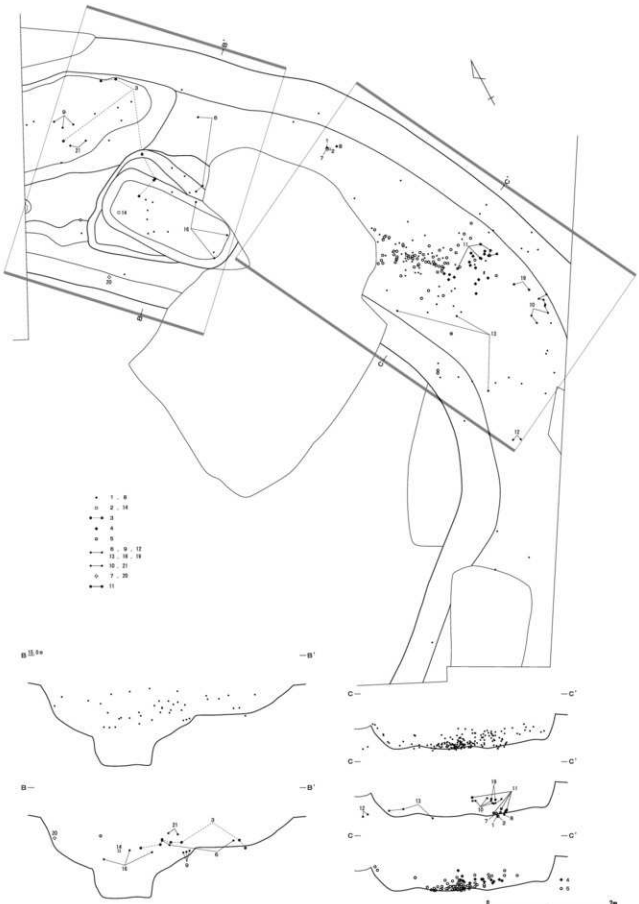


A－A'
1a層　撹乱。
1b層　耕作土。
1c層　後世のピット。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりやや弱。
3層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
6層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
11層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり強。
13層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり強。構築土。
17層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック・焼化物粒子を僅かに含む。主体部埋土。構築土。

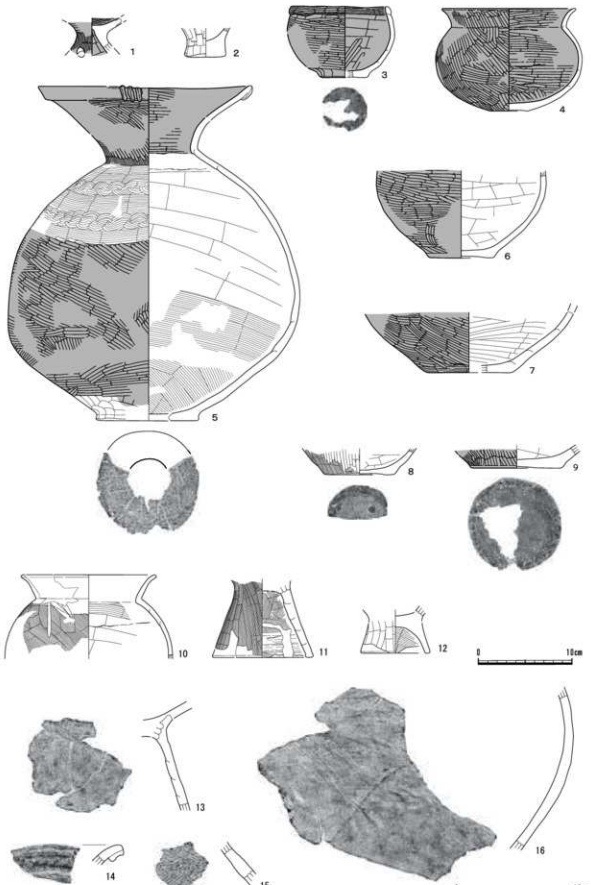
B－B'
1層　後世のピット。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりやや弱。
3層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりや。
4層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックをごく僅かに含む。しまりやや弱。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強い。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅か、焼土粒子をごく僅かに含む。しまりや。
7層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼化物粒子を僅かに含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。
11層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含み、焼化物粒子を僅かに含む。しまりや。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
749D
13層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
14層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
15層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを非常に多く含む。しまりやや強。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
17層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
18層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。しまりや。
19層　明黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを非常に多く含む。しまりや。
20層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを非常に多く、ローム小ブロックを多く含む。しまり強。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや弱。

C－C'
1層　撹乱。
2層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
4層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
8層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
9層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。

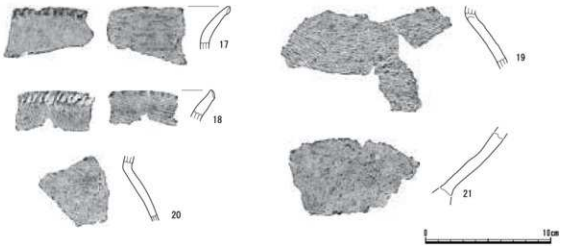
0　2m



第33図　35号方形周溝墓・749号土坑遺物出土状態（1／60）



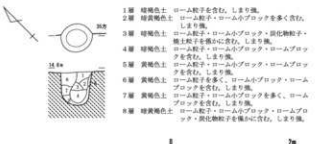
第 34 図　35 号方形周溝墓出土遺物１（１／４・１／３）



第 35 図　35 号方形周溝墓出土遺物２（１／３）

（4）ピット（第24・36・37図）

１Ｐ（第36図）は、35方に切られる。規模は長軸50㎝／短軸45㎝／深さ92㎝。覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。２Ｐは597Ｙを切り、規模は長軸32㎝／短軸32㎝／深さ54㎝。弥生以降。３Ｐは599Ｙに切られ、規模は長軸47㎝／短軸42㎝／深さ22㎝。４Ｐは599Ｙに切られ、規模は長軸46m／短軸40㎝／深さ27㎝。５Ｐは599Ｙに切られ、規模は長軸60㎝／短軸40㎝／深さ44㎝。出土した縄文時代後期土器５点の内、１点（第37図1）を掲載する。出土遺物から堀之内２式期の所産と考えられる。第37図１は堀之内２式土器。口縁部破片で、沈線によって区画され、沈線間は単節ＬＲが充填。６Ｐは３Ｐ・４Ｐと重複し、規模は長軸35㎝／短軸35㎝／深さ24㎝。３～６Ｐはローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土を基調とし、縄文時代の所産と考えられる。



第 36 図　１号ピット（１／60）

第 37 図　５号ピット出土遺物（１／３）

（5）遺構外出土遺物

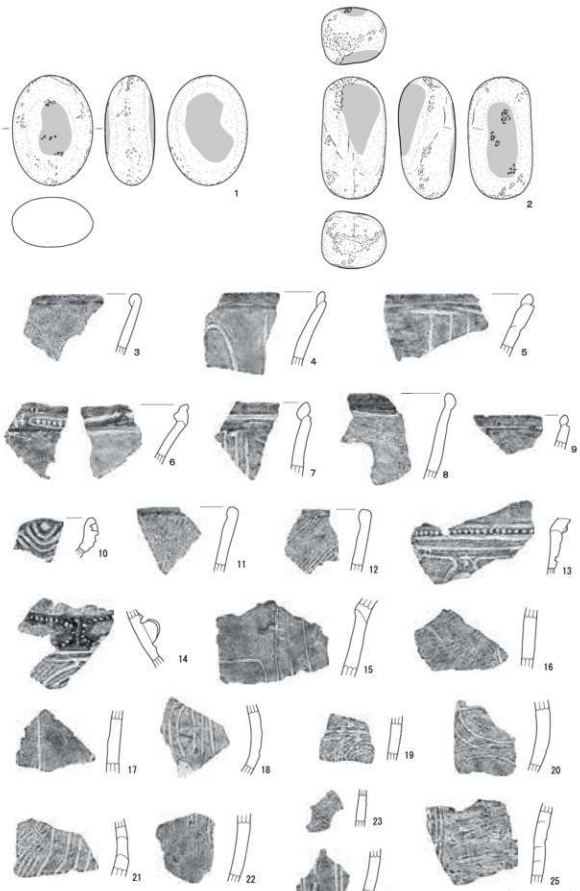
ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

１．縄文時代の石器（第38図１・２、第16表）

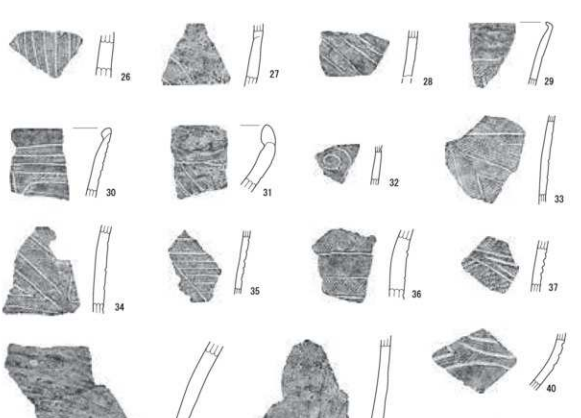
１は安山岩の磨石で、２は砂岩製の敲石である。

２．縄文時代の土器（第38図３～25、第39図26～41、第17表）

３～28は堀之内１式で、29～38は堀之内２式である。38・39は堀之内式の粗製土器である。40・41は小型製品で注口土器であろうか。



第 38 図　遺構外出土遺物１（１／３）



第 39 図　遺構外出土遺物２（１／３）

挿図番号	器種	法量（cm）	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第26図1	壺	高[9.3] 口19.6	複合口縁／口唇部上端に単節斜縄文／口縁部外面に棒状貼付文／棒状貼付文は４単位、それぞれの本数は５本・６本・７本・８本と異なる／口縁部は羽状縄文、円形赤彩文は各区画で２個／胴部文様は２個の円形貼付文と自縄結節文が見られる／外面頸部及び内面は赤彩	胎土は淡黄褐色を基調	石英・角閃石・雲母・砂粒・小石を含む	内面：横方向のヘラ磨き調整後縦方向に粗いヘラ磨き調整／外面：縦方向のヘラ磨き調整	炉内に埋設及び北壁近くの床面上	口縁部～頸部80％
第26図2	甕	高[19.4] 口19.9	台付甕／口縁部は外反する／口唇部外面にハケ状工具による刻み目が付される／最大径は胴部上半にもつ	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、石英・角閃石を僅かにを含む	内面：口縁部～胴部上半はハケ目調整、以下はヘラナデ／外面：口縁部は縦方向、胴部上半は横方向、中位以下は斜方向のハケ目調整	南東コーナー付近の覆土中（床上 13～70cm）からやや散在的	口縁部～胴部下半60％／脚台部を欠損
第26図3	甕	高[9.3] 口19.6	台付甕／脚台部から胴部下半は屈曲する／脚台部は直線的な「ハ」の字状を呈する／底端部は平坦	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く、砂粒・小石を含む	内面：胴部下半はヘラ磨き調整、脚台部はヘラナデである。脚部はハケ目調整、接合部付近は指頭押捺痕が残る／外面：全体にハケ目調整	南西コーナー北壁近くの床面上	胴部下半～脚台部100％

第12表　597号住居跡出土土器一覧（1）

挿図番号	器種	法量（cm）	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第26図4	甕	高[9.3] 口19.6	台付甕／脚台部から胴部下半は屈曲する／脚台部は「ハ」の字状を呈する	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く、石英・小石を僅かにを含む	内面：胴部下半はハケナデ、脚台部はハケ目調整／外面：ハケ目調整	住居中央から南壁近くの床面上	胴部下半～脚台部50％
第26図5	壺	厚0.9	複合口縁／口縁部に8本一単位の縦位沈線文が施文／全面赤彩	胎土は暗灰褐色を基調	黄褐色粒子・茶褐色粒子砂粒をやや多く含む	内外面：ヘラ磨き調整を基本	覆土中	口縁部破片
第26図6	壺	厚0.7	胴部文様は細沈線による鋸歯状か／文様部以下は赤彩	胎土は淡黄褐色	砂粒をやや多く、石英を僅かにを含む	内面：ヘラナデ／外面：文様部以下はヘラ磨き調整	南東コーナー付近のほぼ床面上	胴部上半破片
第26図7	壺	厚0.9	胴部文様は細沈線による鋸歯状／鋸歯状文区画内は不明、撚糸文？／文様部外は赤彩	胎土は暗黄褐色	砂粒をやや多く、石英を僅かにを含む	内面：ヘラナデ／外面：無文部はヘラ磨き調整	覆土中	胴部上小半破片
第26図8	壺	厚0.9	胴部文様は細沈線による鋸歯状のみ／文様部外は赤彩か	胎土は淡黄褐色を基調	黄褐色粒子を僅かに含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整	覆土中	胴部上小半破片
第26図9	壺	厚0.7	頸部に断面三角形の隆帯がまわる／隆帯の高さ0.6cm／隆帯上端に押捺痕がまわる／全面赤彩か	胎土は淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・橙粒子をやや多く含む	内外面：粗いヘラ磨き調整	南東コーナー付近の床面上からやや散在的	頸部破片
第26図10	壺	高[11.5] 厚0.6	胴部文様は端末結節文を伴う単節斜縄文LR、その下端に細沈線による山形連続文が施文／文様部以下は赤彩	胎土は淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：粗いハケ目調整／外面：文様部以下はヘラ磨き調整	南東コーナー付近の床面上からやや散在的	胴部上半～下半破片
第26図11	壺	高[13.0] 厚0.7	文様部なし／外面は赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整／内面には指頭押捺（指紋あり）による成形痕が残る	P1すぐ北側の床面上	胴部上半～中位破片
第26図12	甕	厚0.7	頸部はやや屈曲し、口縁部は直立する／口唇部は面取りされるが刻み目なし／外面は黒く煤けている	胎土は淡黄褐色を基調	白色粒子・黄褐色粒子をやや多く含む	内面：口縁部はハケ目調整、以下はヘラナデ／外面：ハケ目調整	住居中央からやや東壁寄りの覆土中	口縁部～胴部上半破片
第26図13	甕	厚0.7	頸部はやや屈曲し、口縁部は外反する／口唇部は面取りされるが刻み目なし	胎土は淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・茶褐色粒子をやや多く、砂粒・小石を含む	内面：横ナデ／外面：縦方向のハケ目調整後口縁部には軽い横ナデ	北壁寄りの覆土中	口縁部～胴部上半破片
第26図14	甕	厚0.6	台付甕と思われる／外面に赤彩部分か（直径2cm程の円形2箇所か）	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く、角閃石を僅かに含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	北壁寄りの覆土中	胴部下半破片
第26図15	甕	高[5.8]	台付甕／脚台部から胴部下半は屈曲する／脚台部は「ハ」の字状を呈する	胎土は暗赤褐色を基調	黄褐色粒子を多く、雲母を僅かにを含む	内面：胴部下半はハケ目調整、脚台部はナデ／外面：ハケ目調整	住居中央から東壁寄りの床面上	胴部下半～脚台部破片

第12表　597号住居跡出土土器一覧（2）

挿図番号	器種	法量(cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第29図1	壺	高[8.7] 底6.8	平底／外面赤彩	胎土淡黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、砂粒・小石を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北東壁寄りの床面上	胴部中位～底部30％
第29図2	壺	厚1.1	複合口縁／口唇部上端と口縁部外面に単節斜縄文LRを施文／文様部を除き、内外面赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	砂粒をやや多く、茶褐色粒子・小石を僅かに含む	内面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整／外面：口縁部直下はナデ	P1すぐ東側の覆土中	口縁部破片
第29図3	壺	厚0.6	複合口縁／口頸部は外傾する／内面黒色	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、砂粒を含む	内面：ハケ目調整後ナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下は縦方向にハケ目調整	P1すぐ西側の覆土中	口縁部～頸部破片
第29図4	壺	高[5.5] 厚1.5	広口壺／複合口縁／口頸部は外反する／内外面赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、砂粒を含む	内外面：横方向のヘラ磨き調整	炉跡内	口縁部～頸部破片
第29図5	壺	厚1.0	複合口縁／口縁部はやや直立気味に外傾する／口唇部上端に単節斜縄文LRを施文／内外面赤彩	胎土は淡黄褐色を基調	砂粒をやや多く、橙色粒子を含む	内外面：横方向のヘラ磨き調整	北東壁近くの覆土中	口縁部破片
第29図6	壺	厚0.7	胴部下半から中位にかけて膨らみをもつ／外面赤彩	胎土は暗橙色を基調	黄褐色粒子を多く含む	内面：ハケナデ後横方向に粗いヘラ磨き調整／外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	炉跡付近の覆土中	胴部下半破片
第29図7	壺	厚0.9	広口壺か／胴部から頸部にかけてすぼまり、頸部は外反する	淡茶褐色	黄褐色粒子を多く、砂粒を含む	内外面：横方向のヘラ磨き調整	北東壁近くの覆土中	頸部～胴部上半破片
第29図8	壺	厚0.8	広口壺か／頸部は外反する／胴部から頸部への移行はやや屈曲する	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く含む	内面：頸部はヘラ磨き調整、胴部上半は指頭押捺痕が残る／外面：ハケ目調整後胴部上半には粗いヘラ磨き調整	P1すぐ西側の覆土中	頸部～胴部上半破片
第29図9	壺	厚0.7	胴部下半から中位にかけて膨らみをもつ／全体に黒色	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：縦方向のヘラ磨き調整	P1すぐ東側の覆土中	胴部下半破片
第29図10	甕	厚0.7	口縁部は外反する／口唇端部は丸く、刻み目なし／全体に黒く煤けている	胎土は暗灰褐色を基調	黄褐色粒子を含む	内面：横ナデ／外面：ハケ目調整後横ナデ	覆土中	口縁部破片
第29図11	甕	厚0.7	胴部は膨らみをもつ／外面は黒く煤けている	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒・小石を含む	内面：粗いハケ目調整／外面：ハケ目調整	炉跡内	胴部中位破片

第13表　598号住居跡出土土器一覧

挿図番号	器種	法量(cm)	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第31図1	甕	高[6.3] 底8.2	脚台部は「ハ」の字状を呈する／根部は僅かに内湾する／底端部は平坦で内側に粘土がはみ出る	暗赤褐色	黄褐色粒子をやや多く、砂粒を含む	内面：胴部下半はハケ目調整／外面：脚台部はヘラナデ、裾部はハケ目調整	東壁近くの床面上	脚台部70％
第31図2	甕	高[4.6] 底(11.6)	脚台部は「ハ」の字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土がややはみ出る	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	貯蔵穴付近の覆土中（床上23cm）	脚台部20％
第31図3	壺	厚0.7	胴部文様は端末結節文を伴う単節斜縄文RLを地文に2個の円形浮文が施文される／内面黒色	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を僅かに含む	内面：ヘラ磨き調整	炉跡北側の覆土中	胴部上半破片
第31図4	甕	厚0.8	胴は膨らみをもつ／外面は僅かに黒く煤けている	淡茶褐色	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	炉跡すぐ東側の覆土中	胴部上半破片

第14表　599号住居跡出土土器一覧

挿図番号	器種	法量（cm）	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第34図1	高坏	高[4.0]	脚台部は「ハ」の字状を呈する／脚台部途中に３孔あり／内外面赤彩	胎土は暗赤褐色を基本	砂粒を含む	内面：坏部はヘラ磨き調整、脚台部はヘラナデ／外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	北溝の北壁近くの底面上	坏部下半～脚台部80％
第34図2	壺	高[3.1] 底4.4	小型壺か／スリムな胴部／底部は厚目／平底	黒褐色	黄褐色粒子を多く、砂粒を含む	内面：剥離のため不明／外面：縦方向の粗いヘラ磨き調整	北溝の北壁近くの底面上	胴部下半～底部80％
第34図3	壺	高7.6 口10.3 底5.1	無頸壺／複合口縁／最大径は胴部中位にもつ／内外面赤彩／外面底部に黒斑あり／底部は破損か穿孔か不明	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデされるが、底部付近は縦方向の粗いヘラ磨き調整、口縁部はハケ目痕が残る／外面：横方向のヘラ磨き調整、底部付近は指頭によるナデか	北溝西端の覆土中から散在的	60％
第34図4	壺	高10.9 口14.2 底4.0	「く」の字状口縁／最大径は胴部中位にもつ／底部は碁筒底状／内外面赤彩／全体に薄手で精巧に作られている	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内外面：ていねいなヘラ磨き調整	エレベーションC-C'付近の底面近くからやや広い範囲／№5の土器とほぼ同位置	70％
第34図5	壺	高35.2 口(22.5) 底10.8	複合口縁／口頸部は内湾気味に外傾／頸部は屈曲／口縁部外面に３本一単位の棒状貼付文あり／胴部文様は７本一単位の櫛描文で、上から２段横位直線文、１段波状文、２段横位直線文、１段波状文、１段横位直線文の順に施文される／底部穿孔（焼成後）／外面は胴部文様部と底部付近を除き、内面は口頸部に赤彩	胎土は淡黄褐色	黄褐色粒子・茶褐色粒子・砂粒を含む	内面：口頸部はヘラ磨き調整、胴部は上半～中位がヘラナデ、下半～底部はハケ目調整／外面：複合口縁は横ナデ、以下は基本的に胴部文様部以外ヘラ磨き調整、底部付近はナデ、頸部付近に一部ハケ目痕が残る	エレベーションC-C'付近の底面近くから広い範囲／№4の土器とほぼ同位置	60％
第34図6	壺	高[9.3] 底6.6	胴部最大径は下半にもつか／平底であるがやや上底状／外面赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、砂粒・小石を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北溝の西端の覆土中から散在的	胴部中位～底部30％
第34図7	壺	高[6.5] 底[8.6]	胴部は膨らみをもつ／平底／外面赤彩	胎土は暗橙色を基調	砂粒・小石を含む	内外面：ヘラナデか／外面：ていねいなヘラ磨き調整	北溝の北壁近くの底面上	胴部中位～底部20％
第34図8	壺	高[2.8] 底[7.4]	底部は平底であるが、周辺が1cm幅でやや高くなっている	淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒をやや多く、角閃石・雲母を僅かにを含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	北溝の北壁近くの底面上	胴部下半～底部40％
第34図9	壺	高[2.5] 底9.6	底部穿孔（焼成後）と思われる／外面赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整	北溝西端の覆土中	底部80％
第34図10	甕	高[8.4] 口[14.4]	「く」の字口縁／口唇端部は丸く、刻み目なし／シャープな作り	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子・角閃石・雲母・砂粒を含む	内面：口縁部は横ナデ、胴部上半は目の細かいハケ目調整、以下はヘラナデ／外面：口縁部は横ナデ、以下はハケ目調整	北東コーナーの東壁近くの覆土中	口縁部～胴部中位40％

第15表　35号方形周溝墓出土土器一覧（1）

挿図番号	器種	法量（cm）	特　徴	色　調	胎　土	調　整	出土位置	遺存度
第34図11	甕	高[8.9] 底[10.4]	台付甕／脚台部は「ハ」の字状を呈する／底端部は平坦で内側に粘土が僅かにはみ出る	淡黄褐色を基調	黄褐色粒子を多く、砂粒・小石を僅かに含む	内外面：ハケ目調整	エレベーション C-C′付近の底面近くから散在的	脚台部 70％
第34図12	甕	高[46] 底[7.2]	台付甕／脚台部は「ハ」の字状を呈するが短脚／底端部は平坦	淡黄褐色を基調	黄褐色粒子・橙色粒子・砂粒を含む	内面：胴部下半はヘラナデ、脚台部はハケ目調整／外面：ヘラナデ	北東コーナーの西壁近くの底面上	脚台部 60％
第34図13	高坏	高[7.5]	脚台部は「ハ」の字状を呈する／外面赤彩	胎土は暗黄褐色	黄褐色粒子・橙色粒子・砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北東コーナーの底面近くから散在的	脚台部 20％
第34図14	壺	厚1.1	複合口縁／口縁部は外反する／無文／内外面赤彩	胎土は暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒・小石を含む	内面：ハケ目調整後ヘラ磨き調整／外面：口縁部は横ナデ、頸部はヘラ磨き調整	北溝西端の覆土中	口縁部破片
第34図15	壺	厚0.9	頸部文様は多段の自縄結節文の下部に単節斜縄文LRが施文	淡茶褐色を基調	黄褐色粒子を多く含む	内面：ヘラ磨き調整	覆土中	頸部小破片
第34図16	壺	厚0.7	大型壺か／外面赤彩	暗黄褐色を基調	砂粒・小石を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ磨き調整	北溝西端の覆土中	胴部中位～下半破片
第35図17	甕	厚0.6	口唇部外面にハケ状工具による刻み目がまわる／口縁部は外反する	淡黄褐色を基調	茶褐色粒子・角閃石・砂粒・小石を含む	内外面：目の細かいハケ目調整	覆土中	口縁部破片
第35図18	甕	厚0.6	口唇端部は一度ハケ状工具により面取りを行い、その後刻み目がまわす／口縁部は「く」の字状を呈するものと思われる	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・茶褐色粒子をやや多く含む	内外面：やや目の粗いハケ目調整／№19と同一個体と思われる	覆土中	口縁部破片
第35図19	甕	厚0.6	頸部は屈曲する／胴部は膨らみをもつ	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・茶褐色粒子をやや多く含む	内面：口縁部はやや目の粗いハケ目調整、以下はヘラナデ／外面：目の粗いハケ目調整／№19と同一個体と思われる	北東コーナーの東壁近くの覆土中	頸部～胴部上半破片
第35図20	甕	厚0.5	頸部は屈曲する／胴部は膨らみをもつ／外面は黒色	胎土は淡茶褐色を基調	黄褐色粒子をやや多く、砂粒を含む	内面：ヘラナデ／外面：ハケ目調整	北溝西端の南壁近くの覆土中	頸部～胴部上半破片
第35図21	甕	厚1.0	台付甕／胴部下半には脚台部との接合部分が残る	暗黄褐色を基調	黄褐色粒子・砂粒・小石をやや多く含む	内外面：ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	北溝西端の覆土中	胴部下半破片

第15表　35号方形周溝墓出土土器一覧（2）

挿図番号 図版番号	器　種	石　材	長さ （㎜）	幅 （㎜）	厚さ （㎜）	重量 （g）	特　徴	出土位置
第38図1 図版15-1	磨石	安山岩	87.5	63.8	39.7	359.3	完形／表裏面の中央部に磨痕／上下両端に弱い敲打痕が認められる	598Y
第38図2 図版15-2	敲石	砂岩	96.7	51.3	45.7	367.6	完形／表面上半、裏面中央部に磨痕／上下面に敲打痕が認められる／下面より上面の方が敲打痕が粗い	599Y

第16表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第38図3 図版15-3	35方	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	僅かに内湾する口縁／口唇部内面でカマボコ状に肥厚	地文無し／細く浅い沈線による懸垂文	黄橙／礫中量	後期前葉 堀之内1式
第38図4 図版15-4	遺構外	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	外反する口縁／外反し直立する口唇部	地文無し／口唇部直下に沈線横走／沈線による懸垂文	にぶい黄橙／砂粒・石英多量	後期前葉 堀之内1式
第38図5 図版15-5	遺構外	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	外傾する口縁／口唇部内面に稜	地文無し／口唇部直下に沈線横走／浅い沈線３本垂下	にぶい褐／砂粒・礫・礫微量	後期前葉 堀之内1式
第38図6 図版15-6	35方	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	外反する口縁部／口縁部上端で直立	口縁部に突起状を呈するか／突起下に短沈線垂下／口縁部上端に沈線による狭い区画文／区画内に押圧文	赤褐／砂粒中量、石英中量	後期前葉 堀之内1式
第38図7 図版15-7	遺構外	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	外反する口縁部／口唇部内面で肥厚	地文なし／口唇部直下に沈線横走／口縁部上端から沈線３本が垂下	褐／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式
第38図8 図版15-8	35方	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	やや外傾する口縁／波状口縁か／口唇部外面で肥厚	無文／内外面の調整は粗い	橙／砂粒・礫中量	後期前葉 堀之内1式
第38図9 図版15-9	599Ｙ	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	内湾する口縁／口唇部内面に稜	口縁部上端に深い沈線／無文	にぶい橙／砂粒微量	後期前葉 堀之内1式
第38図10 図版15-10	599Ｙ	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	小突起ないし小波状口縁	波頂部に竹管状工具による円形刺突文／刺突文を中心に沈線による垂弧文か	褐／砂粒・礫微量	後期前葉 堀之内1式
第38図11 図版15-11	35方	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	外反して広がる口縁部／内面口唇部直下に太い沈線が巡る	纖維の粗い単節ＲＬ縦位施文	橙／砂粒・礫微量	後期前葉 堀之内1式
第38図12 図版15-12	35方	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	直線的に広がる口縁／口唇部内面で肥厚	単節ＬＲ横位・斜位施文	明赤褐／砂粒・礫中量	後期前葉 堀之内1式
第38図13 図版15-13	35方	深鉢	頸部 破片	厚0.6	僅かに内湾する胴部上位／外反する口縁部	口縁部無文／頸部に刻目が付された隆帯巡る／隆帯脇に沈線／胴部には円形刺突文と沈線による区画文／沈線区画内単節ＲＬが充填	黒褐／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式
第38図14 図版15-14	597Ｙ貼床	深鉢	胴部 破片	厚0.6	内傾する胴部上位	頸部に突起／突起中央に沈線垂下／頸部に刻目の付された隆帯が２本巡る／胴部は沈線による区画文	暗褐／砂粒・礫微量	後期前葉 堀之内1式
第38図15 図版15-15	遺構外	深鉢	頸部 破片	厚1.0	やや内湾する胴部下位／張れる頸部	地文無し／沈線３本垂下／胴部中位に方形ないしクランク状の沈線	灰褐／砂粒少量	後期前葉 堀之内1式
第38図16 図版15-16	597Ｙ	深鉢	胴部 破片	厚0.9	直線的に広がる胴部	単節ＲＬ縦位施文／縦位に沈線	明褐／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式
第38図17 図版15-17	599Ｙ	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外反する胴部中位	地文なし／深い沈線が２本垂下	橙／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式
第38図18 図版15-18	597Ｙ	深鉢	胴部 破片	厚0.8	内湾する胴部	垂下する沈線による対弧文	明赤褐／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式
第38図19 図版15-19	35方	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに内湾する	細く浅い多条の沈線による円形ないし渦巻文が上下に重なるか	橙／砂粒中量	後期前葉 堀之内1式
第38図20 図版15-20	597Ｙ	深鉢	胴部 破片	厚0.8	内湾する胴部	地文なし／２本１対の浅い沈線による対向する弧線文／内外面調整は粗い	褐／砂粒・礫中量	後期前葉 堀之内1式
第38図21 図版15-21	35方	深鉢	胴部 破片	厚1.0	内湾する胴部	地文単節ＲＬ縦位施文／沈線５本垂下を確認	暗褐／砂粒・礫微量	後期前葉 堀之内1式
第38図22 図版15-22	599Ｙ	深鉢	胴部 破片	厚0.9	内湾する胴部	浅い沈線が数条垂下	橙／砂粒中量	後期前葉 堀之内1式

第17表　遺構外出土縄文土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器　形・形　態	文　　様・特　　徴	胎　土	時　期 型　式
第38図23 図版15-23	35 方	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外傾するか	地文無し／３～４本１対の細く浅い沈線による弧状文	黄橙／砂粒・橙色粒子微量	後期前葉 堀之内１式
第38図24 図版15-24	遺構外	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに内湾する胴部	地文無し／深い沈線が垂下／沈線間に短沈線ないし刺点文	黒褐／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内１式
第38図25 図版15-25	35 方	深鉢	頸部 破片	厚0.8	屈曲する頸部	地文無し／やや太めの櫛歯状工具による沈線垂下／外面はやや粗い横方向の調整、内面は横方向のミガキ顕著	明黄褐／阿武隈砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内１式
第39図26 図版15-26	597 Y	深鉢	胴部 破片	厚1.0	ほぼ直立する胴部	地文なし／太く浅い沈線が垂下	にぶい褐／砂粒中量	後期前葉 堀之内１式
第39図27 図版15-27	598 Y	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外傾する胴部	地文なし／２本１対の沈線による弧状文か／外面の調整粗く、内面はミガキ顕著	褐／砂粒・礫微量	後期前葉 堀之内１式
第39図28 図版15-28	598 Y	深鉢	胴部 破片	厚0.7	内湾	地文なし／沈線が数条垂下	黄橙／砂粒中量	後期前葉 堀之内１式
第39図29 図版15-29	599 Y	深鉢	口縁部 破片	厚0.5	外反する口縁／口唇部内折	浅い沈線による区画文／区画内に単節ＬＲ充填施文	にぶい褐／砂粒中量	後期前葉 堀之内２式
第39図30 図版15-30	35 方	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	僅かに外反する口縁／口唇部内面で肥厚	沈線による横位主体の区画／沈線間は単節ＬＲ充填施文と空白部を交互に設ける	明褐／砂粒中量	後期前葉 堀之内２式
第39図31 図版15-31	599 Y	深鉢	胴部 破片	厚1.0	内湾する口縁／口唇部内面で僅かに肥厚	地文なし／浅い沈線による三角形ないし菱形状区画か	明褐／砂粒多量	後期前葉 堀之内２式か
第39図32 図版15-32	597 Y 貼床	深鉢	胴部 破片	厚0.5		細い沈線による円形区画／区画内は単節縄文施文	黄橙／砂粒微量	後期前葉 堀之内２式
第39図33 図版15-33	599 Y	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに外反	沈線による三角形ないし菱形状区画／沈線間は単節ＬＲ充填施文と空白部を交互に設ける	橙／砂粒・礫中量	後期前葉 堀之内２式
第39図34 図版15-34	35 方	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外反	沈線による三角形ないし菱形状区画／沈線間は単節ＬＲ充填施文と空白部を交互に設ける	橙／砂粒中量、雲母未微量	後期前葉 堀之内２式
第39図35 図版15-35	35 方	深鉢	胴部 破片	厚0.5	僅かに外反	多重の沈線による菱形ないし三角形区画文／沈線間は部分的に単節ＬＲ充填施文	橙／砂粒少量	後期前葉 堀之内２式
第39図36 図版15-36	598 Y	深鉢	胴部 破片	厚1.2	外反する	沈線による横帯区画／沈線間には単節ＬＲ充填施文	褐／砂粒・礫中量	後期前葉 堀之内２式
第39図37 図版15-37	598 Y	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに外反	沈線による三角形ないし菱形状区画／区画内単節ＬＲ充填	褐／砂粒多量・雲母量	後期前葉 堀之内２式
第39図38 図版15-38	35 方 598 Y	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外反する頸部付近か	無文／内外面は横方向のナデ調整／粗製土器	褐／砂粒少量	後期前葉 堀之内式
第39図39 図版15-39	597 Y 貼床	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに内湾	無文／内外面は縦方向のナデ調整／粗製土器	橙／砂粒・礫少量	後期前葉 堀之内式
第39図40 図版15-40	遺構外	注口土器	体部下位 破片	厚0.6	内湾して開く	沈線による横位主体の区画文／沈線間は単節ＬＲ充填施文／沈線以下は無文	橙／砂粒少量	後期前葉 堀之内２式
第39図41 図版15-43	597 Y 貼床	注口土器	口縁部 破片	厚0.6	内湾する口縁部	地文無し／刻目が付された細い隆帯による曲線文	橙／砂粒微量	後期前葉 堀之内式

第17表　遺構外出土縄文土器一覧（2）

第５章　中野遺跡第95地点の調査

第１節　遺跡の概要

中野遺跡は、志木市柏町１丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北方約1.2㎞に位置している。遺跡は、北側に柳瀬川を臨む台地上に位置し、標高９～11mを測り南から北に向かって傾斜する。台地下の低地の標高は６～７mで、台地から低地へなだらかに移行する。遺跡の西側には南方向に入り込んでいる柳瀬川からの狭い谷が認められ、城山遺跡と画している。遺跡を載せる台地上の現状は、宅地化が急速に進行している地域で、畑地は減少している。

本遺跡の最初の発掘調査は、昭和59（1984）年に実施された第２地点で、これまでに100地点の調査（平成29年１月31日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良・平安時代、中・近世、近代に至る複合遺跡であることが判明している。

第２節　調査の経緯

（１）調査に至る経過

平成27年７月、片野測量設計（取締役支店長　東滝　弘樹）から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。志木市柏町１丁目1503番３号（総面積578.97㎡）地内に相続を前提とした内容の取り扱いである。

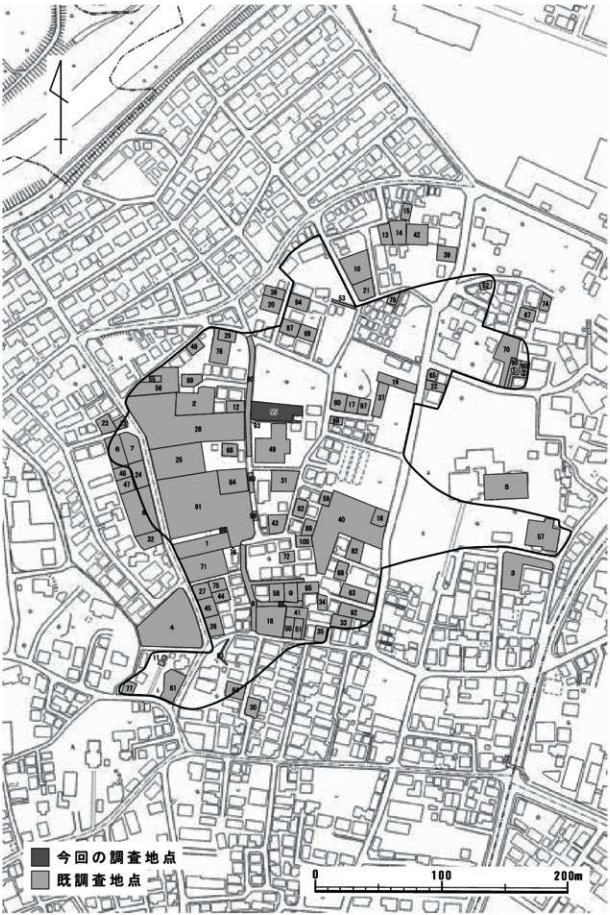
これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である中野遺跡（コード11228－09－002）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．開発計画の策定を行った上で、埋蔵文化財確認調査依頼書を提出された後に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず土地の現状を変更する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

さらに、開発計画地内には現在、既存建物（旧東京電力社員寮）があるため、その解体工事の取り扱いについての相談を受けた。これに対し、教育委員会は、既存建物の規模や基礎構造についての説明を受けた結果、建物は３階建て鉄筋構造であるため、このまま解体工事を行った場合、埋蔵文化財に影響を与えることは明らかであったため、解体工事の日程に合わせ、特に基礎撤去の際に教育委員会が立会を行い状況確認した上で判断することになった。

11月19日、解体工事の進行時に片野測量設計と解体業者の岩崎興業株式会社と教育委員会で現地打合せを行う。その結果、明日20日に基礎構造がどうなっているかを一部重機により深掘りし確認することになった。



平成29年1月31日現在

第40図　中野遺跡の調査地点　（1／3,000）

20日、基礎部分の一部を解体時に使用している重機により深掘りし、基礎構造を確認する。その結果、コンクリート基盤部分は現況ＧＬから50～60㎝と埋蔵文化財には直接影響がないと判断し、解体及び撤去作業を継続して実施してもらうこととした。ただし、コンクリート基礎柱部分については、フーチング構造ではなかったが、撤去作業の際には埋蔵文化財に直接影響があるものと判断し、その撤去作業については、埋蔵文化財の確認調査あるいは発掘調査終了後に実施することで了承してもらった。

11月25日、教育委員会は片野測量設計より、埋蔵文化財確認調査依頼書・埋蔵文化財発掘届を受理した。ここで開発主体者は、株式会社中央住宅（代表取締役　品川典久）に正式に決定したということで、以後は株式会社中央住宅を含め、協議を進めることとなった。

これにより、教育委員会では、中野遺跡第95地点（総面積578.97㎡）とし、12月９・10日の２日間で確認調査を実施した。確認調査は第41図に示すように調査区内にトレンチを３本（１～３Ｔｒ）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、古墳時代～平安時代の住居跡１軒、中・近世の段切状遺構１か所、中世以降の土坑３基を確認した。特に、段切状遺構については、南隣の第49地点（東京電力変電所）の調査により、本地点に段切状遺構が延びていることは明らかであったが、今回の調査では、段切状遺構が調査区ほぼ全域に広がっていることが確認できた。教育委員会はこの結果をただちに仲介業者である片野測量設計に報告し、保存処置について検討を依頼した。

平成28年１月15日、株式会社中央住宅と片野測量設計と教育委員会の３者にて埋蔵文化財の確認調査の状況説明や発掘調査における相互確認及び注意事項についての事前打合せを行った。その結果、工事内容は、道路新設工事を伴う４棟の分譲住宅建設を計画しているということであり、さらに住宅建設部分においては全棟地盤改良（杭改良）を実施する予定ということであった。そのため、保存措置としては、盛土保存の適用は不可能であるため、すべての面積（578.97㎡）を対象に発掘調査を実施することに決定した。同日には、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱の規定により、志木市埋蔵文化財保存事業申請書が開発主体者である株式会社中央住宅から提出された。

１月28日、教育委員会は株式会社中央住宅と片野測量設計と事前協議を行い、埋蔵文化財保存事業に係る協議書を株式会社中央住宅と取り交わし、２月12日、教育委員会は埋蔵文化財発掘届及び埋蔵文化財発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。

２月15日には埋蔵文化財保存事業に係る協議書をもとに株式会社中央住宅と委託契約を締結し、これにより、教育委員会を調査主体とし、２月22日から発掘調査を実施した。

（２）発掘調査の経過

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第18表の発掘調査工程表に示した。

２月22日　本日より重機（バックホー）による表土剥ぎ及び残土搬出作業を開始する。今回の計画では、確認調査の内容から表土の厚さが厚いことが判明していたため、調査区内に残土置場を確保できないと考え、残土についてはなるべく調査区外に搬出することとした。

さらに、調査については、おおよそ調査区を東西で２分し、まず調査区東半部の調査を実施し、終了後に調査区西半部を実施する計画とした。

本日は調査区東隅から表土剥ぎ作業を開始し、残土はダンプを使用し、調査区外に搬出した。

本日中にユニットハウスと簡易トイレの搬入・設置を行う。

24日　表土剥ぎ及び残土搬出作業に併行して、人員導入による発掘調査を開始する。まず、器材の搬入と調査準備を行い、その後調査区整備と遺構確認作業を開始する。午後からは調査区東半部の遺構検出状況の写真撮影を行い、その後中世以降の土坑（270～273 D）・井戸跡（９W）・溝跡（15 M）の精査を開始する。また、既存基礎柱に飛び出ている鉄筋が調査を実施するに当たり危険なため、切断作業を行った。

26日　基準点測量を行う。表土剥ぎ及び残土搬出作業を終了する。

２月下旬　９W・15 Mの精査を行う。

３月上旬　中世以降の土坑（274～289 D）の精査を行う。特に 274・284 Dについては、市内初となる「T 字形」の火葬土坑である。

３月中旬　274・284 Dについては、主体部から炭化材と人骨片が出土したため、サンプリングを行う。また、併行して、中世以降のものと思われるピットが多く検出されたため、精査を行う。

３月下旬　290～297 Dの精査を行う。297 Dについては、覆土の観察から縄文時代の土坑と考えられる。調査区東半部の遺構全体の写真撮影を行う。

３月28日～31日　調査区東半部の調査をほぼ完了したため、重機（バックホー）による反転作業を実施する。残土については、搬出作業を行わず、残土置場としては調査が完了した調査区東半部を当てることとした。

４月４日　平成28年度の調査を開始する。調査区西半部の調査の遺構確認作業を中心に一部調査区東半部において調査が完了していない遺構精査を行う。調査区東半部においては、縄文時代の土坑（298・300 D）・平安時代のものと思われる住居跡（82 H）の精査を行う。

４月上旬　平安時代・中世以降の土坑（299・301～306 D）の精査を行う。特に 299 Dについては、天井部が陥落していた地下室であった。

４月中旬　中世以降の井戸跡（10 W）の精査を完了する。

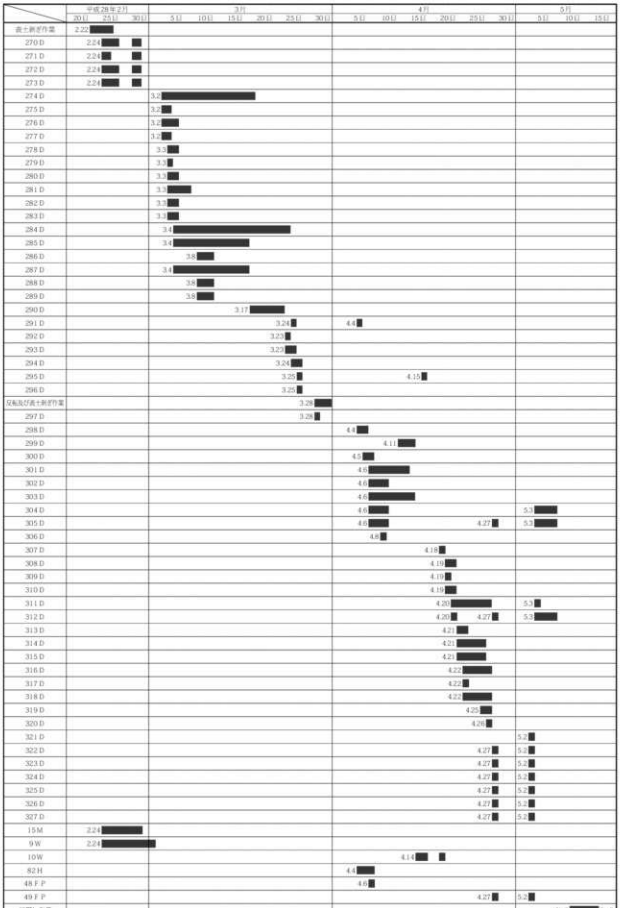
４月下旬　縄文時代の炉穴（49 F P）と平安時代以降の土坑（307～327 D）の精査を開始し、307～310・313～320 Dの精査を完了する。311・316・318 Dは「T 字形」の火葬土坑であり、本地点において、合計５基の検出となった。また、310 Dについては、当初、井戸跡として精査を行ったが、坑底面が確認できたことから、地下室の入口竪坑部と考えられる。

５月６日　平安時代以降の土坑（304・305・312 D）の精査を終了し、その後調査区西半部の遺構全体の写真撮影を行い、すべての遺構精査を完了する。

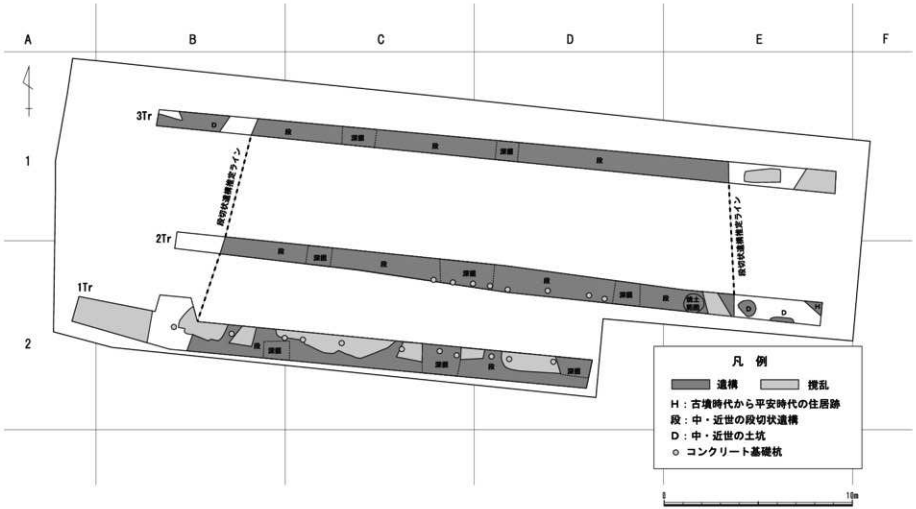
５月10日　埋戻し及び残土搬入作業を開始する。

12日　ユニットハウスと簡易トイレの搬出を完了する。

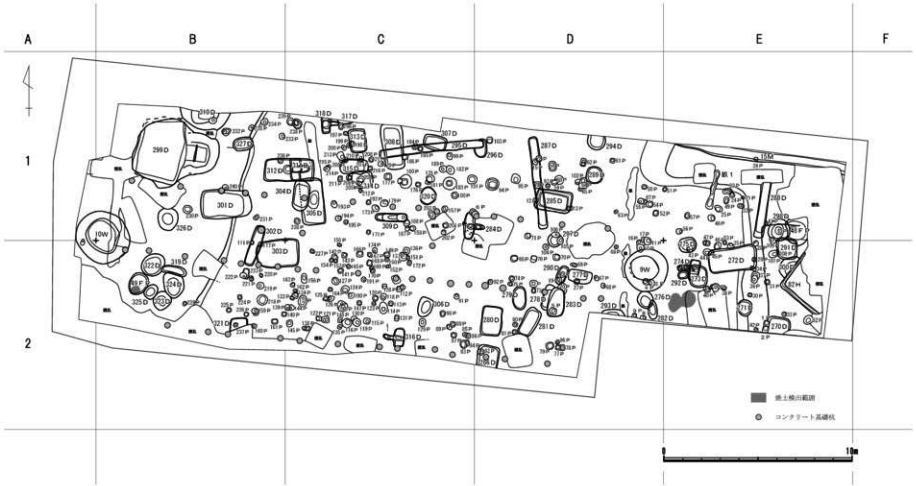
13日　埋戻し及び残土搬入作業を完了する。



第18表　中野遺跡第95地点の発掘調査工程表



第 41 図　確認調査時の遺構分布図（1 ／ 200）



第 42 図　遺構分布図（1 ／ 200）

第３節　縄文時代の遺構・遺物

（1）概　要

本地点からは、縄文時代の炉穴２基（48・49ＦＰ）、土坑９基（297D・298D・300D・320・322～326D）、ピット１本（106Ｐ）が検出された。遺構に伴う遺物は、298 Dから出土した早期後葉の条痕文系土器１点のみである。

（2）炉　穴

48号炉穴

遺　構（第43図）

[位　置]（Ｅ－１・２）グリッド。

[検出状況] 291D・298 Dに切られる。また東側は撹乱が著しい。

[構　造] **平面形：**楕円形。**規模：**長軸1.47m／短軸不明／深さ17㎝。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**不明。**燃焼部：**被熱範囲は中央よりやや北側に寄って検出されたが、赤化範囲として捉える程の被熱は受けていなかった。

[覆　土] ２層に分層される。

[遺　物] 出土しなかった。

[時　期] 覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

49号炉穴

遺　構（第43図）

[位　置]（Ｂ－２）グリッド。

[検出状況] 325Dのすぐ西側から検出された。

[構　造] **平面形：**楕円形。**規模：**長軸1.20m／短軸0.98m／深さ13㎝。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－32°－Ｅ。**燃焼部：**被熱範囲は南壁近くから検出されたが、赤化範囲として捉える程の被熱は受けていなかった。

[覆　土] ７層に分層される。

[遺　物] 出土しなかった。

[時　期] 覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

（3）土　坑

297号土坑

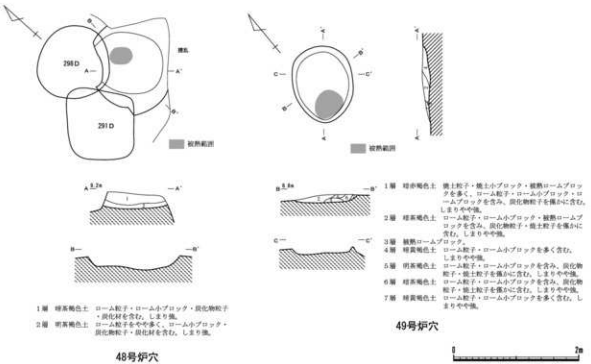
遺　構（第44図）

[位　置]（Ｄ－１・２）グリッド。

[検出状況] 105Pに切られる。106Pと重複する。

[構　造] **平面形：**円形。**規模：**径0.74m／深さ10㎝。**壁：**緩やかに立ち上がる。

[覆　土] ２層に分層される。



第 43 図　炉穴（1 ／ 60）

［遺　　物］出土しなかった。

［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

298号土坑

遺　　構（第44図）

［位　　置］（Ｅ－１）グリッド。

［検出状況］291D・109・110Pに切られ、48ＦＰを切る。

［構　　造］**平面形：**不整な円形。**規模：**長軸1.15m／短軸1.14m／深さ54㎝。**壁：**70～80°程の角度で立ち上がる。**長軸方位：**ほぼＮ－Ｓ。

［覆　　土］４層に分層された。

［遺　　物］土器の小破片１点が出土した。

［時　　期］早期後葉（条痕文系）。

遺　　物（第44図）

［土　　器］（第44図１）

条痕文系土器の胴部下半の小破片である。厚さ1.0㎝。内外面に条痕文が施される。色調は内面が黒色、外面は暗赤褐色を呈し、胎土には繊維を含む。

300号土坑

遺　　構（第44図）

［位　　置］（Ｅ－２）グリッド。

［検出状況］82H・291Dに切られる。

［構　　造］平面形：不明。規模：遺存部最大 1.28m／深さ 24㎝。壁：丸みをもって立ち上がり、80°程の角度を持つ。長軸方位：不明。
［覆　　土］５層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

320号土坑

遺　　構（第44図）
［位　　置］（Ｃ－１）グリッド。
［検出状況］上部は段切状遺構によって削平されている。
［構　　造］平面形：不整な円形。規模：長軸0.95m／短軸0.84m／深さ８㎝。壁：急角度で立ち上がる。長軸方位：Ｎ－10°－Ｅ。
［覆　　土］単層。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

322号土坑

遺　　構（第44図）
［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。
［検出状況］319Dに切られる。
［構　　造］平面形：不整な円形。規模：長軸1.29m／短軸1.10m／深さ13㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：Ｎ－45°－Ｅ。
［覆　　土］３層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

323号土坑

遺　　構（第44図）
［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。
［検出状況］324Dに切られる。
［構　　造］平面形：不整な楕円形。規模：長軸1.01m／短軸0.97m／深さ25㎝。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：Ｎ－10°－Ｅ。
［覆　　土］４層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

324号土坑

遺　　構（第44図）

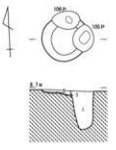
［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。
［検出状況］319Dに切られ、323Dを切る。
［構　　造］**平面形**：不整な楕円形。**規模**：長軸1.40m／短軸1.04m／深さ14㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－10°－Ｗ。
［覆　　土］８層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。（礫６点）
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

325号土坑

遺　　構（第44図）
［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。
［検出状況］49FP・323Dに接する。
［構　　造］**平面形**：不整な楕円形。**規模**：長軸0.81m／短軸0.61m／深さ18㎝。**壁**：緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－43°－Ｅ。
［覆　　土］５層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。

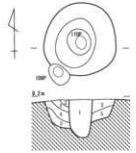
326号土坑

遺　　構（第44図）
［位　　置］（Ｂ－１）グリッド。
［検出状況］北端を撹乱される。
［構　　造］**平面形**：不整な円形。**規模**：長軸1.16m／短軸1.06m／深さ20㎝。**壁**：坑底は皿状で緩やかに立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－Ｓ。
［覆　　土］３層に分層される。
［遺　　物］出土しなかった。
［時　　期］覆土の観察より、縄文時代と考えられる。



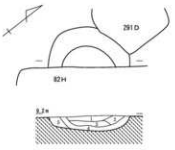
1層　後世のピット（108D）。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり強。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり強。

297号土坑



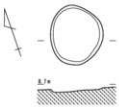
1層　後世のピット（110D）。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
4層　明茶褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。

298号土坑

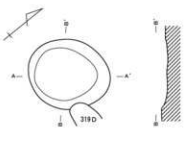


1層　暗茶褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
4層　明茶褐色土　ローム粒子を含む。しまりやや強。
5層　明茶褐色土　ローム粒子をやや多く含む。しまり強。

300号土坑

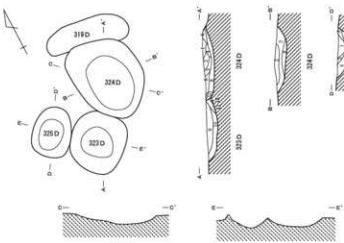


320号土坑



1層　撹乱。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや強。

322号土坑

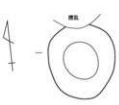


324D　A－A'・B－B'
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を含む。しまりやや強。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
4層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・褐黒ロームブロックを含む。しまりやや強。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
6層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりやや強。
7層　ローム小ブロック。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまりやや強。

323D　A－A'
9層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
11層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。

325D　D－D'
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまりやや強。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
5層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

323・324・325号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり強。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり強。

326号土坑

298号土坑出土遺物

第 44 図　土坑（1／60）・298 号土坑出土遺物（1／3）

第４節　古墳・平安時代の遺構・遺物

（1）概　要

古墳・平安時代の遺構については、住居跡１軒（82Ｈ）・土坑４基（285・288・301・319Ｄ）・ピット８本（33・47・114・115・116・179・182・193Ｐ）が検出された。

そのうち、古墳時代の遺構については、土坑１基（319Ｄ）・ピット５本（33・114・115・179・193Ｐ）であった。

平安時代の遺構については、土坑３基（285・288・301Ｄ）・ピット３本（47・116・167Ｐ）であり、出土土器の特徴から、平安時代（９世紀中～後葉）に比定できる。

また、住居跡の82Ｈについては、出土遺物として、土器小破片が皆無であったため、時期の特定は不可能であったが、覆土の観察から、古墳～平安時代として扱うこととした。

（2）住居跡

82号住居跡

遺　構（第45図）

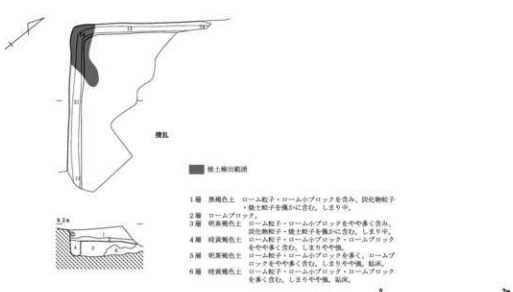
[位　置]（Ｅ－２）グリッド。

[検出状況] 東側の殆どを撹乱されており、西側コーナー部分のみ検出した。

[構　造] **平面形**：隅丸方形。**規模**：長軸不明ｍ／短軸不明ｍ／確認面からの深さ25～29㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：不明。**壁溝**：上幅14～23㎝／下幅７～11㎝／深さ13～21㎝。**床面**：硬化した面は検出されなかった。貼床は厚く、13～20㎝の厚さで施されていた。**カマド**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**入口施設**：検出されなかった。

[覆　土] ４層に分層できた。西コーナー付近の覆土には多くの焼土粒子が包含されていた。

[遺　物] 出土しなかった。



第45図　82号住居跡（１／60）

［時　　期］古墳～平安時代。

（３）土　坑

285号土坑

遺　　構（第46図）

［位　　置］（Ｄ－１）グリッド。

［検出状況］287 Ｄ・12・13 Ｐに切られる。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.93m／短軸1.1.m／深さ43㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－80°－Ｗ。

［覆　　土］17層に分層される。

［遺　　物］須恵器坏・甕形土器が１点ずつ出土した。

［時　　期］平安時代（９世紀中葉か）。

遺　　物（図版26－２－１・２、第19表）

［土　　器］（図版26－２－１・２、第19表）

１は須恵器坏形土器、２は須恵器甕形土器である。

288号土坑

遺　　構（第46図）

［位　　置］（Ｅ－１）グリッド。

［検出状況］北側は撹乱により破壊されている。

［構　　造］**平面形：**長方形（溝状土坑）。**規模：**長軸2.94m／短軸0.50m／深さ43㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－10°－Ｗ。

［覆　　土］５層に分層される。

［遺　　物］須恵器坏形土器１点と石製品（砥石）１点が出土した。

［時　　期］平安時代（９世紀後葉か）

遺　　物（第46図１・２、第19表）

［土　　器］（第46図１、第19表）

１は須恵器坏形土器の底部破片である。

［石 製 品］（第46図２）

２は砥石の破片である。上下２面と右側面に使用面が観察される。長さ3.0㎝・最大幅1.8㎝・厚さ0.7㎝・重さ4.1ｇ。石材は砂岩か。

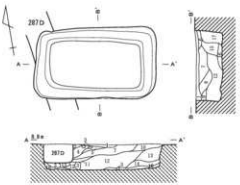
301号土坑

遺　　構（第46図）

［位　　置］（Ｂ－１）グリッド。

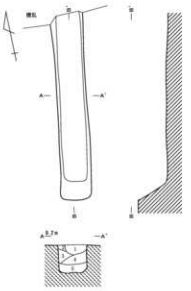
［検出状況］西側の段切状遺構の傾斜部分からの検出である。

［構　　造］**平面形：**長方形。**規模：**長軸2.68m／短軸1.54m／深さ59㎝。**壁：**西壁はほぼ直角に立ち上がる。**長軸方位：**Ｅ－Ｗ。



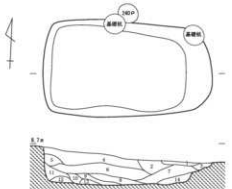
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや強。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　ロームブロック。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
6層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや強。
8層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強。
9層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
10層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
11層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
12層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
13層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
14層　暗黄褐色土　ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
16層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
17層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

285号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり中。

288号土坑

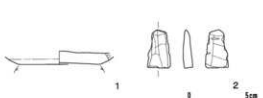


1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
6層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや強い。
7層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強い。
8層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強い。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強い。
12層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強い。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
14層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。

301号土坑

1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

319号土坑



288号土坑出土遺物

第 46 図　土坑（1／60）・288 号土坑出土遺物（1／3）

［覆　　土］14層に分層される。
［遺　　物］須恵器坏形土器１点が出土した。
［時　　期］平安時代（９世紀後葉か）。
遺　　物（図版 26－２－１、第19表）
［土　　器］（図版 26－２－１、第19表）
１は須恵器坏形土器の体部小破片である。

319号土坑

遺　　構（第46図）
［位　　置］（Ｂ－２）グリッド。
［検出状況］南側は撹乱により確認できなかった。
［構　　造］**平面形：**長方形か。**規模：**長軸1.34m／短軸047m／深さ10㎝。**壁：**緩やかに立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－77°－Ｗ。
［覆　　土］単層である。
［遺　　物］須恵器長頸壷形土器１点が出土した。
［時　　期］古墳時代後期（７世紀後葉か）。
遺　　物（図版 26－２－１、第19表）
［土　　器］（図版 26－２－１、第19表）
１は須恵器長頸壷形土器の口縁部小破片と思われる。

挿図番号 図版番号	遺構名	器　種	法量 (㎝)	特　　徴	色　調	胎　土	調　整	遺存度	時　期
図版 26-2-1	285D	須恵器 坏	厚0.3	体部はやや丸味をもち外傾する／鳩山製品	灰色	白色針状物質・砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	体部破片	平安時代 (９世紀中葉か)
図版 26-2-2	285D	須恵器 甕	厚0.3	頸部は外傾する／東金子製品か	灰色	白色砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	頸部破片	平安時代 (９世紀代か)
第46図２ 図版 26-2-1	288D	須恵器 坏	高[1.0] 底(6.4)	平底／東金子製品か	灰色	白色砂粒を含む	底部に回転糸切り痕が残る	底部30％	平安時代 (９世紀後葉か)
図版 26-2-1	301D	須恵器 坏	厚0.3	体部はやや丸味をもち外傾する／酸化炎焼成／産地不明	淡茶褐色	赤褐色粒子・白色砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	体部小破片	平安時代 (９世紀後葉か)
図版 26-2-1	319D	須恵器 長頸壷	厚0.7	口縁部は面取り／口頸部は外反する／外面に自然釉がかかる／産地不明	暗灰色	黒色粒子・白色砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	口頸部破片	古墳後期 (７世紀後葉か)
図版 27-3-1	33P	土師器 甕	厚0.7	胴部下半／在地系土師器	淡茶褐色	砂粒をやや多く、角閃石を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り	胴部下半小破片	古墳後期 (７世紀中葉か)
図版 27-3-1	47P	須恵器 坏	厚0.3	口縁部は僅かに外反する／東金子製品か	青灰色	白色砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	口縁部小破片	平安時代 (９世紀後葉)
図版 27-3-1	115P	土師器 甕	厚0.7	口縁部は外反する	暗黄褐色	砂粒をやや多く、角閃石を含む	内外面：横ナデ	口縁部破片	古墳後期 (７世紀代か)
図版 27-3-1	116P	須恵器 坏	厚0.3	口縁部は外反する／鳩山製品	灰白色	白色針状物質・砂粒を含む	ロクロ成形／ロクロ回転は右回転	口縁部小破片	平安時代 (９世紀後葉か)
図版 27-3-1	193P	土師器 甕	厚0.7	胴部	淡茶褐色	砂粒をやや多く、小石を僅かに含む	内外面：ナデ	胴部小破片	古墳後期 (６世紀代)

第19表　古墳・平安時代遺構出土土器一覧

第５節　中世以降の遺構・遺物

（１）概　要

中世以降の遺構については、土坑45基・井戸跡２基・溝跡１本・ピット231本が検出された。これらの遺構については、基本的に調査区（Ｂ～Ｅ－１・２）グリッドに展開する段切状あるいは平場状に整地された遺構と関連するものと考えられる。この平場状の遺構については、すでに本地点の南側に隣接する第49地点（尾形・深井・青木　2004）の際に調査されており、その際の段切状遺構と同一遺構と考えられる。つまり、本地点で検出された平場状の遺構は、第49地点の段切状遺構の北側部分としてよいであろう。

検出された土坑のうち、299・310Ｄは地下室である。さらに、市内で初めて「Ｔ字形」の火葬土坑である土坑５基（274・284・311・316・318Ｄ）が検出されたことは特筆すべきであろう。また、（Ｅ－２）グリッドの段切状遺構の坑底から、被熱により赤化した範囲が検出されたものについても遺構として留めた方がよいかもしれない。

溝跡（15Ｍ）については、平安時代の須恵器甕形土器１点、板碑片１点が出土しており、時期の比定は難しいが、ここでは中世以降として扱った。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

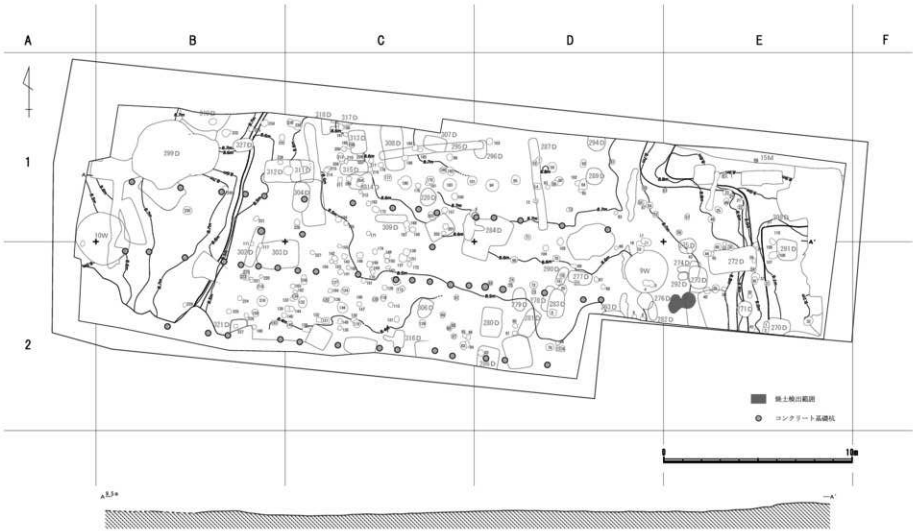
（２）段切状遺構

すでに本地点の南側に隣接する第49地点において発見されており、その際には、狭小な面積での調査であったが、平場状に整地されたローム面から、ピット列（掘立柱建物か）・溝跡・土坑等が検出されている。特に頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した土坑（67号土坑）は土葬墓であったため、この一帯が『舘村旧記』に記載のある「村中の墓場」に相当する施設ではないかと考えられた。

遺　構（第47図）

[位　置]（Ｂ～Ｄ－１・２）グリッド。

[構　造] **遺構の広がり**：西側は（Ｂ－１・２）グリッド内に、東側では（Ｄ・Ｅ－１・２）グリッド内にほぼ南北方向を基本に延びる平場状になる段差が認められた。その段差の方向を詳しく見てみると西側では、やや北側の低地部に向かって東に15°傾いて延びている。東側では、南端の（Ｅ－２）グリッドからほぼ北側に向かって延び、（Ｅ－１）グリッドでは、一度東方向に屈曲し、さらに北端では東側の段差と同じ方向に延びているようである。東側段差上段にはローム漸移層が残されており、傾斜は自然地形と考えられる。**規模**：南北方向12.5m／東西方向21～33m。**深さ**：段差部分での深さをグリッド毎に記述すると、西側では、標高8.7mラインを基準に（Ｂ－１）グリッドで約20㎝、（Ｂ－２）グリッドで約30㎝、東側では、標高9.1mラインを基準に（Ｄ－１）グリッドと（Ｅ－２）グリッドで約40㎝である。最も低い箇所は、調査区南端の（Ｂ～Ｄ－２）グリッドで標高8.4mラインが認められることから、本地点の最高標高9.1mラインから換算すると70㎝の深さとなる。また、北側方向は同時に低地方向であるため、北側に行くにつれて、段切状遺構の最下面は低くなるものと思われたが、逆に南端では標高8.4mライン、北端では標高8.7mラインが認められることから、南端より北端が30㎝程



第 47 図　中世以降の遺構分布図（1 ／ 200）

高くなっていることがわかる。**平場の状況**：ほぼ平坦であるが、工具痕が全体に見られることから、第49地点と同様にローム掘削後何らかの工具により整地されているものと思われる。基本土層の測量はできなかったが、土層途中に版築面や硬化面は観察できなかった。

[時　　期] 本段切状遺構の最下面から検出された５基の火葬土坑から出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行ったところ、鎌倉時代～室町時代（13世紀末～15世紀前半）という年代が与えられていることから、同時期のものと考えられる。

（2）土　坑

ここでは、平面形及び細部の形態的な特徴を本報告第２章第４節と同様に城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする（尾形・深井・青木　2005）。また、今回は「T字形」の火葬土坑について、新たにF群とし分類基準に加えることにした。検出された土坑の総数は45基で、そのうち分類不明な土坑は、２基（293・317D）である。基本構造については、第20表を参照。

A群　方形の土坑　４基
　１類　袋状の構造を呈する
　２類　袋状の構造ではなく、単純構造を呈する　４基（270・273・291・292 D）
B群　長方形の土坑　20基（１類－２基、２類－２基、３類－17基、４類－０基）
　１類　溝状土坑　２基（287・295 D）
　２類　幅狭の長方形土坑　２基（302・309 D）
　３類　幅広の長方形土坑　17基（272・277・278・280・281・283・286・303～305・307・308・312～315・321 D）
　４類　火床部を有する土坑　０基
C群　円形・楕円形の土坑　11基（271・275・276・279・282・289・290・294・296・306・327 D）
D群　不整形の土坑　０基
E群　地下室・地下坑　２基（１類－２基、２類－０基）
　１類　１竪坑１主体部タイプ　２基（299・310 D）
　２類　特殊タイプ　０基
F群　T字形の土坑　５基（274・284・311・316・318 D）

A群　方形の土坑（第48図、第20表）

４基（270・273・291・292 D）が該当する。分布状況は、すべて（E－２）グリッド内からまとまって検出されている。段切状遺構を基準とすると、273・292 Dの２基は段切状遺構内、270・291 Dの２基は段切状遺構外に位置することになる。これら４基の土坑からの出土遺物はなかった。

B群　長方形の土坑（第49～52図、第20表）

20基検出された。今回の調査では、４類は検出されなかった。

１類　溝状土坑（第42図）

287・295 Dの２基が該当する。２基ともに長軸方向は一定していないが、段切状遺構内からの検出

となる。なお、288 Dについても、形態の類似した溝状に細長い土坑であるが、出土遺物から平安時代に比定したため、ここでは含めないものとした。

287号土坑

遺　構（第42図、第20表）

［位　置］（D－1）グリッド。

［検出状況］段切り状遺構下面より検出。７Ｐに切られ、285D・12・14・15Pを切る。

［構　造］**平面形**：溝状の長方形。**規模**：長軸4.88m／短軸0.48m／深さ20㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－７°－Ｗ。

［覆　土］６層に分層された。

［遺　物］土製品（錘）が出土した。

［時　期］覆土の観察から中世以降と思われる。

遺　物（第60図１）

［土 製 品］（第60図１）

秤量用の土製錘と思われる。高さ4.1㎝・最大径4.4㎝・重さ59.5ｇ。天井部には直径0.7㎝・深さ1.8㎝の孔が穿たれているが貫通はしていない。表面には指頭による成形痕が残る。遺存度は約70％。

295号土坑

遺　構（第42図、第20表）

［位　置］（Ｃ・Ｄ－１）グリッド。

［検出状況］296・307・308D・184～186Pを切る。

［構　造］**平面形**：溝状の長方形。**規模**：長軸5.55m／短軸0.46m／深さ13㎝。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位**：Ｎ－84°－Ｅ。

［覆　土］ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調とする。

［遺　物］磁器（青磁）１点が出土した。

［時　期］中世（12世紀末か）。

遺　物（図版26－３－１、第22表）

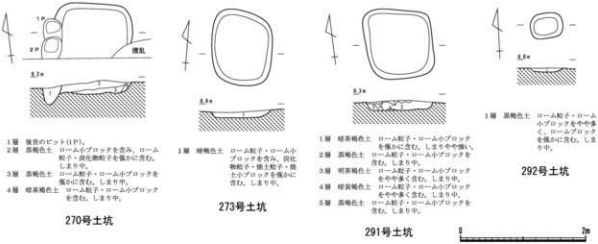
青磁皿である。同安窯の製品と思われる。時期は12世紀末か。

２類　幅狭の長方形土坑（第49図、第20表）

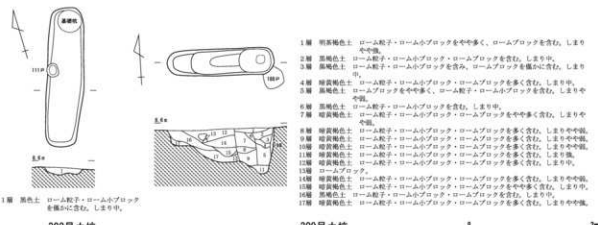
302・309 Dの２基が該当する。本類は１類より長軸が短いというだけで、厳密には１類との区分は困難であると言える。段切状遺構内からの検出である。これら４基の土坑からの出土遺物はなかった。

３類　幅広の長方形土坑（第50～52図、第20表）

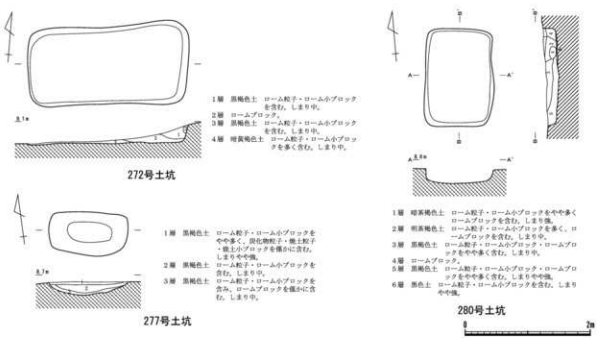
272・277・278・280・281・283・286・303～305・307・308・312～315・321 Dの17基が該当する。今回の調査では、最も多く検出された類と言える。分布状況としては、基本的に段切状遺構内にあるが、272 Dについては、段切状遺構の立ち上がり段差部分での検出である。これら17基の土坑からの出土遺物はなかった。



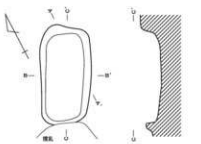
第 48 図　土坑　A群２類（1／60）



第 49 図　土坑　B群２類（1／60）

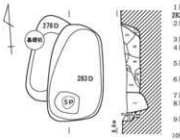


第 50 図　土坑　B群３類１（1／60）



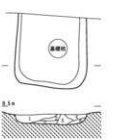
1層　暗黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　明黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
3層　暗黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。

281号土坑



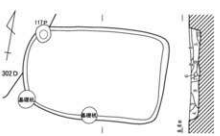
1層　撹乱のピット（5P）。
2層　暗黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
10層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
278D
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。

278・283号土坑



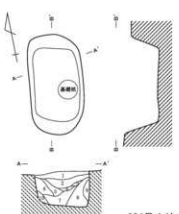
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強い。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや強い。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。
6層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。

286号土坑



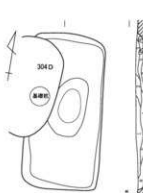
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまり中。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
4層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
6層　ローム小ブロック。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりやや。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
10層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。

303号土坑



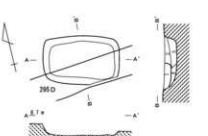
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
4層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
5層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。
6層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
10層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや。

304号土坑



1層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
4層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや。
7層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりやや。
8層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
9層　黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

305号土坑

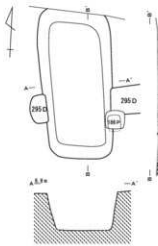


1層　295D覆土。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや。
4層　黒褐色土　ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや。

307号土坑

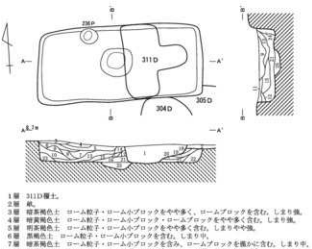
0　2m

第 51 図　土坑　B 群３類２（1／60）



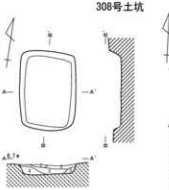
1層　295D覆土。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
3層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや弱い。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
7層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまりや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。
9層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
10層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
12層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
13層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
14層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
15層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
16層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・大きめのロームブロックを多く含む。しまりやや弱。
17層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや弱。

308号土坑



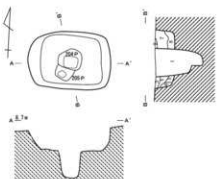
1層　311D覆土。
2層　礫。
3層　暗黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む。しまり強。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまり強。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
7層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
8層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
9層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
11層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強。
12層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
13層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
14層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く、ロームブロックを多く含む。しまりや。
15層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや弱。
16層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
17層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
18層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや。
19層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
20層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
21層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりやや強。
22層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
23層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
24層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりやや弱。
25層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。細かな。

312号土坑



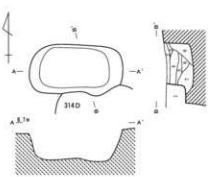
1層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
2層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

313号土坑



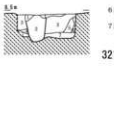
1層　後世のピット（304P）。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。
8層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。

314号土坑



1層　後世の土坑（314D）。
2層　暗黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
4層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
6層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
7層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む。しまりや。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや。

315号土坑



1層　撹乱。
2層　後世のピット。（237P）。
3層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりや。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
5層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまりや。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりやや弱。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりやや強。

321号土坑

0　2m

第52図　土坑　B群3類3（1／60）

C群　円形・楕円形の土坑（第53図、第20表）

271・275・276・279・282・289・290・294・296・306・327 Dの11基が該当する。分布状況は、327 Dを除き、基本的に段切状遺構内のやや東半部（C～Eグリッド）から散在的である。これら11基の土坑からの出土遺物はなかった。

D群　不整形の土坑

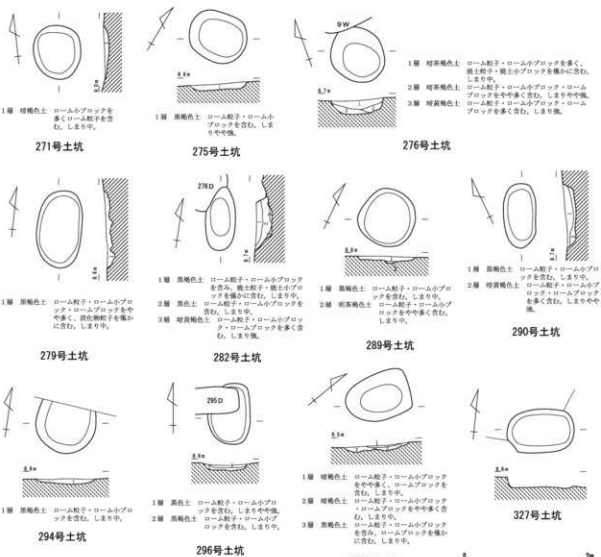
今回の調査では、該当するものはなかった。

E群　地下室・地下坑（第54図、第20表）

1類の1竪坑1主体部タイプとして、299・310 Dの2基が該当する。ここでは地下式坑・地下室・地下坑（江戸遺跡研究会編　2001）の分類を参考とした。

299号土坑

遺　構（第54図、第20表）



第 53 図　土坑　C群（1／60）

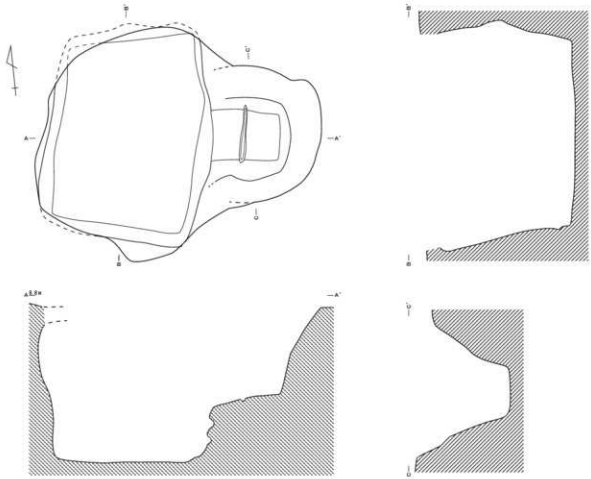
［位　　置］（Ｂ－１）グリッド。
［検出状況］調査区北西端からの検出。
［構　　造］地下室の形態をもつ。主体部及び竪坑との接続部は陥落していた。
［入口竪坑部］**平面形：**主体部及び接続部が陥落していたため詳細は不明であるが、主軸に対し横長の長方形と思われる。また、開口部は円形と思われる。**規模：**開口部径2.15m／竪坑部横幅1.3m／深さ162㎝。坑底は主軸に対し縦長の長方形。ほぼ平坦であるが、中央部分に横方向の、細い溝状の痕跡が認められる。接続部の床面と連続し、明確な区切りは無い。壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部は漏斗状に広がる。
［主 体 部］**平面形：**主軸に対し横長で、奥に窄まる台形。**規模：**前壁3.43m／奥壁2.90m／奥行2.57m／深さ265㎝。**長軸方位：**Ｎ－80°－Ｗ。
［覆　　土］耕作土と思われる黒色土にロームが混入し、しまりが無く脆弱な覆土であったため、危険防止のため土層断面の測量は断念した。
［遺　　物］陶器・土器（ほうろく）を出土した。
［時　　期］近世（14世紀後半）。
遺　　物（図版26－３、第22表）
［陶器・土器］（図版26－３、１～７、第22表）
１～６は陶器、７は土器（ほうろく）である。

310号土坑

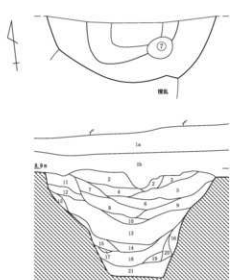
遺　　構（第54図、第20表）
［位　　置］（Ｂ－１）グリッド。
［検出状況］調査区北西端からの検出。入口竪坑部のみ検出。
［構　　造］地下室と思われる。主体部は北側調査区外へ伸びるため不明。
［入口竪坑部］**平面形：**開口部は円形と思われる、下端は長方形か。**規模：**開口部径2.64m／深さ162㎝。坑底は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁はほぼ垂直に立ち上がり、上部は漏斗状に広がる。南東角にピットが確認されたが、新旧関係は不明。**長軸方位：**Ｎ－５°－Ｅ。
［覆　　土］20層に分層された。
［遺　　物］陶器１点を出土した。
［時　　期］近世（17世紀か）。
遺　　物（図版26－３－１、第22表）
［陶　　器］（図版26－３－１、第22表）
１は陶器（常滑焼）の胴部破片である。

Ｆ群　Ｔ字形の土坑（第55～57図、第20表）

市内では初めて検出された形態の土坑であり、274・284・311・316・318 Ｄの５基が該当する。このＴ字形土坑は、多くの人骨片と炭化材を出土し、土坑内部には被熱痕が確認されることから火葬土坑と考えられる。形態的には主体部と張出部に区分できるが、ここでは、遺体を安置したと推定される「主体部」とこれに向かって張り出される「吸気坑」、主体部中央の窪み「通気溝」の名称を使用した



299号土坑



310号土坑

0　2m

第 54 図　土坑 E群（1／60）

（林田　1993、小倉・柳田他　2001a）。また、以下は主体部長軸方向を縦、短軸方向を横として記述する。

なお、本土坑から出土した、炭化材・人骨片については、サンプリングを行い、自然科学分析を行った。分析結果は、付編を参照。

274号土坑

遺　構（第55図、第20表）

［位　置］（Ｅ－２）グリッド。Ｔ字形の形態をもつ。273Ｄに主体部の南半上部が切られる。

［主 体 部］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.11m／短軸0.55m／深さ18㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がり、通気溝周辺は焼けて赤化している。**通気溝：**幅30㎝／深さ26㎝。主体部中央を横断し、吸気坑に至る。底面には工具痕が認められる。**長軸方位：**Ｎ－12°－Ｅ。

［吸 気 坑］主体部通気溝から続き、主体部西側に溝状に張出す。**規模：**長軸0.63m／短軸0.32m／深さ主体部接続部分で23㎝程。西に向かって浅くなる。**壁：**80°程で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－78°－Ｗ。

［炭化材の状況］炭化材は通気溝の両側、横位に設置された丸太状の材に上に、縦位に長いエノキの枝材、割材を敷いた様子が確認できた。一部には竹材も見られた。

［人骨の状況］人骨は小破片、もしくは粉状のものが多かった。大型のものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

［覆　土］主体部・吸気口ともに埋戻された様相である。主体部は７層、吸気坑は５層に分層された。

［遺　物］炭化材・人骨片以外は出土しなかった。

［時　期］鎌倉～室町時代（14世紀前半～15世紀前半）。

284号土坑

遺　構（第55図、第20表）

［位　置］（Ｃ・Ｄ－１）グリッド。

［構　造］Ｔ字形の形態をもつ。６Ｐに主体部の北端を切られる。既存建物の基礎杭に撹乱される。

［主 体 部］**平面形：**楕円に近い長方形。**規模：**長軸1.42m／短軸0.58m／深さ20㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がり、通気溝周辺は焼けて赤化している。坑底には若干工具痕が確認できる。**通気溝：**幅30㎝／深さ25㎝。主体部中央を横断し、吸気坑に至る。**長軸方位：**Ｎ－７°－Ｅ。

［吸 気 坑］主体部通気溝から続き、主体部東側に溝状に張出す。**規模：**長軸0.52m／短軸0.27m／深さ主体部接続部分で24㎝程。東に向かって浅くなるが、東端はやや窪む。**壁：**丸く立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－81°－Ｗ。

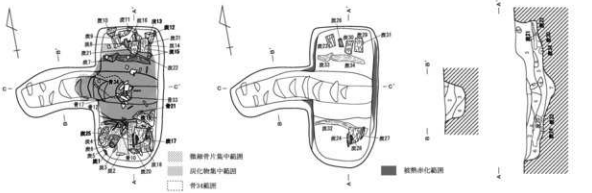
［炭化材の状況］炭化材は燃焼が良好で灰・小破片が多く、原型を留めているものは多くなかったが、通気溝の両側、横位に設置された丸太状の材に上に、縦位にエノキの長い枝材、割材を敷いた様子が確認できた。一部には竹材も見られた。

［人骨の状況］人骨は小破片、もしくは粉状のものが多かった。大型のものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

［覆　土］主体部・吸気口ともに埋め戻された様相。合わせて16層に分層された。

［遺　物］炭化材・人骨片以外は出土しなかった。

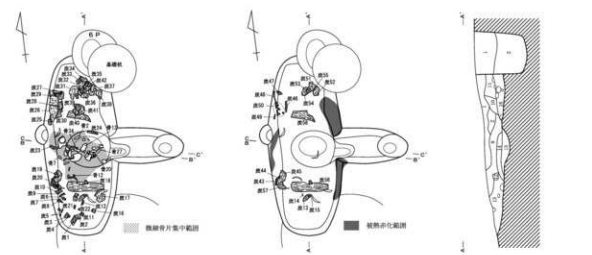
［時　期］鎌倉～室町時代（13世紀末～15世紀初頭）。



A－A'・C－C'
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・人骨片を含み、炭化物粒子・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む。しまり中。
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含む。しまり中。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含む。しまりやや強。
4層　ロームブロック
5層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまりやや弱い。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
7層　黒色土　炭化物粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含む。しまり中。

B－B'
1層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
4層　黒褐色土　炭化物粒子・炭化材を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。

274号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり中。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
3層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
5層　明茶褐色土　ローム粒子をやや多く、ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまり中。
6層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりやや強。
7層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
8層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含む。しまり中。
9層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
10層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロック・炭化物粒子・炭化材を含む。しまり中。
12層　ロームブロック
13層　暗茶褐色土　炭化材をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまり中。
14層　灰褐色土　人骨片粒子・焼土粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材・焼土小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり中。
15層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含み、炭化材を僅かに含む。しまり中。
16層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・人骨片を含み、炭化材を僅かに含む。しまり中。

6P
1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。
2層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。

284号土坑・6号ピット

第 55 図　土坑　F 群 1（1／30）

311号土坑

遺　構（第56図、第20表）

［位　置］（Ｃ－１）グリッド。

［構　造］Ｔ字形の形態をもつ。312Ｄを切る。

［主 体 部］**平面形：**長方形。**規模：**長軸1.17m／短軸0.57m／深さ36㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がり、通気溝周辺及び、北壁中央部は焼けて赤化している。**通気溝：**幅33㎝／深さ40㎝。主体部中央を横断し、吸気坑に至る。**長軸方位：**Ｎ－2°－Ｗ。

［吸 気 坑］主体部中央東側に溝状に張出す。**規模：**長軸0.40m／短軸0.37m／深さ主体部接続部分で32㎝程。東に向かって浅くなる。**壁：**やや急角度で立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－87°－Ｅ。

［炭化材の状況］炭化材は通気溝に沿って横位に設置された丸太状の材（一本は通気溝内に落下している）の上に、縦位に長いエノキの枝材、割材を敷いた様子が確認できた。一部には竹材も見られた。

［人骨の状況］人骨は小破片、もしくは粉状のものが多かった。大型のものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

［覆　土］主体部・吸気口合わせ９層に分層された。

［遺　物］炭化材・人骨片以外は出土しなかった。

［時　期］室町時代（15世紀初頭～前半）。

316号土坑

遺　構（第56図、第20表）

［位　置］（Ｃ－２）グリッド。

［構　造］Ｔ字形の形態をもつ。南端を既存建物の基礎杭に攪乱される。

［主 体 部］**平面形：**長方形。**規模：**長軸0.98m／短軸0.61m／深さ35㎝。**壁：**ほぼ垂直に立ち上がり、通気溝周辺は焼けて赤化している。**通気溝：**幅25㎝／深さ41㎝。主体部中央を横断し、吸気坑に続く。**長軸方位：**Ｎ－7°－Ｅ。

［吸 気 坑］主体部通気溝から続き、主体部西側に溝状に張出す。**規模：**長軸0.62m／短軸0.23m／深さ主体部接続部分で38㎝程。西に向かって浅くなる。**壁：**坑底部から丸みをもって、ほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－75°－Ｗ。

［炭化材の状況］炭化材は通気溝に沿って横位に設置された丸太状の材の上に、縦位に長いエノキの枝材、割材を敷いた様子が確認できた。一部竹材も見られた。また、張出し部からも比較的太めの丸太の炭化材が出土した。

［人骨の状況］人骨は小破片、もしくは粉状のものが多かった。大型のものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

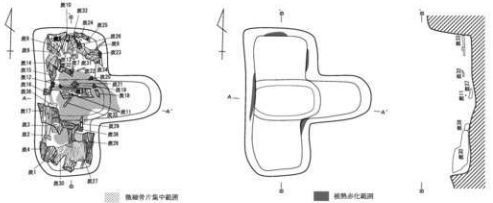
［覆　土］主体部・吸気口ともに埋め戻された様相。合わせて13層に分層された。

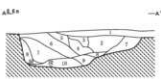
［遺　物］炭化材・人骨片以外は出土しなかった。

［時　期］鎌倉～室町時代（14世紀末～15世紀前半）。

318号土坑

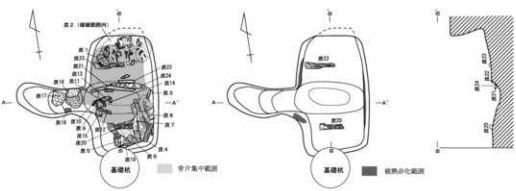
遺　構（第57図、第20表）





1層　耕作土。
2層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、炭化物粒子・人骨片を含み、
　　焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
4層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・人骨片を含む。
　　しまりや。
5層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
6層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含み、炭化
　　物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまりや。
7層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・人骨片を含む。
　　しまりや。
8層　暗赤褐色土　焼土粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
9層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりやや強。
10層　黒色土　炭化物粒子を多く、人骨片を含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含
　　む。しまりや。

311号土坑



1層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒
　　子を僅かに含む。しまりや。
2層　ロームブロック。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ロームブロ
　　ックを僅かに含む。しまりや。
4層　暗黄褐　　。しまりや。
6層　明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・焼
　　土小ブロック・人骨片を含み、炭化材を多く含む。しまりや。
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりや強。
8層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む。しまりや強。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。しまりや。
10層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含む。
　　しまりや。
11層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。しまりや強。
12層　黒色土　炭化物粒子・炭化材を多く、人骨片を含む。
13層　人骨片主体層。

316号土坑

第 56 図　土坑　F 群２（1／30）

［位　　置］（Ｃ－１）グリッド。

［構　　造］Ｔ字形の形態をもつ。317Ｄ・196Ｐに吸気坑東端部を切られる。主体部北端は調査区外に延びるものと思われる。

［主 体 部］**平面形：**長方形。**規模：**長軸0.86m／短軸0.52m／深さ16㎝。**壁：**長辺はほぼ垂直に立ち上がり、通気溝周辺は焼けて赤化している。短辺は南側のみ検出だが緩やかに立ち上がる。**通気溝：**長径0.48m／短径0.42m／深さ21㎝。主体部中央に位置し吸気坑に接続する。溝状ではなく、不整な円形の掘り込みを呈す。**長軸方位：**Ｎ－2°－Ｗ。

［吸 気 坑］主体部中央部分から、主体部東側に溝状に張出す。東端部を僅かに切られている。**規模：**長軸0.48m／短軸0.21m／深さ主体部接続部分で13㎝程。東に向かって浅くなる。**壁：**底部から丸みをもって立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－87°－Ｗ。

［炭化材の状況］炭化材は、形態を留めるものは散在していた。しかし、通気溝内には他のＴ字状土坑同様、横位に設置された丸木状のクリ・エノキ材が残っていた。また、主体部南端で横位のエノキ丸木材の上に、縦位にエノキ・クリ丸木材の重なっている様子が確認できた。また、タケ材も散在している。

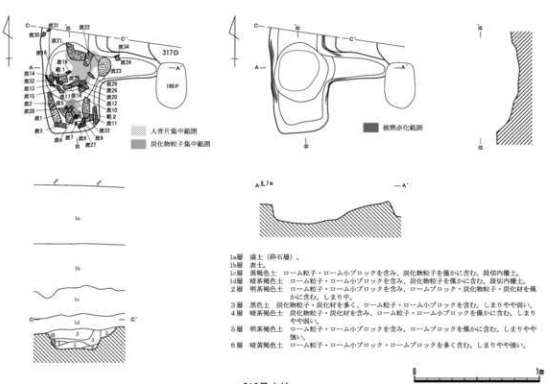
［人骨の状況］人骨は小破片、もしくは粉状のものが多かった。大型のものは外部へ運び出された可能性が指摘されている。

［覆　　土］主体部・吸気口ともに埋め戻された様相。

［主 体 部］５層に分層された。

［遺　　物］炭化材・人骨片以外は出土しなかった。

［時　　期］室町時代（15世紀初頭～前半）。



第57図　土坑　Ｆ群３（1／30）

遺構名	位　置	平面形		分　類	規模（m）			長軸方位	覆土及び特徴等	主な遺物	時　期
					長軸	短軸	深さ				
270D	（E−2）G	方形か		A群2類か	（1.20）	（0.90）	0.18	N−83°−W	3層（第48図）／1・2Pに切られる	なし	中世以降
271D	（E−2）G	楕円形		C群	0.86	0.75	0.11	N−S	単層（第53図）	なし	中世以降
272D	（E−2）G	長方形		B群3類	2.52	1.22	0.07	N−83°−E	4層（第50図）／28・29・34・35・44～46Pを切る	なし	中世以降
273D	（E−2）G	方形		A群2類	1.14	0.98	0.12	N−4°−W	単層（第48図）／274Dに切られる	なし	中世以降
274D	（E−2）G	T字形	主体部：長方形	F群	1.11	0.55	坑底0.18 通気溝 0.26 吸気坑0.23	N−12°−E	主体部：7層／吸気坑：5層（第55図）／273Dに切られる／火葬土坑	炭化材／人骨	中世（14c前～中／14c末～15c前）
			吸気坑：長楕円形		0.63	0.20		N−78°−W			
275D	（E−2）G	楕円形		C群	0.91	0.78	0.12	N−80°−E	単層（第53図）／43Pを切る	なし	中世以降
276D	（D−2）G	楕円形		C群	（0.90）	0.82	0.26	N−5°−W	3層（第53図）／9Wに切られ、282Dを切る	なし	中世以降
277D	（D−2）G	長方形		B群3類	1.26	0.69	0.22	N−80°−W	3層（第50図）／27Pを切る	なし	中世以降
278D	（D−2）G	長方形か		B群3類	1.36	（0.33）	0.29	N−15°−E	第51図／283Dに切られる	なし	中世以降
279D	（D−2）G	楕円形		C群	1.22	0.72	0.09	N−S	単層（第53図）	なし	中世以降
280D	（D−2）G	長方形		B群3類	1.55	1.09	0.23	N−5°−E	6層（第50図）	なし	中世以降
281D	（D−2）G	長方形		B群3類	1.60	0.88	0.31	N−30°−E	6層（第51図）	なし	中世以降
282D	（D−2）G	楕円形		C群	0.98	0.45	0.29	N−10°−E	3層に分層／276Dに切られる	なし	中世以降
283D	（D−2）G	長方形		B群3類	1.15	0.88	0.32	N−10°−E	10層（第51図）／5Pに切られ、278D・20Pを切る	なし	中世以降
284D	（C・D−1）G	T字形	主体部：長方形	F群	1.42	0.58	坑底0.06 通気溝 0.08 吸気坑0.08	N−7°−E	16層（第55図）／16Pに切られる／火葬土坑	炭化材／人骨	中世（13c末～15c初）
			吸気坑：長楕円形		1.10	0.28		N−81°−W			
286D	（D−2）G	長方形		B群3類	（1.15）	1.13	1.95	N−10°−E	6層（第51図）／82Pを切る	なし	中世以降
287D	（D−1）G	溝状土坑		B群1類	4.88	0.48	0.20	N−7°−W	上層はローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土、下層はロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／285Dを切り、7Pに切られる	土製品1点（錘か）	中世以降
289D	（D−1）G	円形		C群	0.90	0.83	0.07	N−S	2層（第53図）	なし	中世以降
290D	（D−2）G	楕円形		C群	1.02	0.51	0.16	N−25°−E	2層（第53図）／18・19Pを切る	なし	中世以降
291D	（E−2）G	方形		A群2類	1.11	1.07	0.13	N−S	5層（第48図）／298・300・48P・108Pを切る	なし	中世以降
292D	（E−2）G	方形		A群2類	0.51	0.44	0.06	N−85°−E	単層（第48図）	なし	中世以降
293D	（D−2）G	不明		−	1.19	（0.30）	0.29	不明	単層（ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土）	なし	中世以降
294D	（D−1）G	楕円形か		C群	0.95	（0.76）	0.11	不明	単層（第53図）	なし	中世以降
295D	（C・D−1）G	溝状土坑		B群1類	5.55	0.46	0.13	N−84°−E	単層（ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土）	磁器1点（青磁皿）	中世（12c末か）
296D	（D−1）G	楕円形か		C群	0.96	0.67	0.11	N−S	2層（第53図）	なし	中世以降
299D	（B−1）G	地下室	主体部	E群1類	3.55	2.65	2.65	N−80°−W	土層図なし／1竪坑1主体部タイプ	陶器・土器7点（鉢1点・甕5点・焙烙1点）	中世（14c後半）
			竪坑部		開口部径2.15		1.62				
302D	（B−1・2）G	長方形		B群2類	2.20	0.59	0.10	N−21°−E	単層（第49図）／111Pに切られ、303D・117Pを切る	なし	中世以降
303D	（B・C−2）G	長方形		B群3類	2.26	1.47	0.15	N−87°−E	10層（第51図）／302Dに切られ、117Pを切る	なし	中世以降
304D	（C−1）G	長方形		B群3類	1.58	0.85	0.52	N−5°−E	10層（第51図）／305・312Dを切る	なし	中世以降
305D	（C−1）G	楕円形		B群3類	2.48	1.22	0.13-0.20	N−5°−W	9層（第51図）／坑底中央に掘り込みあり／平面形：楕円形／長軸：0.97／短軸：0.55／深さ：0.20	なし	中世以降
306D	（C−2）G	楕円形		C群	1.04	0.75	0.15	N−23°−E	3層（第53図）	なし	中世以降
307D	（C−1）G	長方形		B群3類	1.22	0.77	0.19	N−76°−W	3層（第51図）／295Dに切られる	なし	中世以降
308D	（C−1）G	長方形		B群3類	2.34	1.17	0.63	N−5°−W	16層（第52図）／295D・186Pに切られる	なし	中世以降
309D	（C−1）G	長方形		B群2類	1.70	0.43	0.85	N−89°−W	17層（第50図）／188Pに切られる	なし	中世以降
310D	（B−1）G	地下室	竪坑部：円形	E群1類か	（2.64）	−	1.62	N−5°−E	20層（第50図）／入口竪坑部のみの検出	常滑甕1点	近世（17cか）
311D	（C−1）G	T字形	主体部：長方形	F群	1.17	0.57	坑底0.29 通気溝 0.02 気坑 0.21	N−2°−W	9層（第56図）／火葬土坑	炭化材／人骨	中世（15c初～前半）
			吸気坑：長楕円形		0.99	0.37		N−87°−E			
312D	（B・C−1）G	長方形		B群3類	2.62	1.21	0.55	E−W	23層（第52図）／坑底中央に掘り込みあり／平面形：不整円形／長軸：0.51／短軸：0.45／深さ：0.11	なし	中世以降
313D	（C−1）G	長方形		B群3類	1.25	0.89	0.16	N−5°−W	5層（第52図）／198・199Pを切る	なし	中世以降
314D	（C−1）G	長方形		B群3類	1.31	0.90	0.39	E−W	7層（第52図）／204・205Pに切られ、315D・206Pを切る	なし	中世以降
315D	（C−1）G	長方形		B群3類	1.48	0.78	0.51	E−W	7層（第52図）／314Dに切られ、207～210・216Pを切る	なし	中世以降
316D	（C−2）G	T字形	主体部：長方形	F群	0.98	0.61	坑底0.35 通気溝 0.41 吸気坑0.19	N−7°−E	13層（第56図）／火葬土坑	炭化材／人骨	中世（14c前／14c末～15c前）
			吸気坑：長楕円形		0.62	0.3		N−75°−W			
317D	（C−1）G	不明		−	（0.81）	−	0.07	−	ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
318D	（C−1）G	T字形	主体部：長方形	F群	0.82	0.52	坑底0.12 通気溝 0.17 吸気坑0.12	N−5°−W	5層（第57図）／317D・196Pに切られる／火葬土坑	炭化材／人骨	中世（15c初～前）
			吸気坑：長楕円形		0.44	0.21		N−87°−W			
321D	（B−2）G	長方形か		B群3類	0.92	（0.63）	0.40	E−W	5層（第52図）／237Pに切られる	なし	中世以降
327D	（B−1）G	楕円形か		C群	不明	不明	0.17	N−82°−E	ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降

第20表　中世以降の土坑一覧

（２）井戸跡

９号井戸跡

遺　構（第58図）

［位　置］（D・E－２）グリッド。

［検出状況］３・４Pに切られ、276D・10Pを切る。

［構　造］**平面形：**楕円形。開口部は円形。**規模：**1.51×1.30m。開口部径2.25m。危険を伴うため、深さ200㎝までのみの精査で終了した。開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。足掛け穴は確認できなかった。

［遺　物］須恵器甕形土器１点、土製品（土錘）１点、石製品（砥石）１点、銭貨１枚が出土した。

［時　期］第60図１は須恵器甕形土器であるが、覆土の観察からここでは中世以降としたが、平安時代まで遡る可能性がある。

遺　物（第60図１～４、第22表）

［土　器］（第60図1、第22表）

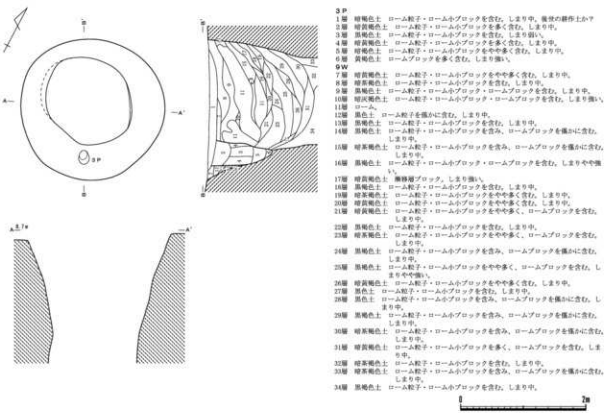
１は須恵器甕形土器である。白色針状物質を僅かに含むことから、鳩山製品と思われる。

［土 製 品］（第60図２）

２は土錘である。長さ3.3㎝・最大径1.1㎝・重さ3.1ｇ。長軸中央には0.3×0.4㎝の楕円形の孔が穿たれている。表面には指頭ナデによる成形痕が残る。ほぼ完形品である。

［石 製 品］（第60図３）

３は転用石製品である。長さ93.3㎝・幅100.1㎝・厚さ43.0㎝・重さ506ｇ。表裏・左面は節理面



3P
1層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや、強世の耕作土か？
2層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
3層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり弱い。
4層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや。
5層　暗褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
6層　黄褐色土　ローム小ブロックを多く含む。しまり強い。
9W
7層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
8層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
9層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや。
10層　暗灰褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり強い。
11層　ローム。
12層　黒色土　ローム粒子を僅かに含む。しまりや。
13層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
14層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
15層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
16層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
17層　暗黄褐色土　無機質ブロック。しまり強い。
18層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
19層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
20層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
21層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりや。
22層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
23層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりや。
24層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
25層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりやや強い。
26層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む。しまりや。
27層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
28層　黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
29層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
30層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
31層　暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。ローム小ブロックを含む。しまりや。
32層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。
33層　暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまりや。
34層　黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや。

第58図　９号井戸跡（１／60）

で、右面を砥石として使用した後、上下面を敲石転用したと推測される。石材は砂岩。

［銭　　貨］（第60図４、第26表）

４は元？通寶で、２文字目が不鮮明である。元祐通寶（初鋳年1086年）か。

10号井戸跡

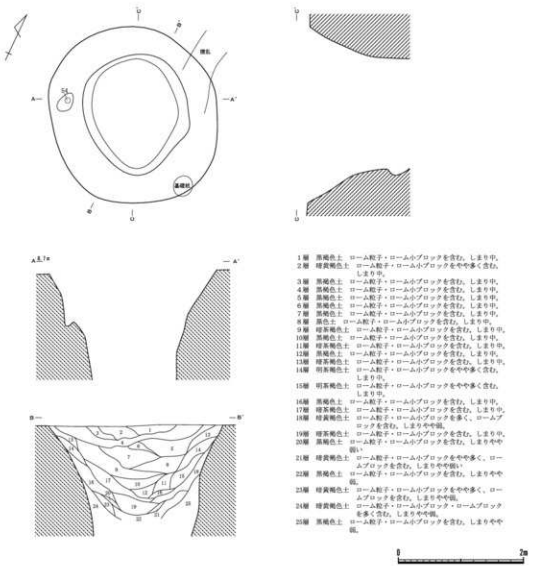
遺　　構（第59図）

［位　　置］（Ａ・Ｂ－１・２）グリッド。

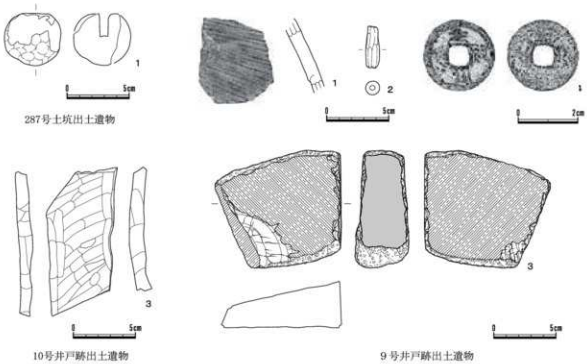
［検出状況］調査区西端からの検出。開口部東側をバックホーや既存建物の基礎杭に撹乱される。

［構　　造］**平面形：**楕円形。**規模：**1.85×1.65m。／開口部2.85×2.65m。危険を伴うため、深さ180㎝までのみの精査で終了した。開口部は漏斗状に大きく広がり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。**長軸方位：**Ｎ－42°－Ｗ。

［遺　　物］陶器３点と鉄滓（スラッグ）１点が出土した。陶器のうち第60図３は砥石に転用されている。



第 59 図　10 号井戸跡（1／60）



第 60 図　土坑・井戸跡出土遺物（1／3・4／5）

［時　　期］近世か（18世紀代）。

遺　　物（第60図3、図版27－1－1～4、第22表）

［陶　　器］（図版27－1－1・2、第22表）

1・2は陶器である。

［転用製品］（第60図3）

3は常滑の甕であるが、砥石として転用された製品である。長さ10.4㎝・幅5.1㎝・厚さ1.1㎝・重さ98.5ｇ。甕の２側面（断面）と表面に使用が確認できる。裏面に使用痕はなし。

［そ の 他］（図版27－1－4）

鉄滓（スラッグ）である。大きな塊で、縦9.5㎝・横11.8㎝・厚さ6.8㎝・重さ492ｇ。

（3）溝　跡

15号溝跡

遺　　構（第61図）

［位　　置］（Ｅ－１）グリッド。

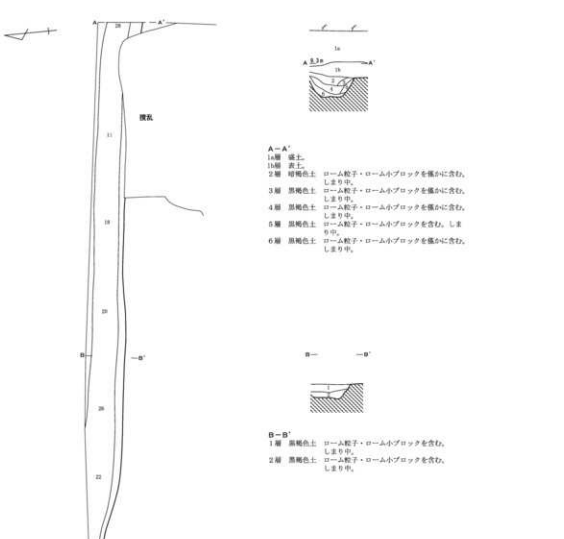
［検出状況］調査区北東端部、ほぼ調査区北面に沿って検出。北側の上端は完全に検出できていない。

［構　　造］**規模：**検出長9.1m／検出最大上幅68㎝／下幅35～40㎝／深さ18～23㎝。溝底は凹凸で、平坦ではない。断面形は逆台形で壁の立ち上がりは65°前後。**走向方位：**Ｎ－83°－Ｗ。

［遺　　物］須恵器甕形土器１点、板碑小破片１点が出土した。

［時　　期］中世以降。

遺　　物（図版27－2－1・2、第22表）



第 61 図　15 号溝跡（1 ／ 60）

［土　　器］（図版 27 － 2 － 1、第 22 表）

1 は須恵器甕形土器である。東金子製品と思われる。

［板　　碑］（図版 27 － 2 － 2）

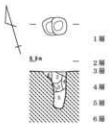
2 は板碑小破片か。高さ 4.9㎝・最大幅 2.4㎝・厚さ 1.0㎝・重さ 22.2 ｇ。石材は緑色片岩。

（4）ピット

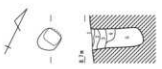
本地点で検出されたピットは全部で 240 本であった。覆土の観察及び出土遺物を検討し、下記のとおり時期比定を行った。

縄文時代：1 本（106 Ｐ）。

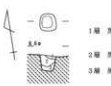
古墳時代：5 本（33・114・115・179・193 Ｐ）。



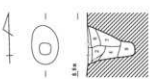
47P（平安）



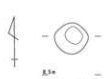
76P（中世）



77P（中世）



114P（古墳）



116P（平安）

179P（古墳）

183P（中世）

193P（古墳）

第62図　ピット（1／60）

第 63 図　183 号ピット出土遺物（4 ／ 5）

平安時代：３本（47・116・167 P）。

中世以降：231 本（1 ～ 32・34 ～ 46・48 ～ 105・107 ～ 113・117 ～ 166・168 ～ 178・180 ～ 192・194 ～ 240 P）。

調査区域内には数多くのピットが存在するが、大部分が中世以降のピットに比定される。さらに今回検出された段切状遺構に関連するものであれば、中世のピットと考えられるであろう。ここでは、すべてのピットについての記述はできなかったが、時代別にまとめてみることにする。基本内容は第21表に示した。

―縄文時代―

106 Pの１本である。検出位置は（Ｅ－２）グリッドで、この位置は段切状遺構の東側上面である。遺物は出土しなかった。

―古墳・平安時代―

古墳時代のピットは５本（33・114・115・179・193 P）、平安時代のピットは３本（47・116・167 P）が該当する。特にまとまって検出される傾向はない。ここでは、47・114・116・179・193 Pの５本を図示した（第62図）。

古墳時代の遺物としては、33・115・193 Pから土師器甕形土器の破片がそれぞれ１点ずつ出土した（図版27－３、第19表）。114・179 Pからは土師器甕形土器の小破片がそれぞれ１点ずつ出土したが図示できなかった。

平安時代の遺物としては、47・116 Pから須恵器坏形土器の口縁部小破片が１点ずつ出土した（図版27－３、第19表）。167 Pからは土師器甕形土器の小破片１点が出土したが図示できなかった。

―中世以降―

240本のうち231本が該当する。ここでは76・77・183Pの３本を図示した。遺物が出土したピットは、76・77・123・183 Pの４本で、遺物の詳細は第22・26表に示した。

76 Pからは、土器（内耳鍋）の小破片１点が出土した（図版27－３－１、第22表）。

77 Pからは、陶器（常滑甕）の小破片１点が出土した（図版27－３－１、第22表）。

123 Pからは、陶器（瀬戸捏鉢）の破片１点が出土した（図版27－３－１、第22表）。

183 Pからは、銭貨２枚が出土した。１は至和通寶（初鋳年1054年）。２は元祐通寶（初鋳年1086年）である（第63図、第26表）。

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
1P	(E−2) G	隅丸方形か	(33)	32	26	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調／270Dを切る	なし	中世以降
2P	(E−2) G	隅丸方形か	(35)	31	65.5	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／270Dを切る	なし	中世以降
3P	(D−2) G	楕円形	41	32	94.5	5層（第58図）／9Wを切る	なし	中世以降
4P	(D−2) G	ほぼ円形	径34	−	85.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む／9Wを切る	なし	中世以降
5P	(D−2) G	隅丸方形か	39	34	39	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／283Dを切る	なし	中世以降
6P	(C・D−1) G	楕円形か	37	(34)	41	2層（第55図）／284Dを切る	なし	中世以降
7P	(D−1) G	隅丸方形	30	30	75	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
8P	(D−2) G	長方形	29	20	51	単層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
9P	(D−2) G	不整方形か	(22)	(25)	49	単層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
10P	(D−2) G	不整円形	41	37	69.5	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調／16Pを切る	なし	中世以降
11P	(D−1・2) G	不整方形	45	36	71	単層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土／17Pを切る	なし	中世以降
12P	(D−1) G	隅丸長方形	27	21	43	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む明褐色土を基調	なし	中世以降
13P	(D−1) G	隅丸長方形	33	23	58	1層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む／285Dを切る	なし	中世以降
14P	(D−1) G	方形	35	34	92.5	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／287Dに切られる	なし	中世以降
15P	(D−1) G	隅丸方形	29	28	56	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む／287Dに切られる	なし	中世以降
16P	(D−2) G	楕円形か	46	(31)	16.5	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む明茶褐色土／10Pに切られ、17Pを切る	なし	中世以降
17P	(D−1・2) G	隅丸方形か	29	(19)	60	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黒褐色土、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調／11・16Pに切られる	なし	中世以降
18P	(D−2) G	隅丸方形	30	27	36	3層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土を基調／290Dに切られる	なし	中世以降
19P	(D−2) G	隅丸方形	34	34	51	2層／1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む／290Dに切られる	なし	中世以降
20P	(D−2) G	楕円形か	(41)	51	23	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む	なし	中世以降
21P	(E−1) G	楕円形	19	15	11.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
22P	(E−1) G	楕円形	35	24	25	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
23P	(E−1) G	長方形	51	29	31	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む黒褐色土、ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
24P	(E−1) G	隅丸方形	29	27	56	3層／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
25P	(E−1) G	楕円形	45	32	76	7層／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
26P	(E−1) G	隅丸方形	25	21	56.5	単層：明褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
27P	(D−2) G	隅丸方形	30	25	75	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／277Dを切る	なし	中世以降
28P	(E−2) G	不整方形	(33)	28	73	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
29P	(E−2) G	不整円形	23	21	13	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
30P	(E−2) G	隅丸方形	22	20	17	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
31P	(E−2) G	円形	30	28	34	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
32P	(E−2) G	楕円形	53	43	25	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
33P	(E−2) G	隅丸方形	24	24	48	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	土師器甕1点	古墳後期（7世紀中葉か）
34P	(E−2) G	長方形	31	20	44	3層／ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
35P	(E−2) G	長方形	35	30	66	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
36P	(E−2) G	楕円形	40	33	46	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒色土を基調／37Pを切る	なし	中世以降
37P	(E−2) G	隅丸方形	42	(34)	48	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／36Pに切られる	なし	中世以降
38P	(E−2) G	隅丸方形	27	24	29	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む黒茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
39P	(E−2) G	隅丸方形	44	38	78	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
40P	(E−2) G	隅丸方形	33	33	74	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
41P	(E−1) G	隅丸方形か	−	−	26	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
42P	(E−2) G	不明	−	20	21	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降

第21表　ピット一覧（1）

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
43 P	(E－2) G	隅丸方形	31	29	54	1 層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む／2 層：黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
44 P	(E－2) G	隅丸長方形	45	34	51	3 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調／45P を切る	なし	中世以降
45 P	(E－2) G	長方形か	(22)	26	22	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／44P に切られる	なし	中世以降
46 P	(E－2) G	不整方形	43	35	59	4 層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
47 P	(E－2) G	長方形	37	28	深 60 浅 9.5	6 層（第 62 図）	須恵器坏 1 点	平安 （9 世紀後葉）
48 P	(E－1) G	隅丸方形	33	33	63	4 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
49 P	(E－1) G	隅丸長方形	37	28	17	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
50 P	(D－1) G	隅丸方形	28	24	35	3 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
51 P	(E－1) G	ほぼ円形	25	25	16	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
52 P	(D－1) G	隅丸方形	33	28	71.5	4 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
53 P	(E－2) G	隅丸方形	22	20	20	単層：明褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
54 P	(D－1) G	隅丸方形	35	32	74	4 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒色土を基調／55P に切られる	なし	中世以降
55 P	(D－1) G	隅丸方形	31	28	55	5 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む黒褐色土。ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒色土を基調／54P を切る	なし	中世以降
56 P	(E－1) G	隅丸方形	31	28	30	3 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色を基調	なし	中世以降
57 P	(E－1) G	長方形	33	26	47	4 層／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒色土を基調	なし	中世以降
58 P	(D－1) G	隅丸長方形	51	40	20	3 層／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
59 P	(D－1) G	楕円形	38	28	12	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／60P を切る	なし	中世以降
60 P	(D－1) G	ほぼ円形	径 48	－	68	3 層／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土を基調／59P に切られる	なし	中世以降
61 P	(D－1) G	隅丸方形	25	25	14	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
62 P	(D－1) G	隅丸長方形	41	29	58	5 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
63 P	(D－1) G	隅丸長方形	21	17	13	単層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
64 P	(D－1) G	不整方形	56	42	92	10 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調。壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む黄褐色土を基調／65P を切る	なし	中世以降
65 P	(D－1) G	隅丸長方形か	(26)	21	15	3 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土を基調／64P に切られる	なし	中世以降
66 P	(D－2) G	隅丸方形	20	20	13.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
67 P	(D－2) G	楕円形か	32	22	58	4 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む暗茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土	なし	中世以降
68 P	(D－2) G	楕円形	27	22	16.5	1 層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む／2 層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
69 P	(D－2) G	隅丸三角形	36	20	15.5	1 層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
70 P	(D－2) G	隅丸方形	37	33	61	5 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土を基調。壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
71 P	(D－1) G	隅丸方形	31	28	55	5 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調。壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
72 P	(D－2) G	隅丸方形	42	37	63	単層：上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／73P を切る	なし	中世以降
73 P	(D－2) G	不整方形	28	23	29	1 層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2 層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む／72P に切られる	なし	中世以降
74 P	(D－2) G	隅丸方形	28	28	47	3 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
75 P	(D－2) G	不整方形	25	20	19	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
76 P	(D－2) G	不整方形	38	31	85	5 層（第 62 図）	土師（坩堝）1 点	中世 （14 世紀か）
77 P	(D－2) G	隅丸方形	27	25	26	3 層（第 62 図）／78P を切る	陶器（常滑甕）1 点	中世 （14 世紀か）
78 P	(D－2) G	隅丸方形	30	(26)	51	3 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／77P に切られる	なし	中世以降
79 P	(D－2) G	不整方形	42	38	51	4 層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
82 P	(D－2) G	隅丸方形	30	30	31	単層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
83 P	(C－2) G	楕円形	43	32	36	4 層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／84P を切る	なし	中世以降

第21表　ピット一覧（2）

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
84 P	（C－2）G	隅丸長方形	33	(18)	30.5	3層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／83Pに切られる	なし	中世以降
85 P	（C－2）G	隅丸方形	23	22	17.5	単層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む／86Pを切る	なし	中世以降
86 P	（C－2）G	隅丸方形	28	(25)	34	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む／85Pに切られる	なし	中世以降
87 P	（C－2）G	隅丸方形	30	28	17	単層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
88 P	（C－2）G	隅丸方形	29	27	39.5	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む／2層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／89Pを切る	なし	中世以降
89 P	（C－2）G	隅丸方形	27	27	53.5	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／88Pに切られる	なし	中世以降
90 P	（C－2）G	不整円形	33	27	50	3層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
91 P	（C－2）G	楕円形	30	26	28	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・を含む／2層：黒色土ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
92 P	（D－2）G	隅丸方形	25	25	61.5	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗黄褐色、上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
93 P	（D－1）G	隅丸方形	23	21	33.5	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
94 P	（D－1）G	楕円形底部は方形	71	69	92	8層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
95 P	（D－1）G	隅丸方形	52	50	79	7層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
96 P	（D－2）G	不整方形	23	20	24.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
97 P	（D－1）G	隅丸方形か	－	25	47	単層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
98 P	（D－2）G	隅丸方形	38	34	66	8層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
99 P	（C－1）G	隅丸長方形	36	30	85.5	5層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む；黒褐色土を基調	なし	中世以降
100 P	（C－1）G	不整方形	37	35	52.5	8層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
101 P	（C・D－1）G	隅丸方形	50	47	95	6層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
102 P	（D－1）G	不整円形	(27)	29	36.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子をやや多く含みローム小ブロック・炭化物粒子を含み焼土粒子を僅かに含む	なし	中世以降
103 P	（D－1）G	隅丸方形	34	31	52	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
104 P	（D－2）G	ほぼ円形	34	31	22	5層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
105 P	（D－1・2）G	楕円形	43	33	63.5	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
106 P	（D－1）G	楕円形	45	28	22.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	縄文時代
107 P	（E－2）G	不整長方形	46	37	37	7層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調／106Pを切る	なし	中世以降
108 P	（E－2）G	隅丸方形か	21	(11)	19	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む／107Pに切られる	なし	中世以降
109 P	（E－1・2）G	楕円形	35	27	38	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
110 P	（E－1）G	楕円形	45	36	66	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
111 P	（B－2）G	長方形	21	18	32	単層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
112 P	（C－2）G	方形・重複	深28残(31)	深24残27	深73残58	5層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
113 P	（C－2）G	隅丸方形	25	25	43.5	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む	なし	中世以降
114 P	（C－2）G	楕円形	52	42	77	8層（第62図）	土師器甕小破片1点／図示できなかった	古墳後期（6世紀か）
115 P	（C－2）G	隅丸方形	35	31	28.5	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	土師器甕1点	古墳後期（7世紀代）
116 P	（C－2）G	不整円形	54	50	59	8層（第62図）	須恵器坏1点	平安（9世紀後葉か）
117 P	（B－2）G	隅丸方形	27	24	30.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
120 P	（C－2）G	隅丸方形	28	28	36.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをややや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
121 P	（C－2）G	不整長方形	41	34	27.5	4層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調／122Pを切る	なし	中世以降
122 P	（C－2）G	隅丸方形	30	25	78	6層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調／121に切られる	なし	中世以降
123 P	（C－2）G	隅丸方形	20	20	30	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含み炭化物粒子を僅かに含む	陶器（常滑甕）1点	中世（14世紀か）

第21表　ピット一覧（3）

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
124 P	（C－2）G	不整方形	40	38	22	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含み炭を微量に含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐褐色土を基調	なし	中世以降
125 P	（C－2）G	長方形	31	25	42	3層／ローム粒子をやや多く含みローム小ブロックを含む暗褐褐色を基調／126Pを切る	なし	中世以降
126 P	（C－2）G	長方形か	31	28	70	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗褐褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調／125Pに切られる	なし	中世以降
127 P	（C－2）G	楕円形	42	37	51	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む暗褐褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
128 P	（C－2）G	隅丸方形	24	24	53	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
129 P	（C－2）G	長方形	41	35	59	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
130 P	（C－2）G	隅丸方形	31	(25)	72.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含み焼土粒子を僅かに含む	なし	中世以降
131 P	（C－2）G	長方形	32	24	72	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
132 P	（C－2）G	楕円形	59	46	60	4層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
133 P	（C－2）G	隅丸方形	23	(22)	39	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
134 P	（C－2）G	隅丸二角形	33	29	55	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土　を基調	なし	中世以降
135 P	（C－2）G	隅丸方形	23	22	24.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
136 P	（C－2）G	長方形	38	33	40	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調／137Pを切る	なし	中世以降
137 P	（C－2）G	隅丸方形	43	43	82	8層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗褐褐色土を基調／136Pに切られる	なし	中世以降
138 P	（C－2）G	長方形	45	24	40	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗褐褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
139 P	（C－2）G	長方形	30	22	32	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／3層：暗褐褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
140 P	（B・C－2）G	隅丸方形	25	24	57	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
141 P	（C－2）G	長方形	30	25	50.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを含む	なし	中世以降
142 P	（C－2）G	隅丸方形	28	28	71	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロック・炭化材を僅かに含む	なし	中世以降
143 P	（C－2）G	隅丸方形	27	27	53.5	3層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐褐色土を基調	なし	中世以降
144 P	（C－2）G	不整方形	(29)	28	42	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みローム小ブロックを僅かに含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
145 P	（C－2）G	隅丸方形	35	33	57.5	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土とローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗褐褐色土が互層	なし	中世以降
146 P	（C－2）G	楕円形	60	52	66	7層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗褐褐色土を基調	なし	中世以降
147 P	（C－2）G	隅丸方形	25	25	43	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
148 P	（C－2）G	長方形	28	22	61	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む	なし	中世以降
149 P	（C－2）G	隅丸方形	31	28	66	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを僅かに含む明茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
150 P	（C－2）G	隅丸方形	22	22	44	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
151 P	（C－2）G	方形	22	(15)	35	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
152 P	（C－2）G	楕円形	27	18	18.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む	なし	中世以降
153 P	（C－2）G	隅丸長方形	(20)	20	13.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
154 P	（C－2）G	隅丸長方形か	(22)	22	16	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
155 P	（C－2）G	不整方形	23	17	22	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む	なし	中世以降
156 P	（C－2）G	楕円形	50	29	31.5	3層／ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗褐褐色土を基調	なし	中世以降
157 P	（C－1）G	不整方形	33	31	33	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・を含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
158 P	（C－1）G	隅丸方形	30	30	47.5	5層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みローム小ブロックを含む暗褐褐色土を基調	なし	中世以降
159 P	（B－2）G	楕円形	35	28	29.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
160 P	（B－2）G	長方形	25	22	26	単層：黒色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
161 P	（B－2）G	隅丸方形	34	27	60	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
162 P	（C－2）G	楕円形	23	16	19.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
163 P	（C－2）G	不整円形	26	24	14.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
164 P	（C－2）G	不整円形	29	19	19	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降
165 P	（C－2）G	隅丸方形	25	22	23.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム小ブロックを僅かに含む	なし	中世以降

第21表　ピット一覧（4）

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
166 P	（C－2）G	隅丸方形	33	30	64	6層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
167 P	（C－2）G	不整方形	22	21	21	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	土師器甕小破片1点／図示できなかった	平安時代か
168 P	（C－2）G	隅丸長方形	33	29	12	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
169 P	（C－2）G	楕円形	23	21	27.5	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む／170Pに切られる	なし	中世以降
170 P	（C－2）G	隅丸方形	26	23	26	3層／ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土を基調／169Pを切る	なし	中世以降
171 P	（C－1）G	隅丸方形	24	22	15.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
172 P	（C－2）G	不整長方形	29	20	27.5	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
173 P	（C－1）G	楕円形	40	32	33	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
174 P	（C－2）G	隅丸方形	28	24	48	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
175 P	（C－1）G	隅丸長方形	43	40	84	7層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黒褐色土、下層：5～6層子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
176 P	（C－1）G	隅丸方形	29	27	44	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・をやや多く含みロームブロックを含む暗黒褐色土、下層：ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
177 P	（C－1）G	不整方形	40	34	64.5	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを僅かに含む暗黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	なし	中世以降
178 P	（C－1）G	楕円形	31	27	35	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
179 P	（C－1）G	隅丸長方形	39	34	44.5	4層（第62図）	土師器甕小破片1点／図示できなかった	古墳後期（6世紀か）
180 P	（C－1）G	楕円形底部は方形	73	67	86	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む暗茶褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
181 P	（C－1）G	楕円形か	24	（21）	35	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
182 P	（C－1）G	楕円形	51	41	79.5	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土を基調／189を切る	なし	中世以降
183 P	（C－1）G	楕円形底部は方形	72	68	92.5	8層（第62図）	銅銭2点（至和通寶1点／元祐通寶1点）	中世
184 P	（C－1）G	隅丸方形	29	27	77	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
185 P	（C－1）G	隅丸方形	24	22	37	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
186 P	（C－1）G	隅丸方形	32	30	72	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みローム ブロックを僅かに含む暗黒褐色土を基調／303Dを切る	なし	中世以降
187 P	（C－1）G	長方形か	－	21	38	1層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む／2層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む	なし	中世以降
188 P	（C－1）G	隅丸方形	34	33	49.5	7層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
189 P	（C－1）G	隅丸方形か	39	35	72	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗茶褐色土を基調／182Pに切られる	なし	中世以降
190 P	（C－2）G	隅丸方形	33	29	33	1層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む／2層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む	なし	中世以降
191 P	（C－2）G	円形	26	26	15.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む	なし	中世以降
192 P	（C－1）G	隅丸方形	25	25	41	1層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土を基調、壁際はローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
193 P	（C－1）G	楕円形	38	31	55.5	3層（第62図）	土師器甕1点	古墳後期（6世紀代）
194 P	（C－1）G	隅丸方形	32	28	33	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
195 P	（C－1）G	隅丸方形	24	24	58.5	4層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
196 P	（C－1）G	隅丸長方形	32	25	26	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・を含む	なし	中世以降
197 P	（C－1）G	隅丸方形	26	26	31.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む暗黒褐色土、下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
198 P	（C－1）G	方形	28	26	50.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む	なし	中世以降
199 P	（C－1）G	方形	（26）	25	14	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
200 P	（C－1）G	楕円形	29	24	20	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
201 P	（C－1）G	不整方形	29	29	68	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
202 P	（C－1）G	不整方形	23	23	53.5	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む	なし	中世以降
203 P	（C－1）G	楕円形	53	32	42	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロック炭化物粒子・炭化材を僅かに含む	なし	中世以降

第21表　ピット一覧（5）

遺構名	位　置	平面形	規模（cm）			覆　土	主な遺物及び備考	時　期
			長軸	短軸	深さ			
204 P	（C－1）G	不整方形	(36)	(31)	83	6層／ローム粒子・ローム小ブロックロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／205P を切る	なし	中世以降
205 P	（C－1）G	隅丸方形	(28)	(20)	70.5	4層／ローム粒子・ローム小ブロック・を多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調／204P を切る	なし	中世以降
206 P	（C－1）G	隅丸方形	27	25	46.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
207 P	（C－1）G	長方形	30	21	71	単層：暗茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
208 P	（C－1）G	長方形	(40)	36	63.5	8層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調。壁際はローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
209 P	（C－1）G	長方形か	(27)	(22)	34	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む明茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土を基調／210P を切る	なし	中世以降
210 P	（C－1）G	長方形	25	19	50	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調／209P に切られる	なし	中世以降
211 P	（C－1）G	長方形	28	25	50	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
212 P	（C－1）G	不整方形	20	16	10.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
213 P	（C－1）G	不整方形	47	35	55.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む明茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
214 P	（C－1）G	楕円形	33	27	49.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒色土を基調	なし	中世以降
215 P	（C－1）G	楕円形か	(22)	21	33	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
216 P	（C－1）G	隅丸方形	(22)	24	56.5	6層／上層：ローム粒子ローム小ブロックを多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
217 P	（C－1）G	円形	29	26	66	6層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
218 P	（B－2）G	不整方形	55	55	53	7層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
219 P	（B－2）G	円形	39	38	54	5層／ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックをやや多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
220 P	（B－2）G	楕円形	23	18	15.5	単層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
221 P	（B－2）G	楕円形	28	24	29.5	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土を基調	なし	中世以降
222 P	（B－2）G	楕円形	34	29	34	5層／暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土を基調／223P を切る	なし	中世以降
223 P	（B－2）G	長方形	56	34	25.5	1層：暗黄褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを多く含みロームブロックを僅かに含む／2層：明茶褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含みロームブロックを僅かに含む／222P に切られる	なし	中世以降
224 P	（B－2）G	隅丸方形	25	22	56	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く含む明茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
225 P	（B－2）G	円形	径27		22.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
226 P	（B－2）G	隅丸方形	24	23	22	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
227 P	（C－2）G	不整方形	24	20	28.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
228 P	（C－1）G	隅丸方形	32	30	19.5	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
229 P	（B－2）G	楕円形	26	20	23.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
230 P	（B－1）G	楕円形	50	42	28	3層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを含みロームブロックを僅かに含む黒褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調	なし	中世以降
231 P	（B－1）G	楕円形か	32	22	15	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
232 P	（B－1）G	不整方形	45	40	54	5層／上層：ローム粒子を多くローム小ブロックを含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
233 P	（B－1）G	隅丸方形	31	28	65.5	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックをやや多く、ロームブロックを含む	なし	中世以降
234 P	（B－1）G	不整方形	25	22	88	4層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロクを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
235 P	（B－1）G	楕円形	32	26	79.5	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む明茶褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
236 P	（B－1）G	楕円形	22	21	76	単層：黒褐色土　ローム粒子・ローム小ブロックを含む	なし	中世以降
237 P	（B－2）G	隅丸方形	(22)	(22)	47	5層／上層：ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土。下層：ローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	なし	中世以降
238 P	（C－1）G	楕円形	55	45	75	10層／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／239P を切る	なし	中世以降
239 P	（C－1）G	楕円形か	42	37	61	7層／ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く含む暗黄褐色土を基調／238P に切られる	なし	中世以降
240 P	（B－1）G	円形	33	31	38	3層／ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	なし	中世以降

第21表　ピット一覧（6）

挿図番号 図版番号	遺構名	種　別	器　種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時　期
図版 26-3-1	295 D	磁器	皿	厚0.3	青磁口縁部小破片／釉薬の色調は深緑色／胎土の色調は灰色／胎土は精緻されている／内面に草花文	中国 (同安窯か)	中世 (12 世紀末か)
図版 26-3-1	299 D	陶器	擂り鉢か 壷か	高[4.8]	体部中位～底部破片／平底／内面及び外面体部中位に白濁釉／胎土の色調は淡黄色／胎土に石英・砂粒を含む	瀬戸	近世 (18 世紀後半～ 19 世紀前半)
図版 26-3-2	299 D	陶器	甕	高[8.0]	口縁部～胴部上半破片／折り返し口縁／外面に鉄釉／胎土の色調は暗茶褐色／胎土に石英・砂粒・小石を多く含む	常滑	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-3	299 D	陶器	甕	厚1.4	頸部破片／色調は灰色／胎土に白色砂粒を僅かに含む／内面口縁部直下に指頭による成形痕が残り、指紋が観察できる	常滑	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-4	299 D	陶器	甕	高[7.8]	頸部～胴部上半破片／外面に自然釉／胎土の色調は灰褐色／胎土に砂粒・小石を含む	常滑	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-5	299 D	陶器	甕	厚1.3	胴部上半破片／外面に自然釉／胎土の色調は淡茶褐色／胎土に白色砂粒をやや多く含む	常滑	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-6	299 D	陶器	甕	高[5.8]	胴部下半～底部破片／平底／色調は暗橙色を基調／胎土に石英・砂粒・小石をやや多く含む	常滑	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-7	299 D	土器	捏鉢	高[9.6]	口縁部～体部下半破片／口縁部は肥厚／器形は直線的に外傾する／色調は表面が黒褐色、胎土は灰色／胎土に石英・砂粒を含む／ロクロ成形	在地系	中世 (14 世紀後半)
図版 26-3-1	310 D	陶器	甕	厚0.9	胴部破片／外面に鉄釉／胎土の色調は暗橙色／胎土に白色砂粒・小石を含む／内面：ナデられるが当て道具痕が僅かに残る／外面はナデ	常滑	近世 (17 世紀か)
第 60 図 1 図版 27-1-1	9W	須恵器	甕	厚1.2	胴部破片／表面は還元により灰色を呈するが、胎土の色調は淡茶褐色／胎土に白色砂粒を含み、白色針状物質を僅かに含む／内面：ナデ／外面：平行叩き目が残る	鳩山製品	平安時代 (9 世紀か)
図版 27-1-1	10W	陶器	鉢	厚0.5	端反形／体部破片／内外面に灰釉／胎土の色調は淡黄褐色／胎土に白色砂粒を含む／ロクロ成形	瀬戸	近世 (18 世紀代)
図版 27-1-2	10W	陶器	甕	厚1.0	胴部上半破片／外面に鉄釉／胎土の色調は灰色／胎土に砂粒・小石をやや多く含む／内面：指頭によるナデが施され、指紋が残る／外面は格子状タタキ後ナデ／外面に自然釉がかかっている	常滑	中世 (14 世紀か)
図版 27-2-1	15 M	須恵器	甕	厚1.2	胴部破片／胎土の色調は青灰色／胎土に白色砂粒を含む／外面に自然釉がかかっている／内外面：ナデ	東金子製品か	平安時代 (9 世紀か)
図版 27-3-1	76 P	土器	内耳鍋	厚1.2	口縁部～体部小破片／口縁部は内湾する／内外面黒色／胎土の色調は灰色	在地系	中世 (14 世紀か)
図版 27-3-1	77 P	陶器	甕	厚0.9	胴部小破片／外面に鉄釉／色調は暗茶褐色／胎土に石英・白色砂粒を含む	常滑	中世 (14 世紀か)
図版 27-3-1	123 P	陶器	捏鉢か	高[4.0] 厚1.0	口縁部～頸部破片／口唇端部に沈線がまわる／色調は灰白色／胎土に石英・砂粒をやや多く含むれる	瀬戸か	中世 (14 世紀か)

第 22 表　中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧

第６節　遺構外出土遺物

ここでは、表土や撹乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時期の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。さらに今回は、段切状遺構内において検出される遺構以外で出土した遺物についても遺構外出土遺物と扱ったが、特に平安時代～中世以降の遺物については、多分に段切状遺構に伴う遺物であるかもしれない。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の石器、縄文時代の土器、古墳時代後期・平安時代の遺物、中世以降の遺物に分類する。

（１）縄文時代の石器（第64図１～５、図版28－１～５、第23表）

１は線条痕を有する礫、２・３は打製石斧、４は敲石、５は石皿である。

（２）縄文時代の土器（第64・65図６～37、図版28－６～37、第24表）

［土　　器］（第64・65図６～37、図版28－６～37、第24表）

６～11は縄文系土器、12～14は花積下層式土器、15・16は関山式土器、17～20は羽状縄文系土器、21・22諸磯Ｃ式土器、23は五領ヶ台式土器、24～34は加曽利Ｅ式土器、35は称名寺式土器、36は堀之内式土器、37は後期後半から晩期前半の土器である。

（３）古墳時代後期・平安時代の遺物（第65図40・41、図版28－38～47、第25表）

［土　　器］（第65図40・41、図版28－38～46、第25表）

38～40は古墳時代後期の土師器で、38は土師器坏形土器、39・40は土師器甕形土器である。

41～46は古墳時代後期～平安時代の須恵器甕形土器である。

［土 製 品］（第65図47、図版28－47）

47は土錘である。長さ4.0㎝・最大径1.2㎝・重さ4.7ｇ。長軸中央には径0.3㎝の円形の孔が穿たれている。表面はヘラ磨きであろうか、僅かに光沢をもつ。ほぼ完形品である。（Ｄ－１）グリッドからの出土である。

（４）中世以降の遺物（第65図49・50、図版28－48～50、第26表）

［陶　　器］（図版28－48）

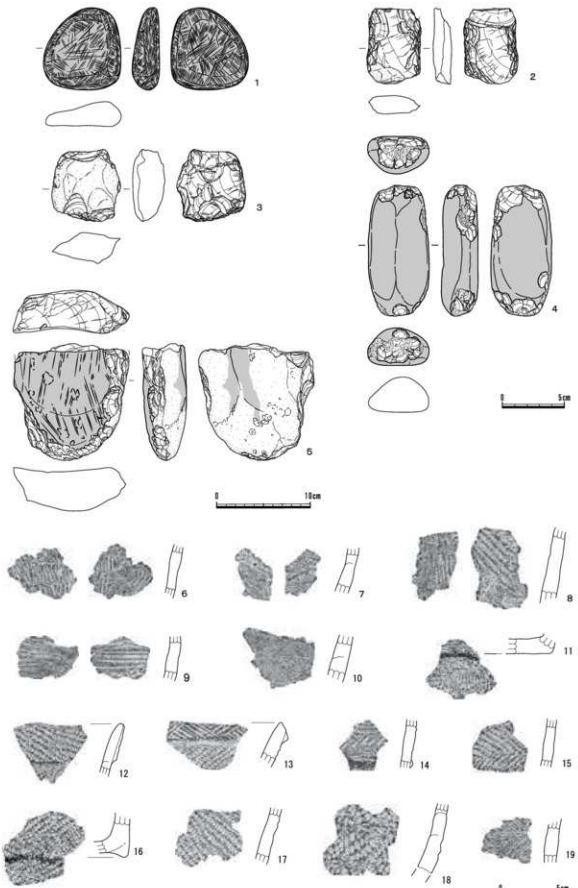
48は常滑甕の胴部破片か。色調は淡橙色を基調とし、胎土には石英・白色砂粒を含む。時期は近世。（Ｅ－２）グリッドからの出土である。

［鉄 製 品］（第65図49、図版28－49）

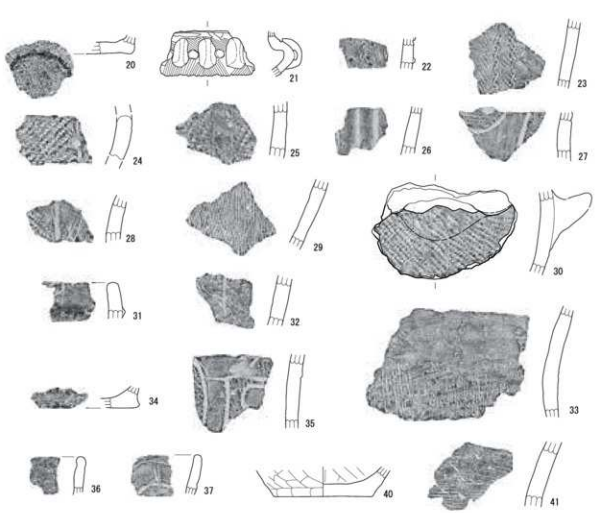
49は火打金か。長さ5.8㎝・幅2.1㎝・厚さ0.4㎝・重さ9.2ｇ両端付近に楕円形の孔が開いている。（Ｅ－２）グリッドからの出土である。

［銭　　貨］（第65図50、図版28－50、第26表）

50は銅銭で、元豊通寶である。（Ｄ－３）グリッドからの出土である。



第 64 図　遺構外出土遺物１（１／３・１／４）



第 65 図　遺構外出土遺物（1／3・4／5）

掲図番号 図版番号	出土位置	器　種	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴
第 64 図 1 図版 28-1	299D	線条痕を有する礫	ホルンフェルス	65.4	61.6	21.9	117.2	完形／全面に多方向の線条痕が認められる／裏面中央に溝が窄いものが多い
第 64 図 2 図版 28-2	10W	打製石斧	砂岩	60.0	43.2	14.7	49.6	上半部及び刃部の一部を欠損／短冊形／表面の刃部付近に原礫面が残存
第 64 図 3 図版 28-3	299D	打製石斧	ホルンフェルス	57.3	54.8	25.5	95.0	完形／短冊形の小型の打製石斧／表面に原礫面を広く残す
第 64 図 4 図版 28-4	10W	敲石	閃緑岩	104.0	48.6	29.4	234.9	完形／全面に磨痕／上下面・右面上部・左面下部に剥離を伴う粗い敲打痕が認められる
第 64 図 5 図版 28-5	10W	石皿	片岩	123.4	122.3	46.9	1043.1	掘出し部の一部が残存／表面は使用による磨滅が認められる／裏面に原礫面あり／縁辺は剥離によって成形されている

第 23 表　遺構外出土石器一覧

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第64図6 図版28-6	299D	深鉢	胴部 破片	厚0.7	直線的に外傾	内外面縦方向に条痕文	灰黄褐／砂粒・繊維微量、白色粒子少量	早期後葉 条痕文系下吉井式か
第64図7 図版28-7	33P	深鉢	胴部下位 破片	厚0.8	破片下位は1.1cmと厚手／僅かに内湾	外面右下がり、内面左下がりの条痕文	にぶい褐／砂粒・繊維・白色針状物質中量	早期後葉 条痕文系下吉井式か
第64図8 図版28-8	288D	深鉢	胴部 破片	厚1.0		外面は縦方向、内面は左上がりに条痕文	にぶい黄褐／砂粒多量、繊維微量	早期後葉 条痕文系
第64図9 図版28-9	130P	深鉢	胴部 破片	厚0.9		内外面横方向に条痕文	明赤褐／砂粒・礫微量、繊維少量	早期後葉 条痕文系
第64図10 図版28-10	(E－2) G	深鉢	胴部 破片	厚1.2		外面無文／内面僅かに条痕文が確認できるか	にぶい褐／砂粒・繊維・白色針状物質中量	早期後葉 条痕文系
第64図11 図版28-11	9W	深鉢	底部 破片	厚1.2	平底	側面・底面に条痕文	にぶい黄橙／砂粒微量、繊維多量	早期後葉 条痕文系
第64図12 図版28-12	288D	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	複合口縁／外傾する	肥厚部は単節RL横位施文／肥厚部直下は単節RL縦位施文	明黄褐／砂粒・繊維微量	前期前葉 花積下層式
第64図13 図版28-13	82H	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	複合口縁／外傾する	口縁部には鋸歯縄文が右から左へ施文／地文単節RL縦位施文	にぶい黄橙／砂粒微量、繊維少量	前期前葉 花積下層式
第64図14 図版28-14	315D	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに外反	破片下端に隆帯貼付／1段の縄Lの側面圧痕	にぶい黄橙／砂粒・礫微量、繊維多量繊維少量	前期前葉 花積下層式
第64図15 図版28-15	82H	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに膨らむ胴部	単節RLの縦位・横位施文による羽状縄文	明黄褐／砂粒・礫少量、繊維微量	前期前葉 関山式
第64図16 図版28-16	9W	深鉢	底部 破片	厚1.2	上げ底状を呈する	単節RL・LR横位施文による羽状縄文／底部に縄文施文	黄橙／砂粒微量、繊維中量	前期前葉 関山式
第64図17 図版28-17	10W	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに外反する胴部	節の粗い単節RL横位施文	褐／砂粒・繊維少量	前期前葉 羽状縄文系
第64図18 図版28-18	(E－2) G	深鉢	胴部 破片	厚		節の粗い単節LRの横位・縦位施文による羽状縄文	にぶい黄橙／砂粒・礫微量、繊維多量	前期前葉 羽状縄文系
第64図19 図版28-19	(C－2) G	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外反する	無節R・L横位施文による羽状縄文／閉塞部結束か	褐／砂粒・繊維多量	前期前葉 羽状縄文系
第65図20 図版28-20	15M	深鉢	底部 破片	厚0.9	平底	底部に敷物圧痕か	黄橙／砂粒・礫・繊維微量	前期前葉 羽状縄文系
第65図21 図版28-21	82H	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	口縁部強く内湾／口唇部直立	櫛歯状工具による斜行する条線地文／短い棒状貼付文・円形貼付文が交互に施される	暗褐／砂粒・礫中量	前期後葉 諸磯C式
第65図22 図版28-22	270D	深鉢	胴部 破片	厚0.8		地文は条線／竹管状工具による刺突文	黒褐／砂粒・礫多量	前期後葉 諸磯C式

第24表　遺構外出土縄文土器一覧（1）

挿図番号 図版番号	出土遺構 出土位置	器種 種別	部位 遺存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式
第65図23 図版28-23	9W	深鉢	胴部 破片	厚0.8	ほぼ垂直に立ち上がるか	結束が施された単節ＬＲ縄位施文／内面横方向のミガキ顕著	黒褐／砂粒・礫多量	中期初頭 五領ヶ台式
第65図24 図版28-24	10W	深鉢	胴部 破片	厚1.1	やや内湾する	単節ＲＬ縄位施文／沈線が垂下／沈線脇は地文磨り消し	にぶい黄橙／砂粒・礫中量	中期後葉 加曽利Ｅ３式
第65図25 図版28-25	311D	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外傾する胴部	地文は単節RLを縄位ないし横位施文／細く浅い沈線２本垂下／沈線間は磨消	にぶい赤褐／砂粒少量	中期後葉 加曽利E3式
第65図26 図版28-26	301D	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外傾する	地文は不明／太く浅い沈線が３本垂下／沈線間は磨消し	褐色／砂粒・礫微量	中期後葉 加曽利E3式
第65図27 図版28-27	311D	深鉢	胴部中位 破片	厚1.1	やや外反する	地文は単節RL縄位施文／沈線２本垂下／沈線間磨消し	にぶい黄橙／砂粒・礫少量	加曽利E3式
第65図28 図版28-28	288D	深鉢	胴部 破片	厚1.0	わずかに外反する胴部	太く深い沈線による区画文／区画文内に単節LR充填縄文	にぶい黄橙／砂粒・礫少量	中期後葉 加曽利E3～4式
第65図29 図版28-29	287D	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外傾する胴部	地文は縦方向の条線	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	中期後葉 加曽利E4式
第65図30 図版28-30	299D	両耳壺	口縁下位～胴部上位 破片	厚1.1	内湾する胴部上位／口縁部	口縁部無文／体部は単節LR縄位施文	明黄褐／砂粒・礫少量	中期後葉 加曽利E4式
第65図31 図版28-31	10W	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	直立する口縁部	口縁部下端に隆起線	にぶい黄橙／砂粒・礫微量	加曽利E4式
第65図32 図版28-32	299D	深鉢	胴部 破片	厚1.1	わずかに内湾	地文は不明／浅い沈線が２本垂下	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	中期後葉 加曽利E式
第65図33 図版28-33	10W	深鉢	口縁下位～胴部上位 破片	厚1.1	直立する胴部／広がる頸部	無文の頸部／胴部には縦方向の条線	にぶい黄褐／砂粒・礫中量	中期後葉 加曽利E式
第65図34 図版28-34	10W	深鉢	底部 破片	厚0.8	平底／広がりながら立ち上がる胴部	無文	にぶい橙／砂粒中量、礫少量	中期後葉 加曽利E式か
第65図35 図版28-35	10W	深鉢	胴部中位 破片	厚1.2	やや外反する	太く深い沈線による区画文／区画内は単節LR充填縄文	にぶい黄橙／砂粒・礫中量	後期初頭 称名寺式
第65図36 図版28-36	288D	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	外傾する口縁部	地文LR縄位施文／細い沈線が斜位に施文／口唇部内面に太い沈線／	明褐／砂粒・礫・雲母末微量	後期前半 堀之内式
第65図37 図版28-37	285D	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	外傾する口縁部	２本の沈線による弧線文／上位の弧線から沈線が垂下し、下位の弧線に合流	にぶい黄橙／砂粒中量	後期後半～晩期前半

第24表　遺構外出土縄文土器一覧（2）

挿図番号 図版番号	器　種	法量 (cm)	特　徴	色　調	胎　土	成形及び調整	遺存度	出土位置	時　期
図版28-38	土師器 坏	厚0.4	口縁部は内湾気味に外傾する／口縁部内外面赤彩／赤色有段坏	胎土は淡黄褐色	砂粒小石を含む	内外面：横ナデ	口縁部小破片	１Ｐ	古墳後期 (６世紀代か)
図版28-39	土師器 甕	厚0.6	長甕か／在地系土師器	暗茶色	砂粒を含む	内外面：ヘラナデ	胴部小破片	１Ｐ	古墳後期 (７世紀か)
第65図40 図版28-40	土師器 甕	高[2.4] 底(7.8)	長甕／平底／底部に木葉痕あり／在地系土師器	明橙色	砂粒をやや多く、石英・角閃石を含む	内面：ヘラナデ／外面：ヘラ削り	胴部下半～底部40％	10W	古墳後期 (７世紀中葉か)
第65図41 図版28-41	須恵器 甕	厚1.2	頸部は外反する／産地不明	青灰色	白色砂粒・小石を含む	ロクロ成形／外面：カキ目痕か	頸部破片	299D	古墳後期 (７世紀か)
図版28-42	須恵器 甕	－	外面に自然釉がかかる／産地不明	灰白色	黒色粒子・砂粒を含む	内面：回転ナデ	胴部上半破片	10W	古墳後期 ～平安
図版28-43	須恵器 甕	－	胴部は膨らみをもつ／東金子製品か	灰色	石英・白色砂粒を含む	ロクロ成形	頸部破片	299D	平安 (９世紀か)
図版28-44	須恵器 甕	厚1.2	底部中央はやや窪んでいる／東金子製品か	灰色	白色砂粒を含む	底部内面に指頭押捺痕が残る	底部破片	299D	平安 (９世紀か)
図版28-45	須恵器 坏	高[1.2]	平底／産地不明	灰白色	砂粒を僅かに含む	ロクロ成形／底部は周辺ヘラ削り	底部破片	299D	平安 (８世紀後葉か)
図版28-46	須恵器 坏	高[1.0]	平底／還元炎焼成／産地不明	暗茶赤褐色	白色砂粒を含む	ロクロ成形／底部に回転糸切り痕が残る	底部破片	(E－1) G	平安 (９世紀後葉か)

第25表　遺構外出土古墳・平安時代土器一覧

挿図番号	銭貨名	外　径	方孔一辺	厚　さ	重　量	初鋳年	遺存状態	出土位置	備　考
第60図4	元？通寶	2.5	0.6	0.1	2.6	(北宋　1086)	完形品	９W	２文字目が不鮮明。元祐通寶か。
第63図1	至和通寶	2.6	0.6	0.1	3.0	北宋　1054	完形品	183 P	
第63図2	元祐通寶	2.5	0.6	0.1	2.3	北宋　1086	完形品	183 P	
第65図50	元豊通寶	2.4	0.6	0.1	3.0	北宋　1078	完形品	(D－3) G	

（単位：cm，g）

第26表　銭貨一覧

第６章　調査のまとめ

第１節　　西原大塚遺跡第207地点の調査成果

（１）弥生時代後期～古墳時代前期の遺構について

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構としては、住居跡３軒（597～599号住居跡）と方形周溝墓１基（35号方形周溝墓）が検出された。これらの新旧関係は、各遺構の切り合いから、①599号住居跡→597号住居跡→35号方形周溝墓、②599号住居跡→598号住居跡と判明している。

住居跡の構造であるが、３軒すべてから炉跡を確認することができた。すべて地床炉で、住居中央よりやや北壁に近い位置に寄っている。主柱穴は597・598号住居跡でコーナー部分から検出されている。599号住居跡からは検出されなかったため、主柱穴をもたない小型住居として捉えられるかもしれない。また、597・599号住居跡では、南壁寄りに凸堤が確認でき、599号住居跡からは凸堤内側に貯蔵穴を確認することができた。599号住居跡の貯蔵穴すぐ右側の壁際には、祭壇状遺構と考えられる赤色砂利層の検出があった。

また、598号住居跡からは、かなりまとまって炭化材が出土している。これらは床面上より２～３㎝程度浮いた状態で出土した。北東コーナーの炭４～12は板状を呈しており、住居の壁際から中央に向かって傾斜した状態で出土している。分析の結果としては、特に板状に出土した炭化材は、イネ科の草本であり、「これらはほぼ床面から出土しているため、住居の床に敷いてあった可能性が考えられる。」と分析されている。

35号方形周溝墓については、今回の調査範囲の中ではその全容は確認できなかった。調査された範囲での規模は、北溝で東西方向に9.3ｍの長さをもつことから、市内最大規模に匹敵する可能性がある。また、北溝からは溝内土坑が検出されている。長軸方向としては、周溝北溝とほぼ同じで、規模は長軸2.28m、短軸1.02mの長方形を呈した大形土坑である。市内における溝内土坑の検出例としては、今回のような大形のものではないが、西原大塚遺跡第８地点の１号方形周溝墓から５基（39～43号土坑）が検出されており、そのうち41号土坑からは管玉３点が出土している（尾形・佐々木　1990）。また、西原大塚遺跡第11地点の２号方形周溝墓の東溝中央からは、１号壷棺墓が検出され、完形品の壷が出土している（尾形・佐々木　1991）。

（２）弥生時代後期から古墳時代前期の土器について

597号住居跡（第26図１～15）

器種構成としては、壷・甕である。まず壷であるが、１は口縁部から頸部にかけての破片であるが、口縁部は幅広の複合口縁を呈し、複合部には羽状縄文と棒状貼付文・円形赤彩文が施文されるものである。特に棒状貼付文については、一周４箇所に付されているが、一単位の棒状貼付文の本数がすべて同じではなく、５本・６本・７本・８本と５本のものを起点とした場合、左回りで１本ずつ増えるという特異なものである。頸部には円形貼付文と自縄結節文の一部が残っており、東京湾沿岸の特徴をもつ土器と考えられる。

甕については、2が脚台部を欠損するが、胴部上半から口縁部にかけて、まだ「く」の字形に屈曲せず、口縁部にも35号方形周溝墓出土の10のように横ナデが施されないことから、弥生時代後期の範ちゅうでよいものであろう。12は口唇部に刻み目が施されないものも存在するようである。

以上、本住居跡出土土器については、全体に東海系の特徴をもつ土器がなく、甕12のような口唇部に刻み目がないものも存在することから、西原大塚遺跡における第2期（尾形　2000）の弥生時代後期後葉（新）に位置付けられる。

598号住居跡（第29図1～11）

器種構成としては、壷・甕である。全体に文様をもつ土器も少なく、特徴をまとめることが難しいが、2～4の幅狭の複合口縁や5の幅広の複合口縁をもつ壷や10のように口唇部に刻み目が付されてない甕があることから、597号住居跡と時期差はあまりなさそうである。時期は弥生時代後期後葉であろう。

599号住居跡（第31図1～4）

器種構成としては、壷・甕である。1・2は台付甕の脚台部のみの破片で、底部はやや内湾気味を呈している。3の壷の胴部文様は端末結節文を伴う単節斜縄文に2個の円形貼付文が付されるものである。

この住居跡については、597・598号住居跡と新旧関係にあり、両住居跡に切られていることが判明していることから、ここでは、西原大塚遺跡における第1期と第2期の中間に位置するものとし、時期は弥生時代後期後葉（古）に位置付けることとしたい（尾形　2000）。

35号方形周溝墓（第34図1～16、第35図17～21）

比較的にまとまって土器が出土した住居跡で、器種構成としては、壷・高坏・甕である。全体的な内容としては、5の土器が、東海地方西部の特徴をもつ櫛描文施文の壷であるが、全体に廻間編年（赤塚1990）に対応できる東海系の特徴をもつ土器がまとまって出土していない。

まず壷であるが、5・9に関しては底部穿孔の土器であるが、3の無頸壷については破損しているが底部穿孔ではないかもしれない。壷については、ほとんど破片であるため、ここでは、5の土器について簡単にまとめることとする。この土器は、胴部に1帯の文様帯をもち、文様は櫛状工具による直線文と波状文の組み合わせで構成されている。文様の順位は上から下へ施文されている。この文様と同様な櫛描文をもつ壷については、市内では西原大塚遺跡第278号住居跡・22号方形周溝墓（佐々木・内野・宮川　2009）・西原大塚遺跡第45地点19号方形周溝墓（佐々木・内野・宮川他　2000）・富士前遺跡（志木市　1984）出土の壷がある。しかし、今回の壷は278号住居跡例のように口縁部が内湾気味に直立するような全体に甕形の器形を呈するものではなく、さらに19号方形周溝墓例のような二重口縁壷ではなく、口頸部は逆「ハ」の字形に外傾し、幅狭の複合口縁に3本一単位の棒状貼付文が付されることから、東海系と在地系の折衷様であるように思われる。

甕については、10の口縁部は「く」の字形を呈し、口唇部に刻み目もなく、さらに口縁部外面に明瞭な横ナデが施されることから、大まかに古墳時代前期に含まれるであろう。

以上、35号方形周溝墓出土土器については、西原大塚遺跡における方形周溝墓出土土器をまとめた宮川編年（宮川　2003）にあてはめると、V期（古墳時代前期1段階新相）に比定できそうである。

第2節　中野遺跡第95地点の調査成果

（1）T字形の火葬土坑について

T字型の火葬土坑は、今回の調査において、5基（274・284・311・316・318号土坑）検出され、志木市内では初めての発見につながった。

この火葬土坑の検出については、近隣において、さいたま市大久保領家片町遺跡（青木・山田他1996）・同市大古里遺跡（小倉・柳田他　2001a・2001b）などですでに知られているところであるが、近年では、埼玉県熊谷市（旧大里郡大里町）下田町遺跡Ⅱの調査報告書の中で、赤熊浩一氏により、埼玉県内の中世の火葬土坑について詳細にまとめられている（赤熊・岡本・松岡　2005）。

そのため、ここでは、下田町遺跡Ⅱでまとめられた内容と本地点の例を比較することとする。

①埼玉県内での火葬土坑の検出数

下田町遺跡Ⅱによると、埼玉県内では、41遺跡209基の火葬土坑が検出され、そのうち、T字形の火葬土坑は35遺跡111基の検出例がある。

②火葬土坑と土坑墓の関係

大古里遺跡の例では、舌状台地上に立地し、南北を溝で区切られた墓壙群として検出されており、少なくとも火葬土坑71基と土壙墓121基で構成されている。時期は14世紀前半に墓域が形成されとみられ、土壙墓と火葬土坑が切り合うところでは、すべて土壙墓が切っているため、火葬から土葬へ移行した時期とも考えられている。

中野遺跡第95地点では、明確に土壙墓として認識できるものはなかったが、本地点の南隣りの第49地点から人骨を伴う土坑墓1基（67D）が検出されている。この土坑墓は、今回の調査により同段切状遺構内からの検出であることが判明したため、火葬土坑と関連があることは確かであろう。時期については、5基から出土したすべての炭化材を速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定をおこなったところ、「暦年代範囲は、274号土坑と284号土坑、316号土坑が鎌倉時代～室町時代、311号土坑と318号土坑が室町時代」という結果が出ている。

③火葬土坑の規模

火葬土坑の規模は、下田町遺跡Ⅱでは、長軸80㎝～130㎝、短軸30～55㎝の範囲におさまっているということである。

中野遺跡第95地点の5基の規模は、274D：長軸114㎝・短軸55㎝、284D：長軸142㎝・短軸58㎝、311D：長軸125㎝・短軸57㎝、316D：長軸98㎝・短軸61㎝、318D：長軸（82㎝）・短軸52㎝であった。下田町遺跡Ⅱと比べ、長軸は284Dが142㎝と大きく、その他318Dは調査区範囲内に収まらなかったため不明であるが、残り3基はほぼ範囲内にあてはまる。短軸は最大値55㎝を超えるものが5基中4基あり、やや大きい傾向を示している。30㎝・40㎝台は存在しなかった。

④火葬土坑の主体部長軸方向

大古里遺跡の例での火葬土坑の主体部長軸方向は、南北方向をとることから北枕の可能性が示唆されている。下田町遺跡Ⅱにおける長軸方向についても南北方向であるが、この方向は近くの溝に平行して沿うように構築されていた可能性が指摘される。さらに第21号火葬土坑の人骨の状況から「北枕で安置された可能性」もあると見られている。

中野遺跡第95地点でも５基すべてが南北方向をとり、同様の結果と言える。また、焚き口である突出部の設置方向については、東西のどちらかになるが、本地点では、５基のうち２基（274・316Ｄ）が西側に、３基（284・311・318Ｄ）が東側に設けられている。これについては、段切状遺構内での位置に関係するものと思われる。具体的には、西側に突出部をもつ274Ｄはすぐ東側の（Ｅ－１・２）グリッドに、東側に突出部をもつ311・318Ｄはすぐ西側（Ｂ－１・２）グリッドにそれぞれ段切面が存在し、地形的な制約があったものと想像される。また、284・316Ｄは段切状遺構のほぼ中央の（Ｃ－１・２）グリッドに位置するため、284Ｄは東側に、316Ｄは西側というように２基は反対方向を示すことから、前述の制約はなかった可能性がある。ただし、火葬土坑の本来の構造や建物の有無及び配置、煙が立つ方向であるとか土地の区画割や所有など、上記以外の様々な要因が働いていたことも想定して検討する必要があるであろう。

⑤人骨について

下田町遺跡Ⅱでは、29基のうち20基で人骨が出土している。そのうち火葬土坑については、人骨の分析が行われており、火葬土坑１基から検出される人骨は１体分と判断されている。人骨は頭骨や主要四肢骨などで大きな骨は認められなかったため、「拾骨」が行われた結果であろうとしている。また、性別・推定年齢については、成人男性が２遺体、男性の可能性があるものが２遺体、女性の可能性があるものが３遺体ということで、基本的に被葬者の性別は限定できないようである。推定年齢については、多くは成人と判断されているが、小児や10代のなども見受けられるが、確実に40代以上はなかったということである。

中野遺跡第95地点でも５基すべての人骨について分析を行った結果、「骨の一部は焼かれた後に遺構外へ持ち出された可能性が考えられる」と指摘されている。すなわち「拾骨」が行われたということであれば、下田町遺跡Ⅱと同じ状況と言えるであろう。また、性別・推定年齢については、特定には至らなかったが、唯一374Ｄの人骨に関しては、「年齢の詳細は不明であるが、頭蓋骨の縫合が未癒合である点から、高齢の老人ではないであろう」と分析されている。

⑥炭化材の出土状況について

炭化材は火葬に必要な燃料材と考えられるが、出土状況について、下田町遺跡Ⅱでは特徴付ける内容の分析がなかったため、ここでは中野遺跡第95地点での炭化材の出土状況で気になった点をいつくか列記することとする。

１．炭化材は主体部長軸方向と同じ向きに並べられている状況であるが、今回の５基では、坑底面に２本の横木状の丸木を短軸方向に向けて設置していたことが、特徴的であると言える。おそらく、最初に太めの２本の丸木を主体部の短軸方向の中央窪みである通気溝のすぐ縁に置き、その上部に長軸方向に合わせ燃料材を渡したと思われる。

　鶴ヶ島市お寺山遺跡のＥ地点№60火葬墓の主体部の南北端坑底面から２個ずつ石が並んで出土している例（玉利・西川　1985）も燃料材を坑底から浮かし、空気の通りを良くするために設置されたのではないだろうか。こうした違いは地域差として捉えられる可能性がある。

２．炭化材と人骨片との層位的な上下関係であるが、人骨は炭化材の上部から出土していることは間違いない。このことから、遺体の下部に燃料材が敷かれていたことがわかる。炭化材の樹種同定の結果、274・284・311・316Ｄからはエノキ属とマダケを含むタケ亜科、318Ｄではエノキ属とクリ、マダケを含むタケ亜科と特定されている。そのうちエノキ属とクリは燃料材として使用されたと考えられる。また、「マダケを含むタケ亜科は、燃料材の一部であったか、遺体を安置もしくは運搬する道具であった可能性が考えられる。」と分析されている。

川口市（旧鳩ヶ谷市）辻字宮地第2遺跡の第1号火葬跡では、大半が広葉樹のエノキ属とタケ類からなり、ケヤキは僅かであると分析結果が示されており、特にタケ類については、『民俗学事典』にある「新潟県などでは、火葬場に建物がなかった頃、その都度、野天に四本の丸太を立て、竹で屋根をふいた臨時の火隠しと呼ばれるものを作って、そこで死體を焼いたりした」の内容に着目され大変興味深いところである（黒済他　2001）。しかし、本地点でマダケを含むタケ亜科がまとまって出土した316Dから考えて、それらは上記1の横木状の丸木の上を覆い、坑底面の隅にまで広がっていることがわかる。そして、その上に燃料材と考えられる炭化材が主体部の長軸方向に敷かれていることであれば、屋根材に使用されたタケ類が人骨や燃料材などの下部から出土することは理解できないところである。

以上、T字形の火葬土坑についてまとめてみたが、今回検出された中世以降の遺構は、基本的に段切状遺構に関連するとの見方をしてきた。しかし、段切状遺構の外側でも井戸跡1基（10W）・地下室2基（299・310D）が存在していることや第49地点の段切状遺構の外側から中世の井戸跡6基（3～6W）・地下室1基（71D）が検出されていることから、これらの一連の遺構を単に段切状遺構のみの問題として捉えることは間違っているものであろう。これについては、大古里遺跡やお寺山遺跡の例のように「墓域」としての認識において、一定範囲内から火葬土坑と土坑墓がまとまって検出されていることを鑑みると、この一帯、つまり当時の「中野村」の実態を解明することが、こうした一連の遺構を追究することにつながるものと確信する。

[引用・参考文献]

青木義脩・山田尚友他　1996「大久保領家片町遺跡発掘調査報告書（第8地点）」浦和市遺跡調査会報告書第205集　浦和市遺跡調査会

赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子　2005『下田町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集　国土交通省　関東地方整備局　財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

赤塚次郎　1990『廻間遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター

江戸遺跡研究会編　2001『図説　江戸考古学研究事典』柏書房

尾形則敏・佐々木保俊　1990『志木市遺跡群Ⅱ』志木市の文化財第14集　埼玉県志木市教育委員会

1991『志木市遺跡群Ⅲ』志木市の文化財第16集　埼玉県志木市教育委員会

尾形則敏・溪井恵子・青木　修　2004『中野遺跡第49地点―東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告―』志木市遺跡調査会調査報告第7集　埼玉県志木市遺跡調査会

2005『城山遺跡第42地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集　埼玉県志木市遺跡調査会

尾形則敏　2000「第5章　まとめ」『志木市遺跡群10』志木市の文化財第28集　埼玉県志木市教育委員会

小倉　均・柳田博之他　2001a「大古里遺跡発掘調査報告書（第20地点）」浦和市遺跡調査会報告書第300集　浦和市遺跡調査会

2001b「大古里遺跡発掘調査報告書（第24地点）」浦和市遺跡調査会報告書第301集　浦和市遺跡調査会

黒済和彦他　2001「辻字宮地第2遺跡」鳩ヶ谷市埋蔵文化財調査報告書第18集　埼玉県鳩ヶ谷市教育委員会

佐々木保俊・内野美津江・宮川佳幸他　2000『西原大塚遺跡第45地点　発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第6集　埼玉県志木市遺跡調査会

2009『西原大塚遺跡Ⅰ～Ⅲ』志木市遺跡調査会調査報告第13集　埼玉県志木市遺跡調査会

志木市　1984『志木市史　原始・古代資料編』

玉利秀雄・西川　制他　1985『お寺山遺跡　発掘調査報告書』鶴ヶ丘古墳お寺山遺跡発掘団　鶴ヶ島町教育委員会

林田利之　1993『千葉県成田市駒井野荒追遺跡』（財）印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第64集　東都自動車株式会社

宮川佳幸　2003『埼玉考古　第38号　弥生時代特集』埼玉考古学会

［付　編］

自 然 科 学 分 析

Ⅰ　西原大塚遺跡第207地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市に所在する西原大塚遺跡の第207地点から出土した炭化材について樹種同定を行った。

2．試料と方法

試料は598号住居跡から出土した炭化材12点である。遺構の時期は弥生時代末～古墳時代前期と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3．結果

樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節（コナラ節）と単子葉類のイネ科草本の、計2分類群が確認された。結果の一覧を第27表に示す。なお、炭11の試料は状態が悪く同定不能であったが、同一試料を用いて植物珪酸体分析が行われている（植物珪酸体分析の項参照）。

遺　構	No.	樹　種	形　状
598号住居跡	炭1	コナラ属コナラ節	不明
	炭2	コナラ属コナラ節	不明
	炭3	イネ科草本	不明
	炭4	イネ科草本	不明
	炭5	イネ科草本	不明
	炭6	イネ科草本	不明
	炭7	イネ科草本	不明
	炭8	イネ科草本	不明
	炭9	イネ科草本	不明
	炭10	イネ科草本	不明
	炭11	同定不能	不明
	炭12	イネ科草本	不明

第27表　樹種同定結果一覧

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（1）コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版29　1a-1c（炭1）、2a-2c（炭2）

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

（2）イネ科　Poaceae　図版29　3a（炭4）

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱で、維管束を囲む維管束鞘は薄い。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。今回の試料は破損しているが小

径と思われ、組織の維管束鞘も薄いため、草本と判断した。

4．考察

598号住居跡から出土した炭化材は、炭1と炭2がコナラ節であった。この2点は住居跡の中央部付近の隣接した位置から出土しているため、同一個体の可能性もある。関東地方の弥生時代～古墳時代前期の住居跡ではコナラ節やクヌギ節が多く確認されており（伊東・山田編　2012）、周辺地域の木材利用傾向と一致している。それ以外の炭3～10と炭12はイネ科の草本であった。ほぼ床面から出土しているため、住居の床に敷いてあった可能性が考えられる。

[参考・引用文献]
平井信二　1996『木の大百科』394p　朝倉書店
伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』449p　海青社

Ⅱ　西原大塚遺跡第207地点の住居跡採取の灰の植物珪酸体

米田恭子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

西原大塚遺跡第207地点で検出された弥生時代後期後葉の住居跡から灰が採取された。ここでは、灰の母植物を調べる目的で植物珪酸体分析を行った。以下に、分析結果を記す。

2．試料と方法

試料は、598号住居跡の床面より採取された炭化材（試料No.炭11）に伴う灰（分析No.1）である。遺構の時期は、弥生時代後期後葉である。

試料の白色部分をデジタルマイクロスコープ（KEYENCE VHX-1000）で観察したところ、イネ科とみられる灰化した植物片が複数観察された。そこで、灰をピンセットで一つまみ採取して、グリセリンで封入したプレパラートを3枚作製した後、生物顕微鏡（300～600倍）でプレパラートを全面観察し、機動細胞珪酸体を中心とした植物珪酸体の観察を行った。

3．観察の結果

観察の結果を第28表・図版30に示す。

プレパラート3枚を検鏡した結果、連結した状態のウシクサ族の機動細胞珪酸体が最も多く観察され

分析No.	試料No.	遺跡名・地点名	遺構	時期	採取位置	機動細胞珪酸体	短細胞珪酸体	イネ籾殻の珪酸体	不明植物珪酸体
						ウシクサ族	キビ型		棒状型
1	炭11	西原大塚遺跡第207地点	598号住居跡	弥生時代末～古墳時代前期	床面	◎	△	△	○

第28表　598号住居跡の灰試料と植物珪酸体の検出状況（◎：多く検出、○検出、△わずかに検出）

た。また、イネの籾殻に形成される珪酸体とキビ型の短細胞珪酸体列もわずかに観察された。このほかに、棒状型の不明植物珪酸体が観察された。棒状型の不明植物珪酸体は、すべてのイネ科植物に類似した形態の植物珪酸体が形成されるため（近藤　2010）、由来した分類群の同定は難しい。

4. 考察

弥生時代後期後葉の598号住居跡の床面から採取された灰（分析No.1）の母植物について検討した結果、灰の主体はススキやチガヤなどのウシクサ族で、イネの籾殻の珪酸体がごくわずかに含まれていた。住居跡の床面からウシクサ族が主体の灰が検出された背景としては、住居の屋根材や壁材に利用されていた植物が崩れ落ちて燃えた可能性や、敷物などに利用されていたウシクサ族主体の植物が燃えた可能性などが挙げられる。わずかに含まれたイネの籾殻の灰については、何らかの理由で住居内に持ち込まれた籾殻が燃えた可能性や、外で燃やされた籾殻の灰が住居内に持ち込まれた可能性などが挙げられる。

[引用文献]
近藤錬三　2010『プラント・オパール図譜』167p　北海道大学出版会

Ⅲ　中野遺跡第95地点出土炭化材の放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・黒沼保子

はじめに

志木市に所在する中野遺跡の第95地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同じ試料を用いて樹種同定も行われている（樹種同定の項参照）。

試料と方法

試料は、火葬土坑274号土坑、284号土坑、311号土坑、316号土坑、318号土坑から出土した炭化材5点である。5点とも最終形成年輪が残存していた。調査所見から、遺構の時期は中世と推測されている。

測定試料の情報、調製データは第29表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

結果

第30表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って

遺　構	No.	樹　種	形　状
PLD-32917	遺構：274号土坑 遺物No.炭3	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-32918	遺構：284号土坑 遺物No.炭6	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-32919	遺構：311号土坑 遺物No.炭7	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-32920	遺構：316号土坑 遺物No.炭1	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）
PLD-32921	遺構：318号土坑 遺物No.炭6	種類：炭化材（エノキ属） 試料の性状：最終形成年輪 状態：dry	超音波洗浄酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N,水酸化ナトリウム：1.0N,塩酸：1.2N）

第29表　測定試料および処理

測定番号	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正用年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-32917 274号土坑	-20.92±0.30	547±19	545±20	1330-1340calAD (13.6%) 1397-1420calAD (54.6%)	1321-1349calAD (26.8%) 1391-1428calAD (68.6%)
PLD-32918 284号土坑	-23.27±0.19	601±18	600±20	1310-1329calAD (27.0%) 1340-1360calAD (28.8%) 1387-1396calAD (12.4%)	1300-1369calAD (74.2%) 1381-1405calAD (21.2%)
PLD-32919 311号土坑	-25.09±0.20	517±17	515±15	1411-1429calAD (68.2%)	1405-1436calAD (95.4%)
PLD-32920 316号土坑	-24.54±0.17	533±17	535±15	1405-1424calAD (68.2%)	1330-1340calAD (5.2%) 1396-1433calAD (90.2%)
PLD-32921 318号土坑	-26.44±0.22	514±18	515±20	1412-1430calAD (68.2%)	1405-1438calAD (95.4%)

第30表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、暦年較正結果を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.2（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦

年較正曲線を示す。

考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち2σ暦年代範囲（確率95.4%）に着目して、結果を整理する。また、マルチプロット図を第67図に示す。

284号土坑出土の炭化材（PLD-32918）は、1300-1369 cal AD（74.2%）および1381-1405 cal AD（21.2%）で、13世紀末～15世紀初頭の暦年代を示した。

274号土坑出土の炭化材（PLD-32917）は、1321-1349 cal AD（26.8%）および1391-1428 cal AD（68.6%）で、14世紀前半～中頃および14世紀末～15世紀前半の暦年代を示した。

316号土坑出土の炭化材（PLD-32920）は、1330-1340 cal AD（5.2%）および1396-1433 cal AD（90.2%）で、14世紀前半および14世紀末～15世紀前半の暦年代を示した。

311号土坑出土の炭化材（PLD-32919）は、1405-1436 cal AD（95.4%）で、15世紀初頭～前半の暦年代を示した。

318号土坑出土の炭化材（PLD-32921）は、1405-1438 cal AD（95.4%）で、15世紀初頭～前半の暦年代を示した。

今回の年代測定で得られた暦年代範囲は、274号土坑と284号土坑、316号土坑が鎌倉時代～室町時代、311号土坑と318号土坑が室町時代に相当する。したがって、調査所見による推定時期である中世に対して整合的であった。

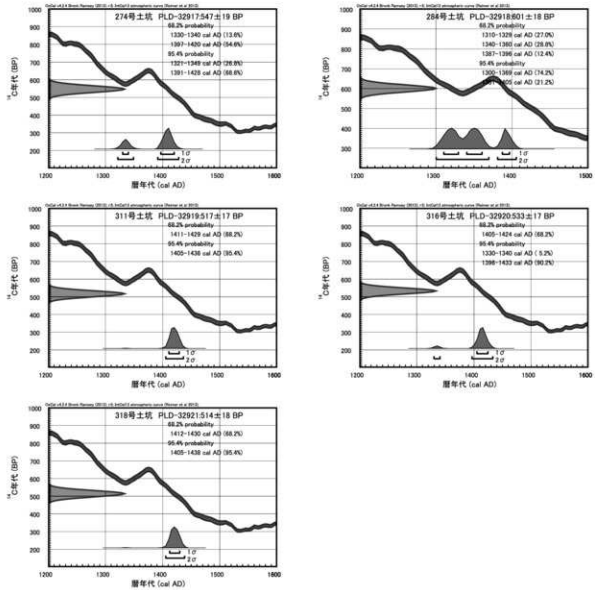
木材は最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。試料はいずれも最終形成年輪を有しており、測定結果は木材の伐採時期を示している。

[参考文献]

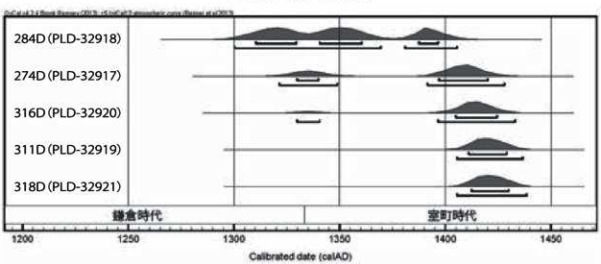
Bronk Ramsey, C　2009『Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon　51(1)』337-360

中村俊夫　2000『日本先史時代の^{14}C年代』『放射性炭素年代測定法の基礎　日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編』3-20　日本第四紀学会

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.



第 66 図　暦年較正結果



第 67 図　マルチプロット図

Ⅳ　中野遺跡第95地点出土炭化材の樹種同定

黒沼保子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

志木市に所在する中野遺跡第95地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2．試料と方法

試料は火葬土坑274号土坑、284号土坑、311号土坑、316号土坑、318号土坑から出土した炭化材208点である。遺構の時期は中世と推測されており、各火葬土坑から1点ずつおこなわれた炭化材の年代測定も整合的な結果を示した。

樹種同定に先立ち、肉眼観察で形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、実体顕微鏡観察で大まかな分類群に分け、各分類群から電子顕微鏡観察用の試料を抽出した。抽出して試料について、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1㎝の真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3．結果

樹種同定の結果、広葉樹のエノキ属とクリ、単子葉類のタケ亜科の3分類群が確認された。なお、タケ亜科のうち肉眼で節が観察できたものはマダケ属とした。遺構別の樹種同定結果を第31表、結果の一覧を第32表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

（1）エノキ属　Celtis　アサ科　図版31　1a-1c（274号土坑-炭4）

大型の道管が年輪のはじめに配列し、晩材部では径を減じた薄壁の小道管が集団をなして接線から斜めに配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状～翼状となる。道管の穿孔は単一である。小道管の内壁にらせん肥厚がみられる。放射組織は3～8列幅の異性で、鞘細胞がある。接線断面において放射組織と軸方向柔組織が層界状に配列する。

エノキ属は熱帯から温帯に分布する落葉性の小高木から高木で、エゾエノキやエノキなど4種がある。材は比較的硬いが、強度や耐朽性は低く、狂いが出やすい。

樹種／遺構	274号土坑	284号土坑	311号土坑	316号土坑	318号土坑	計
エノキ属	31	60	24	18	25	158
クリ					10	10
マダケ			9	3	1	13
タケ亜科	7	3	6	5	6	27
総　計	38	63	39	26	42	208

第31表　遺構別の樹種同定結果

遺構	No.	樹　種	形　状	サイズ	年輪数	備考
274号土坑	炭1	エノキ属	丸木	直径1.8cm	5	
	炭2	エノキ属	丸木	直径1.2cm	6	
	炭3	エノキ属	丸木	直径3cm	3	PLD-32917
	炭4	エノキ属	破片	＜2.5cm角	4	
	炭5	エノキ属	みかん割り状	半径2.5cm	7	
	炭6-1	エノキ属	丸木	直径2.8cm	10	
	炭6-2	タケ亜科	割裂	幅1.5cm	-	
	炭7	エノキ属	丸木	半径2.3cm	9	
	炭8	エノキ属	みかん割り状	半径2.7cm	11	
	炭9	エノキ属	丸木	直径2.2cm	13	
	炭10	エノキ属	破片	＜3cm角	2	
	炭11	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭12	タケ亜科	割裂	幅1.6cm	-	
	炭13	エノキ属	破片	＜6cm角	8	
	炭14	エノキ属	割材？	2×1.3×1.5cm	4	
	炭15	エノキ属	丸木	直径1.5-3.3cm	10	
	炭16	エノキ属	破片	＜2cm	5	
	炭17	エノキ属	丸木？	直径2.5cm	10	
	炭18	エノキ属	みかん割り状	半径5.5cm	10	
	炭19	エノキ属	破片	＜2cm角	5	
	炭20	エノキ属	丸木	直径6.3cm(加工痕)	10	
	炭21	エノキ属	みかん割り状	半径2.7cm	10	
	炭22	エノキ属	丸木	直径5.5cm(加工痕)	10	
	炭23	エノキ属	丸木	直径2.6cm	3	
	炭24	エノキ属	丸木	直径0.8cm	2	
	炭25	タケ亜科	不明	幅不明	-	
	炭26	エノキ属	丸木	幅2.5cm	10	
	炭27	タケ亜科	割裂	幅2.7cm	-	
	炭28-1	エノキ属	丸木	直径1.5cm	10	
	炭28-2	タケ亜科	割裂	幅1cm	-	
	炭29	エノキ属	丸木？	半径2cm	7	
	炭30	エノキ属	丸木？	半径2.2cm	7	
	炭31	タケ亜科	割裂	幅1.8cm	-	
	炭32	エノキ属	丸木	直径3.3cm	8	
	炭33	エノキ属	丸木	直径3.8cm	7	
	炭34	エノキ属	丸木	直径2.7cm	9	
	一括(No.なし)	タケ亜科	割裂	幅1.2-1.8cm	-	
	一括(No.なし)	エノキ属	丸木	直径0.3-0.8cm	2	
			破片	＜3cm角	6	
284号土坑	炭1	エノキ属	丸木？	直径2.1cm	5	
	炭2	エノキ属	みかん割り状	半径2.8cm	13	
	炭3	エノキ属	みかん割り状	半径1.4cm	5	
	炭4	エノキ属	破片	＜1.5cm角	6	
	炭5	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭6	エノキ属	丸木	直径0.5cm	3	PLD-32918
	炭7	エノキ属	丸木	直径0.5cm	3	
	炭8	エノキ属	破片	＜2cm角	2	
	炭9	エノキ属	破片	＜2cm角	4	
	炭10	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭11	エノキ属	みかん割り状	半径3cm	3	
	炭12	エノキ属	半割状	直径1.8cm	3	
	炭13-1	エノキ属	破片	＜1cm角	3	
	炭13-2	タケ亜科	不明	幅不明	-	

遺構	No.	樹　種	形　状	サイズ	年輪数	備考
284号土坑	炭14	エノキ属	丸木	直径0.5cm	2	
	炭15	タケ亜科	不明	幅不明	-	
	炭16	エノキ属	割れ	2.5×1×2.5cm	6	
	炭17	エノキ属	破片	＜5cm角	9	
	炭18	エノキ属	割れ	3×1.2×4cm	5	
	炭19	エノキ属	破片	＜4cm角	3	
	炭20	エノキ属	破片	＜3cm角	5	
	炭21	エノキ属	破片	＜3cm角	2	
	炭22	エノキ属	破片	＜3cm角	2	
	炭23	エノキ属	破片	＜2.5cm角	5	
	炭24	タケ亜科	割裂	幅1.3cm	-	
	炭25	エノキ属	破片	＜3cm角	8	
	炭26	エノキ属	丸木？	半径3cm	10	
	炭27	エノキ属	丸木	直径2.3cm	6	
	炭28	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭29	エノキ属	みかん割り状	半径2.2cm	11	
	炭30	エノキ属	丸木	直径3cm	9	
	炭31	エノキ属	丸木	直径5cm	13	
	炭32	エノキ属	丸木？	半径1.5cm	7	
	炭33	エノキ属	半割状	直径4cm	7	
	炭34	エノキ属	丸木	直径2.2cm	7	
	炭35	エノキ属	丸木	直径1.2cm	7	
	炭36	エノキ属	割れ	5×2×5cm	4	
	炭37	エノキ属	割れ	4×3×5cm	3	
	炭38	エノキ属	破片	＜2.5cm角	6	
	炭39	エノキ属	割れ	2×2×2cm	3	
	炭40	エノキ属	割れ	1.8×2×2.2cm	8	
	炭41	エノキ属	丸木	直径2.5cm	7	
	炭42	エノキ属	丸木？	半径0.8cm	5	
	炭43	エノキ属	丸木	直径0.8cm	3	
	炭44	エノキ属	丸木	直径0.5cm	3	
	炭45	エノキ属	破片	＜2.5cm角	5	
	炭46	エノキ属	丸木？	直径1cm	2	
	炭47	エノキ属	みかん割り状	半径1.2cm	5	
	炭48	エノキ属	丸木？	直径0.8cm	2	
	炭49	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3	
	炭50	エノキ属	丸木	直径2.1cm	7	
	炭51	エノキ属	丸木	直径2.2cm	8	
	炭52	エノキ属	丸木	直径3cm	6	
	炭53	エノキ属	丸木	直径4cm	9	
	炭54	エノキ属	丸木	直径1cm	3？	
	炭55	エノキ属	丸木	直径1.5cm	2	
	炭56	エノキ属	半割状	直径6cm	13	
	炭57	エノキ属	割れ	5×0.7×7cm	2	
	炭58	エノキ属	半割状	直径4.5cm	5	
	一括(No.なし)	エノキ属	破片	＜4cm角	7	
	一括(No.なし)	エノキ属	丸木	直径0.5cm	2	
	一括(No.なし)	エノキ属	破片	＜2cm角	4	
	一括(No.なし)	エノキ属	破片	＜4cm角	8	
311号土坑	炭1	エノキ属	半割状	直径7.5cm	10	
	炭2	エノキ属	みかん割り状	半径1.5cm	5	
	炭3	マダケ	割裂	幅1.5-3cm	-	PLD-32919
	炭4	エノキ属	丸木	直径5.5cm	5	

第32表　樹種同定結果一覧（1）

遺構	No.	樹　種	形　状	サイズ	年輪数	備考
311号土坑	炭5	エノキ属	丸木?	半径4cm	7	
	炭6	エノキ属	丸木	直径4cm	4	
	炭7	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3	
	炭8	エノキ属	丸木	直径1.2cm	3	
	炭9	エノキ属	丸木	直径1.6cm	3	
	炭10	エノキ属	破片	＜5cm角	6	
	炭11	エノキ属	丸木	直径0.7cm	3	
	炭12	タケ亜科	割裂	幅1cm	-	
	炭13	マダケ	割裂	幅2.3cm	-	
	炭14	エノキ属	丸木	直径1cm	7	
	炭15	タケ亜科	割裂	幅2.3cm	-	
	炭16	マダケ	割裂	幅1.7cm(加工痕あり)	-	
	炭17	マダケ	割裂	幅2.8cm	-	
	炭18	マダケ	割裂	幅1.1cm	-	
	炭19	タケ亜科	不明	幅不明	-	
	炭20	タケ亜科	不明	幅不明	-	
	炭21	エノキ属	破片	＜1.5cm角	3	
	炭22	エノキ属	破片	＜1.5cm角	3	
	炭23	エノキ属	丸木	直径2.5cm	3	
	炭24	エノキ属	丸木	直径4.5cm	6	
	炭25	エノキ属	半割状	直径2.5cm	4	
	炭26	エノキ属	丸木	直径2.8cm	5	
	炭27	エノキ属	丸木?	半径2.5cm	10	
	炭28	エノキ属	丸木?	半径3.5cm	10	
	炭29	タケ亜科	割裂	幅2cm	-	
	炭30	エノキ属	破片	＜2cm角	4	
	炭31	エノキ属	丸木?	半径3.5cm	6	
	炭32	エノキ属	破片	＜1.5cm角	2	
	炭33	エノキ属	丸木?	半径3cm	9	
	炭34-1	エノキ属	破片	＜2.5ｃ角	2	
	炭34-2	タケ亜科	不明	幅不明	-	
	炭35	マダケ	割裂	幅2.5cm	-	
	炭36	マダケ	割裂	幅2.5cm	-	
	炭37	マダケ	割裂	幅1.0-2.5cm	-	
	炭38	マダケ	割裂	幅2.5cm	-	
316号土坑	炭1	エノキ属	丸木	直径5cm(加工痕あり)	6	PLD-32920
	炭2-1	エノキ属	丸木	直径0.5-2.5cm	3	
	炭2-2	マダケ	割裂	幅0.8-2.2cm	-	
	炭3	マダケ	割裂	幅1.8cm	-	
	炭4	エノキ属	丸木	直径3.5cm	5	
	炭5	エノキ属	破片	＜5cm角	6	
	炭6	エノキ属	破片	＜1.5cm角	3	
	炭7	エノキ属	みかん割り状	半径5.5cm	7	
	炭8-1	エノキ属	丸木	直径1.7cm	5	
	炭8-2	タケ亜科	割裂	幅1.4cm	-	
	炭9	エノキ属	破片	＜1.5cm	2	
	炭10	エノキ属	破片	＜2.5cm	4	
	炭11	タケ亜科	割裂	幅2cm	-	
	炭12	タケ亜科	割裂	幅1.8cm	-	
	炭13	エノキ属	破片	＜2cm	4	
	炭14	エノキ属	割れ	3×3.5×4cm	5	
	炭15	エノキ属	みかん割り状	半径3.5cm	6	

遺構	No.	樹　種	形　状	サイズ	年輪数	備考
316号土坑	炭16	エノキ属	丸木?	半径5cm	10	
	炭17	エノキ属	丸木?	半径4.5cm	9	
	炭18	エノキ属	破片	＜4cm角	2	
	炭19	エノキ属	破片	＜3cm角	4	
	炭20	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭21	マダケ	割裂	幅2.5cm	-	
	炭22	タケ亜科	割裂	幅1.8cm	-	
	炭23	エノキ属	みかん割り状	半径2.5cm	8	
	炭24	タケ亜科	割裂	幅1.5cm	-	
318号土坑	炭1	エノキ属	半割状	4×2(半径)×11cm	3	
	炭2	エノキ属	破片	＜5cm角	3	PLD-32921
	炭3	エノキ属	破片	＜2cm角	2	
	炭4	エノキ属	破片	＜1cm角	2	
	炭5	エノキ属	割れ	1.5×1.5×2.5cm	2	
	炭6	エノキ属	みかん割り状	半径1.5cm	5	
	炭7	エノキ属	割れ	3×2×1.8cm	4	
	炭8	タケ亜科	割裂	1.8×1.6×2cm	-	
	炭9	クリ	破片	＜2cm	2	
	炭10	クリ	丸木?	直径4.5cm	4	
	炭11-1	エノキ属	破片	＜2cm角	2	
	炭11-2	タケ亜科	割裂	幅1.2cm	-	
	炭12	クリ	破片	＜3cm角	1	
	炭13	エノキ属	みかん割り状	半径3cm	2	
	炭14	エノキ属	破片	＜4cm角	3	
	炭15	エノキ属	割れ	3.5×0.5×3.5cm	不明	
	炭16	エノキ属	破片	＜2cm角	2	
	炭17	エノキ属	不明	2.5×0.3×3cm	不明	
	炭18	エノキ属	不明	4×0.3×2cm	不明	
	炭19	エノキ属	みかん割り状	3×1.3×3cm	4	
	炭20	クリ	破片	＜1.5cm角	1	
	炭21	クリ	破片	＜5cm角	10	
	炭22	クリ	破片	＜1.5cm角	4	
	炭23	クリ	破片	＜1cm角	1	
	炭24	エノキ属	割れ	3×2×4cm	3	
	炭25	クリ	破片	＜4cm角	2	
	炭26	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭27	タケ亜科	割裂	幅1.6cm	-	
	炭28	エノキ属	破片	＜2cm角	3	
	炭29	マダケ	割裂	幅1.7cm	-	
	炭30	エノキ属	割れ	2.7×1.2×2.2cm	3	
	炭31	エノキ属	みかん割り状	半径2.5cm	4	
	炭32-1	エノキ属	破片	＜1cm角	4	
	炭32-2	タケ亜科	割裂	幅1cm	-	
	炭33	エノキ属	破片	＜1.5cm角	3	
	炭34	エノキ属	丸木	直径0.5cm	不明	
	一括(No.なし)	エノキ属	丸木?	半径2cm	3	
		クリ	破片	＜3cm角	3	
	一括(No.なし)	タケ亜科	割裂	幅1.5cm	-	
	サンプリング	クリ	破片	＜1cm角	1	
	サンプリング	エノキ属	破片	＜1cm角	1	
		タケ亜科	割裂	幅1.5cm	-	

第32表　樹種同定結果一覧（2）

(2) クリ　Castanea crenata Siebold et Zucc.　ブナ科　図版31　2a-2c（318号土坑-炭9）

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) マダケ　Phyllostachys reticulata (Rupr.) K.Koch　稈　イネ科　図版31　3a、4（316号土坑-炭21）

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は一対の道管とそれと直行する原生木部間隙と師部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

肉眼観察では、稈の節は2環状で、下側の輪が鋭く、上側は緩く膨出している。残存径は1-2.5㎝程であるが、稈の湾曲が緩やかなため、元の直径は5～10㎝程と推測される。なお、節が観察できなかった試料は、タケ亜科までの同定とした。

4. 考察

274号土坑、284号土坑、311号土坑、316号土坑ではエノキ属とマダケを含むタケ亜科、318号土坑ではエノキ属とクリ、マダケを含むタケ亜科が確認された。エノキ属とクリは燃料材として使用されたと考えられる。燃料材としてのエノキ属とクリは、重硬なため着火性は悪いが、火持ちが良く火力も比較的大きくなる。形状は破片になってしまい元の形状がわからない試料もあるが、丸木やみかん割り状も多く、直径は0.5～7.5㎝、半径は5.5㎝以下であった。比較的小径であり、枝材や小径木が使用されたと推測される。また、マダケを含むタケ亜科は幅0.8～2.5㎝の割裂材であった。燃料材の一部であったか、遺体を安置もしくは運搬する道具であった可能性が考えられる。

埼玉県内では、本庄市大久保山Ⅱ遺跡（昆・佐々木・浅野他　1993）・大久保山Ⅵ遺跡（小澤　1996）、川口市（旧鳩ヶ谷市）辻字宮地第2遺跡（馬場・梶ヶ山・吉川他　2001）、ふじみ野（旧大井町）市本村遺跡（高崎・今井　2002）、熊谷市下田町遺跡Ⅱ（赤熊・岡本・松岡　2005）などで中世の火葬跡から出土した炭化材の樹種同定が行われており、クワ属やエノキ属、クリ、クヌギ節を中心とした広葉樹と、タケ亜科が確認されている（伊東・山田編　2012）。また、全国的にみると、遺跡別に特定の樹種が多く利用される例もあるが、広範囲の地域では様々な樹種が使用されており、遺跡周辺に生育していた樹木を比較的雑多に利用していた可能性がある。今回の分析で一番多く確認されたエノキ属は、丘陵から山地の日当たりのよい湿潤地を好む樹種である（平井　1996）。雑木林や人里近くにも多く生育するため、中野遺跡周辺にも多く生育していたと推測される。

[引用・参考文献]

赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子　2005『下田町遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第301集　国土交通省関東整備部
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
伊東隆夫・山田昌久編　2012『木の考古学－出土木製品用材データベース－』449p海青社
小澤正人　1996『大久保山　Ⅳ』早稲田大縛本庄校地文化財調査報告4　早稲田大学
昆　彭生・佐々木幹雄・浅野一郎他　1993『大久保山　Ⅱ』早稲田大縛本庄校地文化財調査報告2　早稲田大学
高崎直成・今井　堯　2002『町内遺跡群X』埼玉県大井町教育委員会

馬場悠雄・梶ヶ山真理・吉川昌伸他　2001『辻字宮地第２遺跡』埼玉県鳩ヶ谷市教育委員会
平井信二　1996『木の大百科』394p　朝倉書店

Ⅴ　中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨

中村賢太郎（パレオ・ラボ）

はじめに

中野遺跡第95地点の発掘調査では、火葬土坑が検出された。ここでは火葬土坑より出土した人骨の観察所見を記す。

試料と方法

試料は、中世末～近世初頭に属するT字形の火葬土坑5基から出土した人骨である。5基の火葬土坑は、274号土坑、284号土坑、311号土坑、316号土坑、318号土坑である。人骨は現場で採取された。

観察は肉眼で行った。

結果と考察

いずれの破片も白くなるまで焼けていた。いずれの破片も小さく、最大で10㎝に満たない。第33表に、部位、左右、部分・状態、数量、備考（観察所見）を記した。以下、遺構ごとに結果を示し、考察を行う。

（1）274号土坑（図版32－1）

頭蓋骨破片、左右不明の手第2、3、4指いずれかの末節骨、四肢骨破片が同定された。四肢骨の中には、収縮による亀裂が見られるものがあり、骨に軟質部が付着した状態で高温にさらされた可能性を示す。頭部や四肢などが見られる点から、ヒトの全身が焼かれたと考えられる。ただし、頭蓋骨の大部分や四肢骨の関節部が見られず、骨の一部は焼かれた後に遺構外へ持ち出された可能性が考えられる。性別は不明である。年齢の詳細は不明であるが、頭蓋骨の縫合が未癒合である点から、高齢の老人ではないであろう。

（2）284号土坑（図版32－2）

左頭頂骨の可能性がある頭蓋骨、その他頭蓋骨破片、左右不明の肋骨破片、左右不明の手第5指中節骨破片、四肢骨破片が同定された。頭蓋骨、肋骨、中節骨、四肢骨には、収縮による亀裂が見られるものがあり、骨に軟質部が付着した状態で高温にさらされた可能性を示す。頭部、胴部、四肢などが見られる点から、ヒトの全身が焼かれたと考えられる。ただし、上顎骨、下顎骨や四肢骨の関節部が見られず、骨の一部は焼かれた後に遺構外へ持ち出された可能性が考えられる。性別は不明である。年齢の詳細は不明であるが、頭蓋骨の縫合が未癒合である点から、高齢の老人ではないであろう。

（3）311号土坑（図版32－3）

四肢骨破片が同定された。なお、四肢骨とした中には肋骨破片が含まれている可能性がある。四肢骨には、収縮による亀裂が見られるものがあり、骨に軟質部が付着した状態で高温にさらされた可能性を

示す。四肢骨以外が見られないため、その他の部位は焼かれた後に遺構外へ持ち出されたと考えられる。性別と年齢は不明である。

(4) 316号土坑（図版32－4）

頭蓋骨破片、左右不明の肋骨破片、四肢骨破片、左右不明の手中手骨あるいは基節骨破片が同定された。四肢骨には、収縮による亀裂が見られるものがあり、骨に軟質部が付着した状態で高温にさらされた可能性を示す。頭部、胴部、四肢などが見られる点から、ヒトの全身が焼かれたと考えられる。ただし、頭蓋骨の大部分や四肢骨の関節部が見られず、骨の一部は焼かれた後に遺構外へ持ち出された可能性が考えられる。性別と年齢は不明である。

(5) 318号土坑（図版32－5）

左右不明で橈骨の可能性があるものを含む四肢骨が同定された。四肢骨には、収縮による亀裂が見られ、骨に軟質部が付着した状態で高温にさらされた可能性を示す。四肢骨以外が見られないため、その他の部位は焼かれた後に遺構外へ持ち出されたと考えられる。性別と年齢は不明である。性別と年齢は不明である。

遺　構	番　号	分類部	部　位	左　右	部分・状　態	数　量	備　考
274号土坑	骨33	ヒト	頭蓋骨	不明	破片	1	焼（白色）、縫合未癒合
	骨34		末節骨（手、第2／3／4指）	不明	ほぼ完存	1	焼（白色）
	骨10		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色）
	骨12		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色～灰色）
	骨17		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色～灰色）
	骨21		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）
	一括		四肢骨	不明	破片	2	焼（白色）、収縮（亀裂）
	骨1～34・一括		不明	不明	破片	多数	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）
284号土坑	骨13	ヒト	頭蓋骨（頭頂骨？）	左？	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）、縫合未癒合
	骨20		頭蓋骨	不明	破片	2	焼（白色～灰黒色）、縫合未癒合
	骨27		頭蓋骨	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）、縫合未癒合
	一括		頭蓋骨	不明	破片	1	焼（白色）、縫合未癒合
	骨7		肋骨	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）
	一括		中節骨（手、第5指）	不明	破片	1	焼（白色）
	骨2		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）
	骨12		四肢骨	不明	破片	6	焼（白色～黒色）、収縮（亀裂）
	骨20		四肢骨	不明	破片	2	焼（白色）、収縮（亀裂）
	骨34		四肢骨	不明	破片	1	焼（白色～黒色）、収縮（亀裂）
	骨1～38		不明	不明	破片	多数	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）
311号土坑	一括	ヒト	四肢骨	不明	破片	13	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）、肋骨片も混ざる？
			不明	不明	破片	多数	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）
316号土坑	一括	ヒト	頭蓋骨	不明	破片	1	焼（白色）
			肋骨	不明	破片	1	焼（白色）
			四肢骨	不明	破片	13	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）
			中手骨（手）／基節骨（手）	不明	破片	1	焼（白色）
			不明	不明	破片	多数	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）
318号土坑	一括	ヒト	橈骨？	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）
			四肢骨	不明	破片	1	焼（白色）、収縮（亀裂）
			不明	不明	破片	多数	焼（白色）、一部に収縮（亀裂）

第33表　中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨

図　　版

1．確認調査風景

2．基本土層

3．4号住居跡

4．4号住居跡掘り方

5．5号住居跡遺物出土状態

6．5号住居跡

7．5号住居跡掘り方

8．調査風景

1．6号住居跡遺物出土状態

2．6号住居跡遺物出土状態

3．6号住居跡

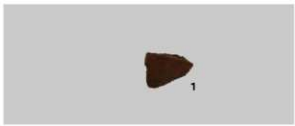
4．6号住居跡

5．6号住居跡貯蔵穴・P1

6．6号土坑

7．7号土坑

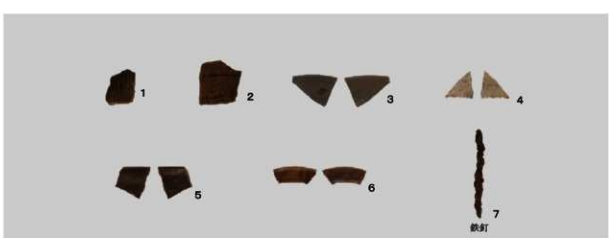
8．調査区全景（西から）



1．4号住居跡出土遺物

2．5号住居跡出土遺物

3．6号住居跡出土遺物



4．遺構外出土遺物

1. 調査前風景

2. 表土剥ぎ風景

3. 15・16号炉穴検出状況

4. 15号炉穴

5. 16号炉穴

6. 1056号土坑礫出土状態

7. 1056号土坑

8. 1057号土坑

1. 調査風景

2. 7号ピット遺物出土状態

3. 25号ピット

4. 27号ピット

5. 28・29号ピット

6. 32号ピット

7. 36号ピット

8. 50・51号ピット

1．調査区全景（西から）

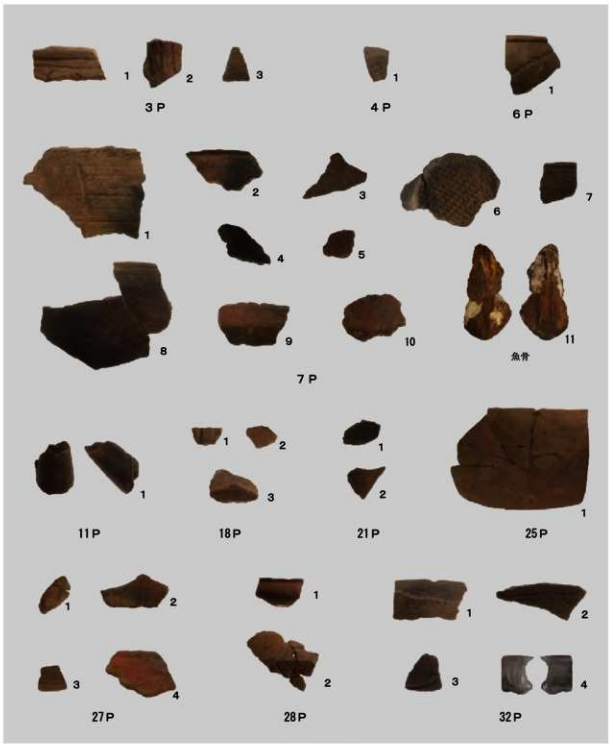
2．調査区北側（西から）

3．調査区中央付近（西から）

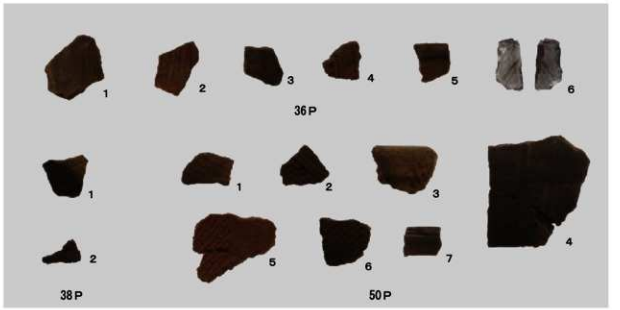
4．調査区南側（西から）

5．調査区南西隅（東から）

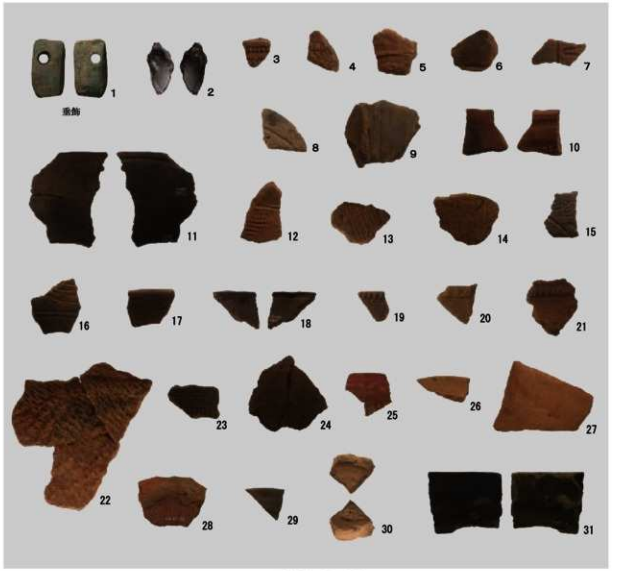
1．1056号土坑出遺物



2．ピット出土遺物1



1．ピット出土遺物2



2．遺構外出土遺物

1．西半部精査前風景

2．東半部精査前風景

3．南半部精査前風景

4．3～6号ピット

5．発掘風景

6．597号住居跡遺物出土状態

7．597号住居跡遺物出土状態

8．597号住居跡遺物出土状態

図版10　西原大塚遺跡第207地点

1．597号住居跡

2．597号住居跡

3．597号住居跡P3付近

4．597号住居跡炉跡

5．598号住居跡炭化材出土状態

6．598号住居跡炭化材出土状態

7．598号住居跡炉跡

8．598号住居跡

1．599号住居跡遺物出土状態

2．599号住居跡

3．599号住居跡

4．599号住居跡炉跡

5．35号方形周溝墓遺物出土状態

6．35号方形周溝墓遺物出土状態

7．35号方形周溝墓・749号土坑断面

8．35号方形周溝墓（南西から）

1．35号方形周溝墓（西から）

2．35号方形周溝墓

3．35号方形周溝墓・749号土坑

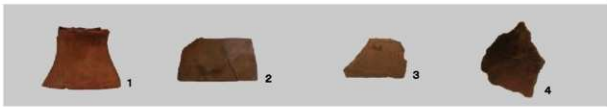
4．749号土坑

5．35号方形周溝墓（合成写真）

1. 5号ピット出土遺物

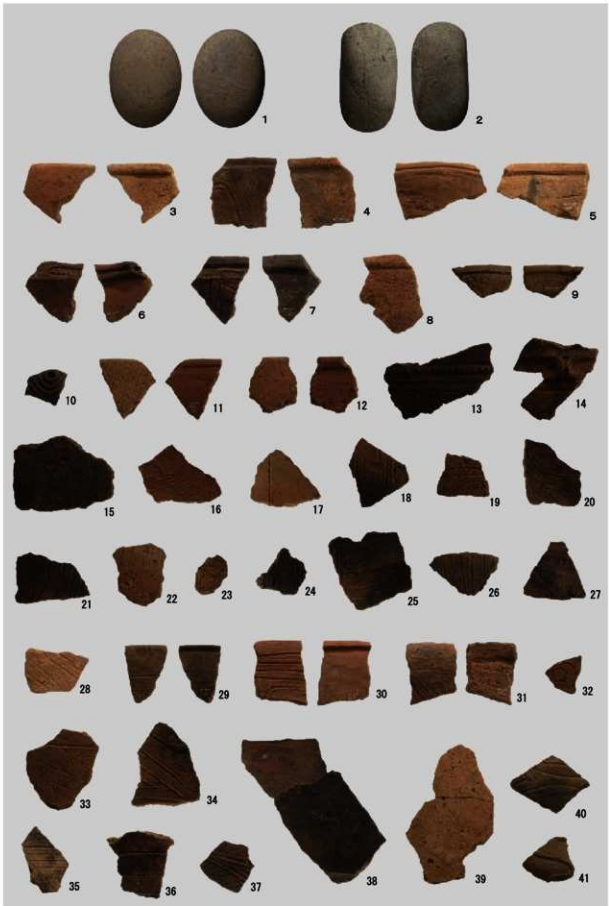
2. 597号住居跡出土遺物

3. 598号住居跡出土遺物



1．599号住居跡出土遺物

2．35号方形周溝墓出土遺物


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41

遺構外出土遺物

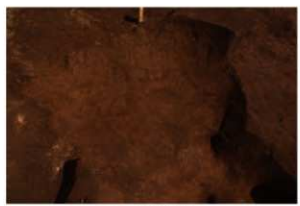
1．調査前風景

2．調査区東半表土剥ぎ風景

3．調査区東半遺構検出状況

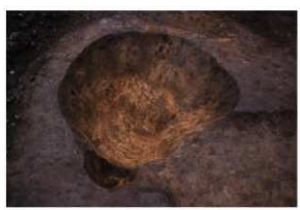
4．調査区反転風景

5．調査区西半遺構検出状況



6．48号炉穴

7．49号炉穴

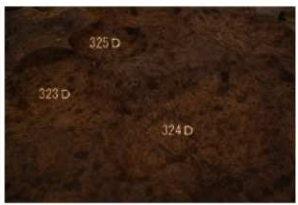


8．298号土坑

1．300号土坑

2．320号土坑

3．322号土坑



4．323～325号土坑

5．326号土坑

6．調査風景

7．82号住居跡焼土検出状況

8．82号住居跡

1．285号土坑

2．288号土坑

3．301号土坑

4．319号土坑

5．270号土坑（A群2類）

6．291号土坑（A群2類）

7．287号土坑土製品出土状態（B群1類）

8．302号土坑（B群2類）

1．309号土坑（B群2類）

2．277号土坑（B群3類）

3．280号土坑（B群3類）

4．281号土坑（B群3類）

5．278・283号土坑（B群3類）

6．303号土坑（B群3類）

7．304号土坑（B群3類）

8．305号土坑（B群3類）

1．307号土坑（B群3類）

2．312号土坑（B群3類）

3．313号土坑（B群3類）

4．314・315号土坑（B群3類）

5．275号土坑（C群）

6．276・282号土坑（C群）

7．279号土坑（C群）

8．296号土坑（C群）

1. 299号土坑（E群）

2. 299号土坑（E群）

3. 310号土坑（E群）

4. 310号土坑（E群）

5. 274号土坑骨・炭化材出土状態（F群）

6. 274号土坑炭化材出土状態（F群）

7. 274号土坑横木出土状態（F群）

8. 274号土坑（F群）

1．284号土坑骨・炭化材出土状態（F群）

2．284号土坑炭化材出土状態（F群）

3．284号土坑横木出土状態（F群）

4．284号土坑（F群）

5．311号土坑炭化材出土状態（F群）

6．311号土坑骨・炭化材出土状態（F群）

7．311号土坑横木出土状態（F群）

8．311号土坑（F群）

1. 316号土坑骨・炭化材出土状態（F群）

2. 316号土坑炭化材出土状態（F群）

3. 316号土坑横木出土状態（F群）

4. 316号土坑（F群）

5. 318号土坑骨・炭化材出土状態（F群）

6. 318号土坑炭化材出土状態（F群）

7. 318号土坑（F群）

8. 318号土坑（F群）

1. 9号井戸跡

2. 10号井戸跡

3. 15号溝跡

4. 47号ピット（平安）

5. 76号ピット（中世）

6. 77・78号ピット（中世以降）

7. 114号ピット（古墳）

1. 116号ピット（平安）

2. 179号ピット（古墳）

3. 183号ピット（中世）

4. 193号ピット（古墳）

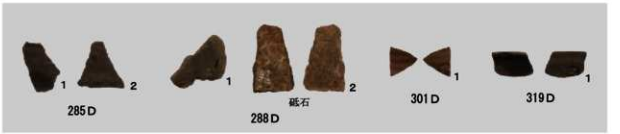
5. 調査区東半（東から）

6. 調査区東半（西から）

7. 調査区西半（東から）

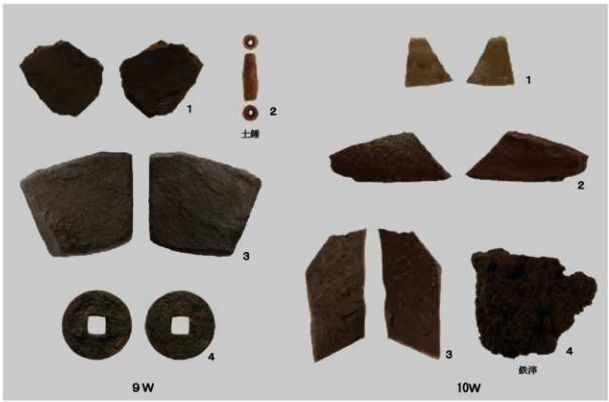
8. 調査区西半（北から）

1．298号土坑出土遺物



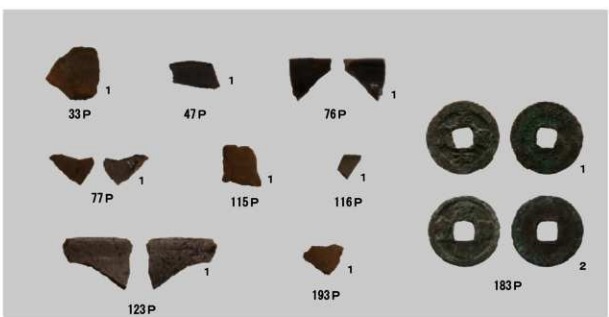
2．土坑出土遺物（平安）

3．土坑出土遺物（中世）



1．井戸跡出土遺物

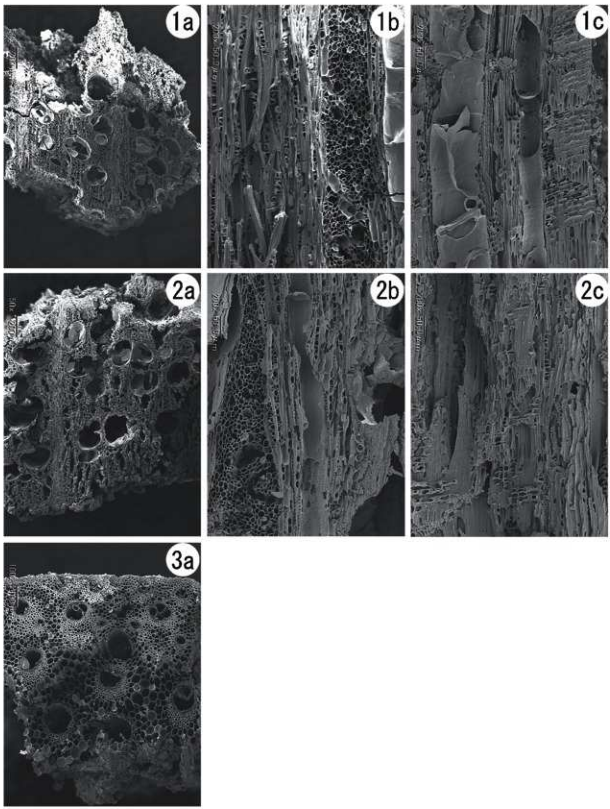
2．15号溝跡出土遺物



3．ピット出土遺物

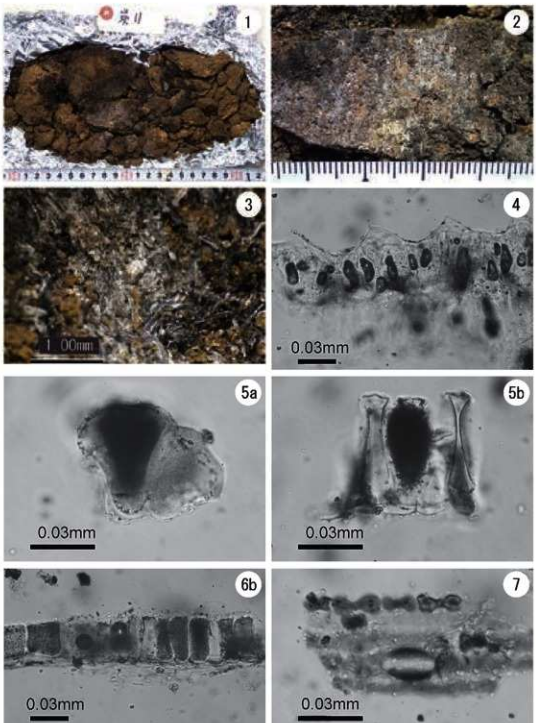
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
土錘
48
49
鉄製品
50

遺構外出土遺物



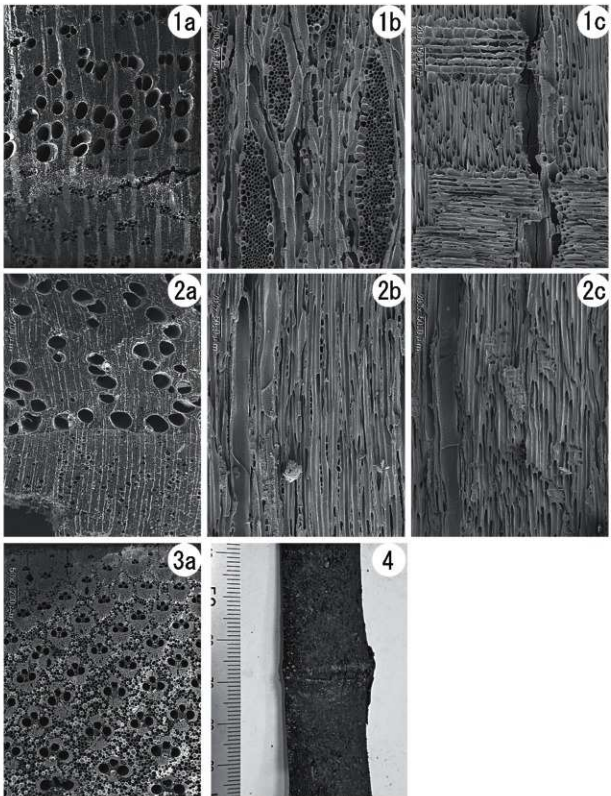
1a-1c. コナラ属コナラ節（炭1）、2a-2c. コナラ属コナラ節（炭2）、3a. イネ科草本（炭4）
a：横断面、b：接線断面、c：放射断面

西原大塚遺跡第207地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真



1．試料No.炭11、2．灰試料（分析No.1）、3．灰試料の部分拡大（分析No.1）、4．イネ籾殻の珪酸体、
5．ウシクサ族の機動細胞珪酸体、6．ウシクサ族の機動細胞珪酸体、7．キビ型知細胞珪酸体列
a：断面、b：側面

西原大塚遺跡第207地点の598号住小跡採取の灰試料と植物珪酸体



1a-1c. エノキ属(274号土坑-炭4)、2a-2c. クリ(318号土坑-炭9)、3a. マダケ(316号土坑-炭21)、4. マダケ(試料写真:316号土坑-炭21)
a:横断面、b:接線断面、c:放射断面

中野遺跡第95地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1

2

3

4

5

2cm

1.274号土坑出土人骨（左から頭蓋骨、手の第2、3、4指いずれかの末節骨、四肢骨）
2.284号土坑出土人骨（左から頭蓋骨、肋骨、手の第5指中節骨、四肢骨）
3.311号土坑出土人骨（四肢骨）
4.316号土坑出土人骨（左から頭蓋骨、肋骨、四肢骨、手の中手骨あるいは基節骨）
5.318号土坑出土人骨（左から橈骨？、四肢骨）

中野遺跡第95地点火葬土坑出土人骨

報 告 書 抄 録

ふりがな	いちばうらいせきだい23ちてん　しろやまいせきだい87ちてん　にしはらおおつかいせきだい207ちてん　なかのいせきだい95ちてん　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市場裏遺跡第23地点　城山遺跡第87地点　西原大塚遺跡第207地点　中野遺跡第95地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第68集
著者氏名	徳留彰紀　尾形則敏　青木　修
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL 048（473）1111
発行年月日	平成29（2017）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （°′″）	東経 （°′″）	調査期間	調査面積 （工事全体面積）	調査原因
市場裏遺跡 （第23地点）	志木市本町 1丁目1570-1	11228	09-015	35° 49′ 59″	139° 34′ 39″	20150427 ～ 20150515	36.73㎡ （139.81㎡）	分譲住宅建設
城山遺跡 （第87地点）	志木市柏町 3丁目2617-2	11228	09-003	35° 49′ 56″	139° 34′ 15″	20151001 ～ 20151016	115.70㎡ （389.83㎡）	共同住宅建設
西原大塚遺跡 （第207地点）	志木市幸町 2丁目6197-1・2	11228	09-007	35° 49′ 37″	139° 34′ 02″	20151021 ～ 20151118	152.09㎡	共同住宅建設
中野遺跡 （第95地点）	志木市柏町 1丁目1503-3	11228	09-002	35° 49′ 01″	139° 34′ 23″	20160222 ～ 20160513	578.97㎡	分譲住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市場裏遺跡 （第23地点）	集落跡	弥生時代後期～古墳時代前期 中世以降	土坑　1基 住居跡　3軒 土坑　1基	土器	6号住居跡からは小型単頸壷が出土した。
城山遺跡 （第87地点）	集落跡	縄文時代 古墳時代 近世以降	炉穴　2基 ピット　19本 遺構外 ピット　4本 土坑　1期 ピット　5本	土器・魚骨 垂飾 土師器	遺構外で硬玉製垂飾が出土した
西原大塚遺跡 （第207地点）	集落跡	縄文時代 弥生時代後期～古墳時代前期	ピット　5本 住居跡　3軒 方形周溝墓　1基 土坑　1基	土器 土器 土器	35号方形周溝墓の溝底から溝内土坑を検出した。
中野遺跡 （第95地点）	集落跡	縄文時代 古墳～平安時代 中世以降	炉穴　2基 土坑　9基 ピット　1本 住居跡　1軒 土坑　4基 ピット　8本 段切状遺構　1ヵ所 土坑　45基 （地下室　2基） （火葬土坑　5基） 井戸跡　2基 溝跡　1本 ピット　231本	土器 土師器・須恵器 土師器・須恵器	段切状遺構の底面から、平面T字形の火葬土坑を市内で初めて検出した。

要　約

市場裏遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡である。今回の第23地点の調査で、従来通り遺跡北側に集落域が広がっていることが追認された。

城山遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が検出される複合遺跡である。今回の第87地点では、縄文時代の炉穴やピットが多く検出され、また硬玉製垂飾が出土するなど、縄文時代の痕跡が特徴的であった。

西原大塚遺跡は、縄文時代中期の環状集落や弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡を主体とする遺跡である。今回の第207地点では、弥生時代後期の住居跡や古墳時代前期の方形周溝墓が検出された。

中野遺跡は、旧石器時代から近世までの遺構が検出される複合遺跡である。今回の第95地点の調査では、中世の段切状遺構とそれに伴う平面T字形の火葬土坑をはじめ、井戸跡や溝跡が検出されており、一帯に中世以降の痕跡が広がっていることが想定される。

志木市の文化財　第68集

市場裏遺跡第23地点
城山遺跡第87地点
西原大塚遺跡第207地点
中野遺跡第95地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日　平成29（2017）年3月31日
印　刷　株式会社 白 峰 社